

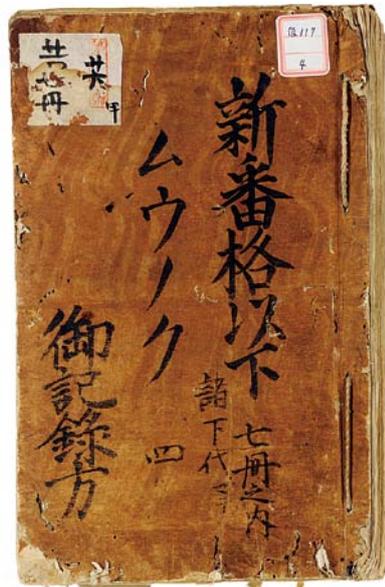
福井県文書館資料叢書 16

福井藩士履歴

8

新番格以下 1

イ〜リ



1 「新番格以下」(表紙)

松平文庫 福井県文書館保管

発刊にあたって

このたび福井県文書館資料叢書の第一六巻として『福井藩士履歴 新番格以下』を刊行することといたしました。これまで本叢書では、江戸時代中期の越前国幕府領の大庄屋日記（第一巻・第二巻）、江戸時代後期の若狭国小浜の米商人の日記（第三巻）、さらに越前松平家の「家譜」のうち、とりわけ幕末の政治動向に大きな影響を与えた松平慶永に関わる五三冊分（第四巻から第八巻）、福井藩家臣団約三〇〇〇家のうち上・中級藩士約九〇〇家（士分以上）の人事記録（第九巻から第一四巻）、幕末期に新たに召し出された福井藩士子弟の人事記録（第一五巻）を刊行してまいりました。

そして今回は、下級家臣団の約五〇〇家（明治以降のいわゆる卒身分に相当する藩士の家系）の人事記録を取りあげました。底本となるのは、松平文庫（福井県文書館保管）の福井藩史料に残る「新番格以下」「新番格以下増補雜輩」「雜輩之類剝札」と名付けられた資料で、向後全六巻にわたる刊行を予定しております。

「新番格以下」は、弘化四年（一八四七）、藩の目付により作成されたもので、明治五年（一八七二）前後まで書き継がれています。禄高の増減、家格の変化のみならず、職務内容や転役、江戸や京都・藩外への出張とその職務、改名、賞罰などを読み取ることができます。

こうした藩士履歴は、関連の職務や同時期に行われた人事を検索することにより、幕末福井藩の藩制・兵制などの諸改革、殖産政策や人材登用の変容、他藩との交流などについて、歴史の新たな側面を見出すことができます。同時に、近代日本を支えた福井藩の人材創出の詳細を解明する上でも有用と思われれます。

また、藩士履歴は、専門的な歴史研究者においてだけでなく、一般の利用者から問い合わせの多いルーツ調べなどでも活用されています。

これらの資料叢書および当館ウェブサイトに掲載するデジタル版が、福井県の歴史的情報資源をさらに豊かにし、国内外の多くの方に活用されることにより、広く福井県に関わる研究その他の文化活動が活発になることを願っています。

令和二年三月

福井県文書館長 山元清隆

凡例

- 一、本巻は、福井県文書館資料叢書の第一六冊目であり、『福井藩士履歴』の第八冊目である。
- 一、本書の原本は、福井県文書館に保管されている「松平文庫」のなかの「新番格以下」「新番格以下増補雜輩」「雜輩之類剝札」である。「新番格以下」は一〜七で構成されている。このうち本巻では、一を翻刻した。
 - 一、「新番格以下」に収載される藩士の家格は、卒に該当する。資料名は「新番格以下」となっているが、新番格（新番並）は十分に属するため本資料には含まれない。
 - 一、本巻に掲載された藩士には既刊叢書と重複する人物もあるが、そのまま掲載した。
 - 一、資料の利用に資するため、巻末に参考資料を付した。
 - 一、編集にあたっては次のように取り扱った。
 - (1)各家は「新番格以下」の記載順とし、同姓が複数ある場合は、家名にアラビア数字を付した。なお、「新番格以下」に記載されている卒は士分と違い、家督相続という形での家の継承が行われず姓が変わることもあるため、厳密には個人として扱うべきだが、家として管理され書き継がれていたため、本書でも同様に取り扱っている。
 - (2)各家の名称は、原本の編集方針に沿って最後の人物の姓を採用した。
 - (3)原本の人名には貼紙・訂正・朱書などがあるが、次のように取り扱った。
 - ・各家の最初に貼られているその家の最後の人名は省略した。
 - ・最初に記載されている人名を見出しとして採用し、既刊の体裁に合わせて冒頭に配置した。ただし最初の人名のところに改名が記されている場合には、原則として改名後の名前を見出しの人名にした。
 - ・改名は最初の人名に記されているもののみを、原則として古い順に並べて見出しの人名の下に記した。
 - ・肩書など名前以外の記載については見出しの人名の下に記した。

(4) 原本の巻末に記されている「書役」の名前は省略し、参考資料で紹介した。

(5) 柱はそのページの最初の段落における家名を示した。

一、翻刻にあたっては、原本の体裁にそうよう努めたが、読みやすくするために、また検索の便宜を図るため、次のように取り扱った。

(1) 使用字体は原則として常用漢字を用い、異体字は原則として正字に改めた。また変体仮名や合字は通常の仮名に改めたが、次に掲げるような仮名・俗字・慣用字句は残した。

躰(体) 斗(ばかり) 而已(のみ) 而(て)

江(え) 者(は) 与(と) 茂(も)

(2) 全文にわたって読点をつけ、あわせて文意が通じないものには(マ、)などの傍注を付した。また明らかな誤字・脱字は訂正したものもある。

(3) 欠損・虫損等によって文字が判読できない場合には、□や□□で示した。

(4) 原本の平出・闕字などはすべて省略した。

(5) 追記・訂正など朱書はそのことを断らずに、適宜本文に反映した。

一、本書には、現在からみると基本的人権に関わる歴史的事象も含まれているが、地域の歴史的事実を正しく理解するために原文をそのまま翻刻することを原則とした。本書は人権尊重をめざし、史実にもとづく研究を進める立場から刊行するもので、この趣旨を理解し、利用していただきたい。

一、翻刻にあたっては田原健子氏(福井県文書館運営懇話会委員)が筆耕した。校合・編集は当館職員が行った。

一、資料の所蔵者である越前松平家福井事務所、筆耕に多大なご協力をいただいた田原健子氏に深く感謝申しあげる。

目次

口絵

発刊にあたって

福井県文書館長

山元清隆

凡例

一 新番格以下 前書	1
二 新番格以下 イ	5
三 新番格以下 ハ	55
四 新番格以下 ニ	115
五 新番格以下 ホ	129
六 新番格以下 ト	143
七 新番格以下 リ	171

解説

山口大学教育学部教授

森下徹

参考資料

齋川和平……………140
 齋川雄助……………139
 齋川又三郎……………139
 齋川安右衛門……………138
 本庄³
 佐治啓太郎……………138
 佐治庄次郎……………137
 清水作一郎……………137
 清水慎吉……………137
 清水繁松……………137
 清水武次郎……………137
 清水鉄藏……………136
 清水要右衛門……………136
 本庄¹
 堀数衛……………136
 藤田貞蔵……………135
 荒井弥三郎……………135
 荒井加右衛門……………134
 堀³
 堀八百太郎……………134
 清水栄甫……………134
 清水新悦……………134
 帰山新益……………133

齋川弁三郎……………140
 本庄立輔……………140
 細野
 玉村孫右衛門……………140
 玉村忠三郎……………141
 玉村加太郎……………141
 富田³
 富田作助……………150
 富田他三郎……………149
 富田伊左衛門……………148
 牧田通鑑……………148
 富田²
 富田材輔……………148
 富田為次郎……………147
 富田万五郎……………146
 富田¹
 豊田久蔵……………146
 豊田熊太郎……………145
 豊田門嘉……………144
 豊田門入……………144
 豊田
 卜
 齋川文喜……………150
 富田亭次郎……………152

東条
 東条仲右衛門……………160
 三上久弥……………159
 三上円斎……………158
 三上友古……………158
 三上嘉伝……………158
 三上嘉伝……………157
 三上嘉春……………157
 友永²
 森久斎……………156
 森久三……………155
 森吟賀……………155
 森守専……………155
 森文栄……………155
 友永¹
 徳山虎八……………154
 徳山虎八……………153
 徳山虎次郎……………153
 河合弥七郎……………153
 河合勘次郎……………153
 川合勘右衛門……………153
 徳山
 富田文喜……………150
 富田亭次郎……………152

東条安五郎……………160
 東条能蔵……………160
 東条三之助……………160
 東条八十八……………161
 東条安太夫……………161
 東条兵次郎……………161
 東条他次郎……………162
 登藤
 生田勘右衛門……………162
 生田勘助……………162
 生田勇蔵……………162
 生田勘助……………163
 生田円蔵……………163
 生田多之助……………163
 遠山
 森守専……………164
 森守斎……………164
 森三喜……………164
 森了悦……………164
 森了悦……………165
 森文右衛門……………165
 森七右衛門……………165
 森皆吉……………165
 高嶋喜太夫……………166

戸田
 戸田七太郎……………167
 戸川
 吉田勘右衛門……………167
 吉田直太夫……………168
 力丸
 力丸秋江……………172

口
絵

- 1 「新番格以下」(表紙)
- 2 「新番格以下」橋本安治(小森治郎吉)
- 3 「新番格以下」富田材輔

福井藩士履歴 8

新番格以下 1

イ
リ

一 新番格以下 前書

明治二巳九月十七日

諸下代給仕共召抱之節是迄等閑之次第も有之候二付、今度宿弊被改候間兵隊向同様十五歳未滿之者召抱致間敷事

一 同年十月廿九日

今度御改革二付、小役人分諸組二至まで総而卒族卜相唱、軍政局支配二被仰付候事

但諸局勤役中ハ其局長可為支配候事

一 小役人已下旧來之格式総而被廢、追而相当之階級御定二相

成筈二候得共、当分是迄之通可相心得候事

同年十一月七日

御家扶江

今般御改革二付、以來左之通可相唱候事

一 内務局御家扶以下士族之面々ハ

御家從

一同卒族之者ハ

御家從附屬

右御家從管轄之事

一同三年正月十四日

寮授

卒族

右立替之節是迄減祿被仰付候御規則之處、今般御改革二付右御規則被廢候事

一同十五日

軍務寮

卒族

右以來立替卜相願可申事

一同年二月廿七日卒族再勤之儀、是迄格式二寄御規定有之候へ共、已來吟味之上指免候事

一同年九月廿九日

一 從來士族卒月俸被下候面々致病死候節、跡目相統被仰付候迄俸給等不相渡、追而跡目被仰付候上相渡も御規定之處、兩族共総

而右規定之通可相成二付、病死之都度々々會計寮江急度通達可

致事

ノ

一同年十月十九日軍務寮二而

卒族之者立替相願候節、内証仕切株致立替願候当人跡目之者ニ
ハ養父ニ相当り候者、実家或者親類共之内へ人別ニ指加候共宜
候也

奥書

卒族之者相對仕切株ニ而立替願濟之上讓受之者、本姓ヲ
相名乗候上ハ養父子之名目ハ無之事

一午十一月廿九日

卒、是迄高地之内受地ニ居住之分今度其儘拝地ニ被下候間、右
地所之分御用地相成候事

但以來引ケ高ニ可取扱事

二 新番格以下
イ

伊藤

1

伊藤音之助 新番組

慶応二寅八月廿日、去月廿二日夜於途中吉池角兵衛与不図及取合候節、酒狂とハ乍申心得方も可有之処、無其儀同人江切付手疵為負候始末、不法至極之趣相聞不調法之事二候、依之急度も可被仰付之処、御憐愍を以蟄居被仰付候、急度相慎可罷在候、跡目之義ハ左之通被下置、御徒二被仰付候間親類共申談相願可申旨

但此以前惣列剝札ニ有之

一切米拾五石三人扶持

同月廿四日親類共之内年齢相応之者も無之二付、養方之弟又太郎十二歳罷成候、御憐愍を以此者江跡目相統被仰付被下置候様相願候、依之当御時態ニハ候へ共、御憐愍を以願之通又太郎江相統被仰付、御充行之儀ハ十五歳未滿ニ付御定之通左之通被下置、御馬方被仰付

伊藤又太郎

一幼年ニ付五人扶持

同日音之助蟄居被仰付候ニ付押込、九月十四日被指免

慶応三卯正月廿二日御趣意ニ付御馬方被指免候

同年十一月廿日席其儘御徒番所勤被仰付、御奉行支配被仰付候、但幼年

ニ付当番之義ハ当分御用捨被成候

同四辰正月五日同姓音之助不届之所業有之二付伺之上慎、同十六日被指

免

同年四月廿九日家屋敷御用ニ被仰付、代り家屋敷之儀ハ河南於小路被下

置候

明治二巳正月廿五日御徒番所勤被仰付候ニ付、元御徒席ニ被仰付候、元御徒之者役席江被入

同廿九日年頃ニ罷成候ニ付、御充行

一切米拾五石三人扶持

如此被成下

但當番相勤可申事

同年十一月九日今般御改革ニ付、御徒番所勤指免候事

但軍政局可為支配事

同月廿五日右同断、更御充行米三拾五俵四斗五升被下

同三年正月十日生兵修行指出候

同年閏十月廿日千種宗伯元屋敷地御振替ニ相成候処、家作料之儀ハ相当之上納ニ而願之通

伊藤

2

伊藤弥右衛門

一切米拾壹石三人扶持

寛保三亥六月廿八日表御料理ニ被仰付、御国へ御返被成

延享四卯五月晦日御塩梅役被仰付、切米式石増、都合

一切米拾三石三人扶持

如此被成下

宝曆三酉十月七日病氣願之上立替被仰付

伊藤弥三次

一切米拾三石三人扶持

右同日親弥右衛門病氣願之上立替被仰付、御擬作親之通被下置、御料理方被仰付

但寛延二巳五月二日御料理方見習出精相勤候二付、三人扶持被下

置候処、親立替被仰付候二付自分御扶持方揚

宝曆四戌十二月廿八日一統格被仰付

明和三戌八月六日御塩梅役被仰付

安永二巳二月六日小役人格被仰付

同年三月七日病氣願之上立替被仰付

伊藤安之助

一切米拾壹石三人扶持

右同日親弥三次立替御料理方被仰付、御擬作如此被下置

安永七戌十二月弥右衛門与名替

天明四辰十二月十六日一統格被仰付

寛政二戌十月十五日切米式石増、都合

一切米拾三石三人扶持

如是被成下

同六寅三月廿三日病氣願之上立替被仰付

伊藤熊之助

一切米拾壹石三人扶持

右同日養父弥右衛門立替被仰付、御充行如此被下置、御料理方被仰付

文化元子五月廿八日大病二付願之通御暇被下

伊藤松五郎

一切米拾壹石三人扶持

右同日養父熊之助立替被仰付、御擬作如此被下置、御料理方被仰付

同十二月政平与名替

同三寅十月晦日大病二付立替被仰付

伊藤四次郎

一切米拾壹石三人扶持

右同日養父政平願之上立替被仰付、御充行如此被下置、御料理方被仰付

同年十二月廿五日弥三次与名替

文化六巳年江戸詰

文政二卯年江戸詰

文政十一子十一月十五日支度出来次第江戸詰被仰付候

同十二丑四月五日山口小左衛門野方九郎右衛門着之上罷帰候様被仰付、

詰二御立被下候

同十三寅年閏三月十三日当夏御帰国御迎御用被仰付候

同年十二月十六日出精相勤候二付、一統格二被成下候

同十三寅十二月廿八日弥右衛門与名替

伊藤弥之助

一切米拾壹石三人扶持

文政十亥年御料理方見習被仰付

天保三辰五月廿日親弥右衛門病氣願之上立替、御料理方被仰付、御充行如此被下置候、但席永嶋藤三郎次

天保十二丑年江戸詰被仰付

天保十五辰五月十八日妻他行之節着服、心得違之趣相聞候二付押込被仰付、同六月八日押込被指免

弘化三年十二月廿八日弥五太夫与名替

嘉永二酉年正月十六日出精相勤候二付、一統格二被成下候

同四亥四月九日今般公方様右大将様神田橋御住居江御立寄無御滞被為濟、右御用掛り出精二付銀拾匁被下置候

同年十月廿日心得違之趣相聞候二付押込、十一月十日被指免候

安政四巳江戸詰

同年十二月廿三日出精相勤候二付、小役人格二被成下候

万延元申五月三日病死

同六月十一日親弥五太夫病氣及大病立替相願、其後令病死候二付、御料理人被仰付、御充行並之通

伊藤弥太郎

一切米拾壹石三人扶持

如是被下置候

慶応二寅十一月十日小十人組二被仰付、砲突調練等致精勵候様被仰付、

依之御料理人ハ被指免

同三卯三月十六日御趣意二付勤中席之儀ハ小十人組格二被成下候

同年十月十八日御趣意二付席其儘小筒組後拒役被仰付候

同四辰六月廿五日会征出立、十一月十五日帰、右出張二付巳二月廿二日

五百疋被下、外二十式両

明治二巳二月廿七日歩隊二被仰付、後整衛隊卜改

同年十一月廿五日今般御改革二付、更御充行米三拾俵四斗八合

同三年四月廿五日戊辰北越出張、軍事精勵二付御賞典之内四石三ヶ年被下候事

同年十二月八日常備第五小队

同年十一月廿八日居住罷在候借地押地被下候



伊藤十太夫

一切米拾石三人扶持

延享三寅四月十八日仕出場下代今小算被召出候

伊藤直作

一三人扶持

宝曆八寅四月五日親十太夫小算勤之処病氣二付御暇被下、倅へ如此被下、

小算並被仰付

同年十二月次左衛門与名替

宝曆十一巳七月十二日果ル、減切

伊藤庄助

一切米拾石三人扶持

安永八亥二月十一日仕出場溝口郷右衛門下代今小算被召出、御擬作如是

被成下

天明元丑十二月十一日御呵

同四辰二月廿四日一統格御取立被成下

寛政二戌十二月十六日一統格小算勤より小役人御取立、御勝手役見習被

仰付

一切米拾五石三人扶持

寛政三亥六月五日御擬作五石増、都合如是被成下、御勝手本役被仰付

同四子六月五日御広式添役被仰付

同六寅九月八日果ル

伊藤新三郎

一切米拾式石三人扶持

同六寅十月十一日親庄助為跡目小算被仰付、御擬作如此被下置

同八辰十二月十太夫与名替

享和元酉十月庄助与名替

文化四卯五月廿六日御參勤御道中ニ而出精二付、銀拾匁被下置

同年七月廿八日御上屋敷御普請御用懸り出精二付、銀拾五匁被下置

同九申三月五日出精相勤候二付、一統格被成下

同十一戌十二月七日御勝手役見習被仰付

一切米拾五石三人扶持

文化十三子正月十六日小役人被成下、御勝手本役被仰付、御擬作三石増、

都合如是被成下、役中御足充行三石被下置

文政元寅十月十二日詰中浅姫君様御引移御普請御用懸り被仰付

同二卯十二月廿四日右御用懸り出精二付、御目録金三百疋被下置

同年十二月廿八日浅姫君様御引移無御滞被為濟御満足思召、依之御目録

金式百疋被下置、同日今般之御用向格別出精二付金三百疋被下置

同三辰四月七日出精相勤候二付御取立被成、新番格被仰付

同五年十二月廿四日孝顕寺御像堂御再建御用懸り被仰付候処、出精相勤

候二付御褒詞被成下候

同六未三月五日出精相勤候二付、役中被下置候御足充行三石御加増

一切米拾八石三人扶持

都合如是被成下候

同十月廿九日産物調方掛り被仰付

同十一月十九日御内用有之長谷部小右衛門江戸表へ被為召候二付、為指

添支度出来次第致出府候様被仰付

文政七申六月廿四日三国内田惣右衛門懸り被仰付、産物掛り御免被成

同十二月廿八日辰右衛門与改名

同九戌七月廿日出精相勤候二付御取立被成、新番組へ被入

同十二丑三月廿五日病身二付休息

伊藤茂七郎

一切米拾八石三人扶持

文政十二丑三月廿五日親辰右衛門病身二付休足被仰付、家督如是无相違

被下置、新番組へ被入

同年十二月廿八日庄助与改名

天保八酉十二月十一日当春不慎之趣相聞候二付遠慮被仰付候、同月晦日

遠慮御免

一切米拾石式人扶持

天保九戌四月十六日昨年不慎之義有之御咎被仰付候処、亦復不埒至極之趣相聞候ニ付侍御削、無役跡目小算へ御下ヶ被成、御充行如是被下置、

押込被仰付候、同閏四月廿五日押込被差免候

天保九戌八月朔日小算勤役被仰付候

一切米拾五石三人扶持

天保十一子三月十六日御徒御入人被仰付、御充行並之通知是被下置候

同年十一月七日来丑年江戸詰被仰付

同十二丑二月五日大御所様薨御ニ付、御家老中ノ為御使長谷部甚平明六

日夕立、道中八日振ニ而罷越候様被仰付候ニ付、差添被仰付候

同十四卯十二月十太夫与名替

嘉永四亥年江戸御供詰

同年十二月廿六日左之通改名

十太夫事

伊藤立左衛門

同六丑年江戸御供詰、三月廿二日出立

同年十二月廿九日左之通名替

立左衛門事

伊藤重太夫

元治元子十二月賊徒一件ニ付出張、御手当銀百匁被下置候

慶応三卯三月十六日出精相勤候ニ付小役人格ニ被成下、御趣意ニ付当分

御徒番所勤被仰付、但地廻諸勤共

明治二己六月廿一日名替

重太夫事

伊藤米ヨネ

同年九月廿九日御藩制御改革之処長々相勤候ニ付、銀五貫匁被下置候
同年十一月九日今般御改革ニ付、御徒番所勤指免候事

但軍政局可為支配候事

同日小役人已下代迄無役之者世話役申付候事

同月廿五日今般御改革、更御充行米三拾五俵四斗五升被下

同三年正月廿八日世話役指免候事

同日御金土藏番元切手御門番口山里御門番民政寮収納方当番會計寮当番

総会所当番世話役申付候事

同年七月十八日五十六歳以上ニ付諸勤御用捨被成候事

十一月廿八日居住罷在候屋敷地押地被下候

同年十一月晦日触并御番割取扱

同四年正月廿三日老年ニ付立替

十太夫事

伊藤登美太 倅

米三拾五俵四斗五升

無息中

一元治元子三月十六日御徒御雇被仰付、為失却自今銀五拾匁被下置候

一同年六月七日御徒御雇其儘太鼓役被仰付、銀貳百六拾五匁五分ツ、年々

被下置候

一同年十一月十四日御趣意ニ付太鼓役御免被成候

一慶応元丑六月廿日月々銀五拾匁ツ、被下置候処貳拾匁増、都合七拾匁ツ

、被下置候

一同二寅四月廿九日御徒定御雇被仰付候

一同三卯正月廿五日御趣意ニ付御徒定御雇御免被成候

一同日鳴物方御雇被仰付、御雇勤中年々銀壹貫匁ツ、被下置候
 一同年三月十六日年々銀壹貫匁之処、迷惑之趣ニ付月々百五拾匁ツ、被下置候

一同年十二月十三日殿様御上京御供被仰付、御延引
 一同四辰三月二日御警衛詰上京、閏四月十七日帰
 一同年閏四月十一日鳴物方勤中老人半扶持被下候

但是迄被下候銀之儀ハ已後不被下候

一明治卜改元、十一月七日上京、已三月六日帰

一同二巳四月廿六日年給壹俵被下候

一同三年六月十日御雇樂手申付、役中給禄米六俵被下候事、但年給貳俵

一同年十二月十五日御雇二等樂手申付、雇中米六俵被下候事、但年給貳俵

ノ

一同日実父跡江立替被仰付候処、二等樂手従前之通

一同年七月廿四日喇叭伝習見込無之二付樂手指免候事

一同年十二月廿八日分営常備小隊

伊藤⁴

伊藤治左衛門

一切米八石式人扶持

寛政七卯五月廿五日山方役所江下代見習被仰付

享和二戌三月廿五日親幾右衛門立替被仰付、跡同日山方下代被召抱

文化五辰五月廿七日御代官宇員八郎右衛門下代江

同六巳六月十二日山方下代へ

同九申九月十六日下領郡方下代へ

文政三辰十二月十六日出精相勤候二付、小寄合格ニ被成下

同七申七月十七日同所請込下代へ

同八酉三月十一日出精相勤候二付、小算格ニ被成下

文政十亥年八月十六日出精相勤候二付跡目小算ニ被仰付、御充行式石御

増

一切米拾石式人扶持

都合如此被成下

同十一月廿六日治五左衛門与名替

同十三寅七月三日御広式方出役兼被仰付

同十三寅八月八日貞照院様御附大奥女中此度江戸表へ御返シ被成候二付、

女中引纏取締立帰り添役兼被仰付候

天保三辰正月廿九日格外之御嚴法御儉約御取調ニ付掛り被仰付候

天保五午正月廿八日御趣意ニ付金津役所受込被仰付候

同七申十二月十六日出精相勤候二付、一統格ニ被成下候

同九戌七月十一日産物方被仰付候

同十二丑五月廿四日産物方被指免候

同十三寅七月十一日数年出精相勤候二付一統上席ニ被成下、御扶持方壹

人扶持御増、都合

一切米拾石三人扶持

如是被成下

同十一月五日御広敷添役被仰付

伊藤松五郎

一切米拾石式人扶持

天保十四卯十月五日親弥五左衛門年寄候二付立替被仰付、無役小算被召出、御充行如此被下置候、席牧野彦右衛門上

嘉永五子年四月廿五日此度小算之者共以前へ被復忝人扶持御増、都合

一切米拾石三人扶持

伊藤松五郎

如是被下置候

安政元寅十二月廿八日左之通名替

松五郎事

伊藤政之丞

安政四巳正月廿五日御趣意二付御製造方下代勤へ

万延元申十二月廿八日左之通名替

政之丞事

伊藤善十郎

文久三亥八月十三日当秋芝御陣屋御雇詰被仰付、九月三日出立

慶応元丑十二月十六日出精相勤候二付、小算上席被成下候

同二寅十一月十日小十人組被仰付、砲発訓練等致精勵候様被仰付

同三卯三月十六日御趣意二付当分御徒番所勤御雇被仰付

但地廻諸勤共

明治二巳十一月九日今般御改革二付、御徒番所勤指免候事

但軍務局可為支配事

同月廿五日右同断二付、更御充行米式拾九俵五升六合

同三年正月十日生兵修行指出候

同年二月晦日病身願之趣も有之二付、下馬御門太鼓御門三ノ丸御門当番

申付候事

同年七月十八日小学校御門番更ニ申付候事
同年十一月晦日家従表御門番へ



伊藤左次右衛門

一切米拾石三人扶持

天明元丑年二月十一日仕出場下代小算被召出、御擬作並之通如此被成

下

寛政三亥十月廿五日一統格被仰付

寛政五丑六月廿五日一統格小算勤御充行五石増、都合拾五石三人扶持

被成下、小役人御取立、御勝手役被仰

同七卯三月五日御勝手役御勘定所会所預り古物方石川万左衛門跡被仰

付、御勘定所記録兼帯被仰付、御勝手役末席、以後役席二ハ無之

同年六月廿九日娘里よ至而孝心之趣達御聴、為御褒美金式百疋被下置候

同年十月廿日押込被仰付、同十一月十六日押込御免被成

同十年十月廿九日病氣二付役義御免被成、年来出精相勤候勤功も在之二

付、当分無役小役人席二被差置候

寛政十一未十一月惣左衛門与名替

同十二申二月十一日病氣二付立替被仰付候

伊藤万次郎

一切米拾石三人扶持

右同日親惣左衛門立替被仰付、為跡目小算被仰付、御擬作如此被下置

同年十二月武左衛門与名替

文化十一戌十二月廿五日左次右衛門与名替

一切米拾三石三人扶持

同十二月亥十月五日小役人格二被成下、御預所御勝手役見習御所務方頭取

兼帶松村善八郎跡被仰付、壹石御増、都合如此被下置候

文政五年十二月晦日果ル

伊藤鉄之助

一切米拾石式人扶持

文政六未正月廿五日親左次右衛門及大病立替相願、其後令病死候処、勤

中不念之趣相聞候二付平小算二被仰付、御充行如此被下置候

同七月廿五日御趣意二付無役小算被仰付

同十二月廿八日左次右衛門与名替

文政十亥年七月六日勤役被仰付

天保六未年十一月廿日当春不慎之趣相聞候二付押込被仰付候、同十二月

十一日押込被差免候

一切米拾石三人扶持

天保十亥正月十六日出精相勤候二付御扶持方老人扶持御増、都合如此被

成下

同十四卯正月十六日出精相勤候二付跡目小算被成下、御擬作式石御増、

都合

一切米拾石三人扶持

如此被成下候、席河村左太夫次

弘化三年三月十九日御預り所御廻米為御用出坂被仰付候

同四未十一月廿一日御預所御所務方頭取山本奥右衛門跡被仰付候

弘化五申年二月五日出精相勤候二付、一統格二被成下候

嘉永六丑正月十六日出精相勤候二付、小役人格二被成下候

安政二卯十二月廿五日小役人二被成下、御預ヶ所御勝手役見習被仰付候

同四巳三月廿五日出精相勤候二付御預所御勝手本役被仰付、役中御足充

行三石被下置候

同六未十二月十六日出精相勤候二付是迄被下置候御足充行三石御増、都

合

一切米拾五石三人扶持

如此被成下候

文久元酉六月十一日御預役所御備金を以今度上金致出来候儀者、全く是

迄之御金繰心配行届候趣二付、金式百疋被下置候

文久二戌正月十六日出精相勤候二付、役中御足充行式人被下置候

元治元子二月廿五日年寄候二付立替被仰付、倅

伊藤左太郎

一切米拾石三人扶持

跡目小算二被仰付、御充行如此被下置候

但右左太郎昨亥九月十二日芝御陣屋詰御雇罷越居

同年五月十二日御陣屋令帰着

同年十二月賊徒一件二付出張、御手当銀百匁被下置候

慶応三卯三月十日御上京御供出立詰

同四辰三月廿二日御都合も有之二付御国表へ御返被成、四月朔日帰

同年四月廿五日兼而心得方不宜、且在京中不埒之趣相聞候二付長く押込、

五月十七日被指免

明治卅改元、九月廿九日越後筋道中調為御用出立、十一月十七日帰

同年十二月十三日殿様御上京御供出立

同二巳二月廿二日奥羽越御人数出張中格別勤勞二付、御国札壹貫匁被下

同年 惣会所勘定方受込 月給四俵

同年十一月廿二日民政局権少属被仰付候事

同月廿五日今般御改革、更御充行米三拾壹俵三斗六升九合

同三年十二月十二日民政寮勤

但十六等ノ二等 年給十六俵

同月廿日任准史生 年給十六俵

但民政寮勤仕

明治四未六月朔日御改正二付免職 惣会所出納方

同十四日任序掌

但総会所振退勤

同年十二月朔日任福井県権少属

同廿日任福井県権少属

出納方物産基金立金請扱方

同五申三月十三日総会所勤

但出納課へ可相属事

同年五月名替

左太郎事

伊藤真

同年九月四日御用有之横浜表江可罷越事

伊藤

6

天谷多助

一切米八石式人扶持

宝曆五亥年九月親多助病氣願之上立替被仰付、跡御代官方下代江被召抱、

御充行並之通如此被下置候

安永二巳十月八日上領郡方下代被仰付

同三年六月与内方下代被仰付

享和二戌正月十日病氣願之上立替被仰付

天谷次右衛門

一切米八石式人扶持

右同日親多助跡与内方下代江被召抱

同年三月四日御預所御代官方雇下代江

同年十月十九日御腰物方下代江

同三亥年江戸詰

文化四卯六月六日御代官竹内伝蔵下代江

文政十亥年六月廿四日御代官嶋津右太夫下代江

同十一子年正月廿五日御代官中村多左衛門請込下代勤へ

同十一子十二月十九日次右衛門与名替

天保五年十二月十六日出精相勤候二付、小寄合格被成下候

同九戌八月二日御代官木内甚兵衛受込下代組替

同十二月七日浮下代被仰付

同十亥六月廿五日御預所御金方下代江

天谷多助

一切米八石式人扶持

天保十一子二月廿日親次右衛門病身二付御暇被下、倅多助与申者諸下代之内江被召抱、御充行並之通如此被下置、嶋崎伝太夫仮預り浮下代被仰付候

同八月廿六日御腰物方下代江

同十二月廿二日御切米方下代江

同十三寅六月十二日御作事方下代江被仰付

同十四卯閏九月九日嶋崎伝太夫下代江

弘化三年閏五月二日御預所御金方下代へ

天谷欽兵衛

一切米八石式人扶持

弘化三年六月十七日養父多助病身二付願之上御暇被下、養子欽兵衛与申者諸下代之内へ被召抱、御充行如斯被下置、中野文左衛門仮預り被仰付候

同十月十二日御作事方下代江入替

同十二月四日

伊藤欽兵衛

如斯改姓

弘化四未十一月 来申年江戸詰被仰付候

嘉永二酉閏四月十二日志比領御代官肩下代へ

同年七月廿六日品ヶ瀬領江組替

同五子正月廿一日広瀬領御代官方肩下代へ組替

同七寅閏七月十二日東郷領御代官肩下代江組替

安政三辰二月十七日志比領御代官肩下代江組替

同年九月十四日病身二付西村源左衛門仮預り浮下代江被仰付候

同年十二月廿三日病氣願之上御暇被下、養子清兵衛与申者諸下代之内へ被召抱、御充行並之通

伊藤清兵衛

一切米八石式人扶持

如斯被下置、西村源左衛門仮預り浮下代被仰付候

安政四巳四月廿一日浜坂浦口銭方下代被仰付、御勝手仮預りへ

但兩人二而壹ヶ月代り勤番可申事

同年五月廿六日御材木方炭薪方兼下代へ

同年六月廿三日病身二付願之上御暇被下、養子五郎七与申者諸下代之内

江被召抱、御充行並之通

伊藤五郎七

一切米八石式人扶持

如此被下置、西村源左衛門仮預り浮下代被仰付候

安政五年二月十一日御製造方下代へ

同六未四月十日御蔵所下代へ

万延元年申四月五日御金方下代へ

文久元酉六月四日左之通名替

五郎七事

伊藤孫七

同二戌六月八日江戸詰出立

同三亥七月二日江戸表へ帰着

同年十二月十六日出精相勤候二付、役席小寄合格二被成下候

元治元子四月廿二日御台所方下代江、席其儘

同年七月廿一日京都表へ出立、十二月 帰

一 同年十二月賊徒一件出張、御手当三十五匁被下

同二丑二月十一日上京、四月廿日帰

慶応下改元、六月五日出精相勤候二付、小寄合格二被成下候

同年七月廿一日三国山岸領御代官方下代江

同二寅二月六日郡方書役下代江

同年二月十一日左之通名替

孫七事

伊藤五郎七

明治二巳二月十七日南居山干飯領御代官方下代江

同年六月廿九日願之通御暇被下、養弟金八与申者諸下代之内江被召抱、

御充行並之通

伊藤金八

一切米八石二口

如此被下置、御勝手役仮預り浮下代申付候事

但当四月十二日病氣願之上御暇相願、野坂金八と申者也

同年十一月廿五日今般御改革、更御充行米式拾式俵壹斗八合被下

同年十二月九日会計寮附属申付候事

同三年十二月十二日右附属指免候事

同四未二月七日会計寮江出役申付候事

同年六月朔日被免



伊藤清吉

一

表御出居番相勤候由、言伝二御座候へとも被召抱候年月等相分り不申候

伊藤庄右衛門

一

文化八未十月養父清吉病氣二付願之上立替、表御出居番被仰付候

伊藤金藏

一

文政元寅六月養父庄右衛門病氣二付願之上立替、表御出居番被仰付、其

後御作事下代并御武具方下代相勤候由、言伝二御座候得共年月等相分り

不申候

伊藤清三郎

一

文政十亥閏六月養父金藏病氣二付願之上立替、表御出居番被仰付候

天保七申十一月表御出居番、席其儘御出居番被仰付候

同十四卯四月御出居番其儘、御住居御広敷御書使御献上附御茶取御徒兼
勤被仰付候

清五郎事
伊藤正平

弘化四未十二月俵数式俵ツ、年々被下置候旨被仰付候

嘉永五子正月小寄合格ニ被成下候

安政六未十二月廿五日出精相勤候ニ付御充行老石御増、都合

一切米八石式人扶持

如此被成下候、是迄被下置候米式俵已後不被下候

文久元酉十月廿三日病氣願之上御暇被下、倅清五郎与申者御広敷御出居

番被仰付、御充行

伊藤清五郎

一切米八石式人扶持

如此被下置候

同年十二月十二日諸下代之内江被召抱、御充行並之通八石式人扶持被下

置、御勝手役仮預り浮下代被仰付

同三亥年三月六日御前様御供ニ而御国表江出立、然ル処江戸表騒々敷ニ

付関ケ原分引戻候様被仰付、三月廿九日帰府

元治元子年七月廿九日大砲打方被仰付、矢崎鉦十郎長尾彦輔江申談候様

被仰付候

同二丑年正月廿五日心得違之趣有之ニ付支配頭存ヲ以叱り申付候処、恐

入慎伺指出候ニ付伺之通慎申付、同晦日差免

慶応三卯二月十一日御門所入之儀心得違ニ付押込、同廿六日被指免

同年九月廿八日御台所下代江

同年十月廿一日名替

同四辰年二月十八日家内共御国江引越、二月廿六日着

同年三月廿七日製造方下代江

明治二巳二月廿二日奥羽越御人数出張中格別勤勞ニ付、御国札五百匁被

下候

同年十一月廿五日今般御改革ニ付、更御充行米式拾式俵斗八合被下

同月廿七日右同断ニ付製造局被廢候、依之役義指免候

同三年正月十日生兵修行指出候

同年八月十二日第二大隊八番小隊入申付候事 年給式俵

同年十二月八日予備第八小隊江 年給式俵

同四未四月七日右解隊被仰出候事

同年八月十三日都合之儀ニ付立替

伊藤外吉 養子 十五歳

一米式拾式俵斗八合

高村文蔵次男



岩屋平太夫

一切米拾五石三人扶持

元文元辰八月廿九日江戸定小算分切米五石増、都合如此被下、小役人格

ニ御取立、其儘御預所方被仰付

延享二丑閏十二月朔日切米三石増、都合拾八石三人扶持被成下、定府御預所御勝手助役被仰付、御蔵御用兼帯可相勤旨被仰渡、外二失却銀百匁被下

寛延三年九月廿二日御用相濟候二付、席中野与次右衛門次被仰付

安永二巳八月廿八日年寄候二付立替被仰付

岩屋金四郎

一切米拾五石三人扶持

右安永二巳八月廿八日親平太夫為跡目御徒被仰付、御擬作並之通被下置

宝曆十四申六月五日金拾貳兩被下、御守殿御徒定御雇被仰付相

勤候処、右跡目被仰付候二付右被下金上ル

天明二寅四月十四日御徒分切米三石増、都合拾八石三人扶持被成下、御

徒目付被仰付

寛政三亥四月廿七日切米三石御取揚役義被指免、御徒御下ケ被成

同五丑五月十六日小役人二御取立被成、御広式添役被仰付

享和元酉十月九日御台所目付被仰付

文化四卯三月廿九日御前様附御広式添役被仰付

一切米拾七石三人扶持

文化八未十二月廿日年数相勤候二付御充行式石被相増、都合拾七石三人

扶持被成下

文化九申六月七日御前様御附上臈お藤方京都へ御返被成候二付、引纏被

仰付候

同十四丑十二月十六日年来相勤二付桐御紋御上下被下候

文政二卯年八月七日浅姫君様御附御広式添役被仰付候

同九月十三日倅滝五郎靈岸島御住居御徒御雇被仰付候、壹ヶ月銀貳拾五匁、被下置候
文政四巳九月六日相果ル

岩屋滝五郎

一切米拾貳石三人扶持

文政四巳十月十一日親金四郎及大病立替相願、其後令病死候、依之跡目

小算被仰付、御充行如此被下置候、但席白崎文次郎次

同十一月八日御住居御附之方書役勤被仰付候

同六未六月十五日御徒二被仰付、御充行三石被相増

一切米拾五石三人扶持

都合如此被成下候

文政十亥年九月廿二日小役人格被成下、常盤橋勤御広式添役吉川儀平跡

被仰付候

同十二丑三月廿五日当分本庄御屋敷へ引越、貞照院様之方振退勤

同十二丑八月十三日浅姫君様御附御広式添役被仰付候

天保十一子二月廿四日御台所目付御扶持方兼城崎弥助跡被仰付候

席大橋半蔵次

同十三寅四月廿二日今度従公辺御住居御入用指出候様被仰付候間、取調

掛り被仰付候

同六月三日御台所目付御扶持方兼其儘同頭兼帯被仰付

同十二月廿五日出精相勤候二付、御足充行式石被下置候

同十四卯三月廿五日昨年従公辺御住居御入用巨細取調差出候様被仰付、

右掛り出精相勤候二付金百疋被下置候

同五月廿九日、当八月中旬頃公方様御成之節、神田橋御住居へ御立寄可

被遊との御沙汰之旨御内意被仰出候二付、御用掛り被仰付候

同七月五日支配之者締り方不参届候二付急度御叱り被成候

同十五辰二月七日近々公方様御成之節、神田橋御住居へ御立寄可被遊と

の御沙汰被仰出候二付、御用掛被仰付候

同十一月九日来年始御年男被仰付、御目録金三百疋被下置候

弘化三年正月十五日出精相勤候二付御取立被成、新番格被仰付候

同四未七月九日、当八月中公方様御成之節、神田橋御住居へ御立寄可被

遊との御沙汰二付、御用掛り被仰付候

同九月十二日御立寄無御滞被為濟、右御用掛り出精之段達御聴太儀二思

召候、此段申聞候様被仰出候

嘉永四亥正月廿五日役儀勤方不宜、其上心得違之趣相聞不調法之事二候、

依之役儀御免被成、遠慮被仰付候

同五子年十一月四日御徒目付岩屋源兵衛義、御上屋敷泊り当番御用捨被

成候二付、右助御徒共之内江可被仰付筈之処、御人少二付格式二ハ候得

共当分助被仰付候

安政二卯十一月廿九日病死

岩屋鉢五郎

一切米拾五石三人扶持

安政二卯十二月廿八日親滝五郎令病死候二付小役人二被仰付、御充行如

此被下置候

安政三辰正月十五日小役人席其儘御徒勤被仰付候

万延元申閏三月廿四日御判物差添御国表江着、所々拝見相濟、四月八日

出立

文久元酉三月十五日御徒目付被仰付、役中御足充行三石被下置候

同年五月廿六日荒子源左衛門部屋庄助手慰一件調違二付、伺之上御用之

外慎、同廿八日被免

同年十二月廿三日今般和宮様御下向之節御道固二付、御用掛り被仰付候

処、無御滞相濟御褒詞

同三亥三月廿三日御前様御供二而御国江着、同廿七日折返シ江戸へ出立

同年十一月十九日御上京御供被仰付

同年十二月左之通名替

鉢五郎事

岩屋滝之介

文久三亥十二月九日殿様江戸表へ御上京御供二而出立、然ル処御国表へ

之御徒目付吉原駅江参着二付、引返シ江戸表帰

慶応元丑四月廿五日巢鴨御屋鋪奉行仮被仰付

但引越候二付失却金三両被下置候

同年十一月九日御舍御用被仰付、為失却月々金三歩ツ、被下置候

同三卯四月廿九日御舍御用出精相勤候二付失却金月々壹歩御増、都合壹

兩ツ、被下置候

同年九月七日御徒目付被仰付、御足充行三石被下置候

但御舍御用之儀も是迄之通被仰付置、失却金其儘被下置候事

一十月七日役席岸田次郎左衛門次

同四辰正月御国表江引越被仰付、然ル処直ニ詰被仰付、亦々御国江罷帰

候様
同年三月廿日事情為取調当分居残り被仰付候、然ル処閏四月十九日御国

江着

同月廿五日今般江戸御屋鋪引払諸向跡仕廻等致心配候二付、金五百疋被

下置候

同年五月廿一日御内御用有之二付出府被仰付、廿二日出立

同年九月十四日当分滞府被仰付、靈岸島御屋鋪奉行相心得其余御用向引

受相勤候様被仰付

明治二巳二月廿七日監察局江附属被仰付、巳二月御足三石被廢、月給十

俵被下候

同年六月廿五日御使御用ニ而大谷巖指添ニ而帰、但東京ヨリ

同年十一月廿七日刑法寮權少属被仰付候事、年給八俵、未正月今年給廿

八俵

同月 今般御改革ニ付、御充行米三拾五俵四斗五升

同三年八月廿九日御用有之二付東京江可罷越事、九月三日出立、十一月

廿八日居住罷在候持地之内ニ而九十六坪拜地被下候

但元武生士族松本酒人蝦夷地江脱走、為召捕横浜今出帆箱館江着、

彼地探索無滞召捕再同港江着船東京江出、十一月五日帰

但此時監正寮附属之内松永平治郎同道罷越候

同四未 昨年東京今箱館行ニ付為失却式疋被下候事、伺ニ而

同年六月朔日御改正ニ付免職

同五申五月名替

滝之助事

岩屋政



石川万齋

一切米拾石三人扶持

寛政元酉十二月廿三日年来出精相勤候ニ付御切米式石増、都合如此被成下、一統格被成下

同五丑六月廿五日小役人格二被成下、平瀬五左衛門跡会所預り被仰付

同日万左衛門与改名

同七卯三月五日小役人被成下、葦塚利兵衛跡荒子頭被仰付

一切米拾三石三人扶持

同八辰十二月十六日御切米三石増、都合如此被成下

一切米拾五石三人扶持

寛政十二申四月十一日御切米式石増、都合如此被成下

文化元子正月廿二日果ル

石川平藏

一切米拾五石三人扶持

同年二月廿九日養父万左衛門為跡目御徒被仰付、御擬作如是被下置

同二丑江戸詰

同八未江戸詰

文政二卯江戸詰

文政三辰十二月廿五日万左衛門与名替

同六未十月江戸詰

同八酉迄詰越

同十一子十二月十六日来丑年江戸詰被仰付候

平七事

天保五年十月廿二日来未年江戸御供詰被仰付候

石川健十郎

同六未年閏七月十三日御遺骸御国へ被為入候二付、御供二而帰切被仰付候

安政二卯年江戸御供詰被仰付、三月十九日出立
同四巳四月右同断

天保八酉七月十一日小役人格二被成下、御徒組頭古市八兵衛跡被仰付、役中御足充行式石被下置候

同六未三月廿二日江戸詰出立、同七申三月十五日御供二而帰着
万延元申八月廿五日小役人格二被成下、御広敷添役被仰付候

弘化四未年十二月五日御広敷添役被仰付候、但是迄役中被下置候御足充行式石其儘被下候事

元治元子五月十一日御勘定所勤被仰付候
同二丑正月左之通名替

嘉永元申年十二月十六日年寄候二付立替

健十郎事

石川平七 万左衛門倅

元治元子十二月賊徒一件二付御留守御用相勤、依之銀三拾三匁被下置候

一五人扶持 揚ル

製造局勘定方

天保十三寅年五月十六日御徒二被召出、御充行近年御定之通如斯被下置候

明治二巳九月六日御裏添役申付候事
同年十一月十六日名替

同十五辰年十一月三日来巳年江戸御供詰被仰付候

灯助事

弘化三年二月廿九日不慎之趣相聞候二付押込被仰付、三月九日被差免候

石川健重

嘉永元申年十二月十六日親万左衛門年寄候二付立替、其儘御徒二被仰付、御充行並之通

同月廿五日今般御改革、更御充行米三拾五俵四斗五升被下
同三年正月十三日今般御改革二付役儀指免候事

一切米拾五石三人扶持

石川平七

如斯被成下候

但御裏添役勤

嘉永五子四月六日為御迎出立
同六丑年三月廿二日江戸表へ御供二而出立

同年二月廿七日御簾中様青松院様来ル三月御東上二付御供被仰付、三月廿四日出立、六月八日帰着

同年十二月廿九日左之通名替

同年七月二日御改正二付役儀被免候事

同日雜務方申付候事、但御家從也

同年十月廿八日御家從附屬指免候事、但御趣意也

同日是迄太儀二付為御酒代金三百疋被下置候

同年十一月晦日民政寮同寮收納方同寮總會所會計寮、右四ヶ所泊番へ

同月廿八日居住罷在候持地拜地被下候、未六月廿日御取消

岩佐¹

岩佐七九郎

一切米

元文元辰四月十六日御徒岩佐弥五太夫養子御徒被召出

延享四卯十二月弥五太夫与改名

寛延二巳三月四日御徒小頭被仰付、切米式石増被下、都合

一切米拾七石三人扶持

如此被成下

安永元辰八月十日御留守番組へ御取立、御土蔵番被仰付

同四未九月廿九日休息被仰付

岩佐与三七

一切米拾七石三人扶持

右同日親弥五太夫家督無相違如此被下置、大御番組へ被入

同七戌十二月弥五太夫与改名

天明八申七月廿五日御台所頭役被仰付、御留守番組へ被入

寛政五丑九月朔日用奉行被仰付

同九巳九月廿五日役儀御免被成、大御番組へ被入

文化六巳十月廿日御花畑繪奉行都築三郎左衛門跡被仰付、御留守番組へ

被入

同十酉正月廿五日年寄候二付休息被仰付候

岩佐助七

一切米拾七石三人扶持

右同日養父弥五太夫家督如此無相違被下置、無役御留守番組へ被入候

同年十二月廿五日弥五太夫与改名

同十二亥三月五日大御番組へ被入候

天保五年八月廿八日御番御供皆勤二付御紋御帷子被下置候

同十亥三月十六日倅源蔵義行状不宜二付昨年願之上御国為立退候処、兼

而締方不参届趣相聞候二付遠慮被仰付候、同廿九日遠慮御免

同年十二月廿八日姓名改

岩佐弥五太夫事

荒木源兵衛

弘化二巳正月廿五日年寄其上多病二相成難儀二付、内願之通休息被仰付

荒木密太郎

一切米拾七石三人扶持

弘化二巳正月廿五日親源兵衛家督如此無相違被下置、無役御留守番組へ

被入候

同年八月廿九日不埒至極之趣相聞候二付御暇被下候

荒木栄蔵

一五人扶持

弘化二巳八月廿九日兄密太郎義不埒至極之趣相聞候二付御暇被下候処、格別之御憐愍を以名跡御立被下、御徒二被召出、御充行如此被下置、押込被仰付候、同九月廿日押込被指免候
嘉永四亥年江戸御供詰
同五子年五月廿五日養父栄蔵病氣及大病御暇相願候二付願之通被仰付、御徒二被召出、御扶持方

荒木金五郎

一五人扶持

如是被下置候
安政元寅十二月廿八日左之通改姓名

荒木金五郎事

岩佐弥五太夫

同五午五月七日支度出来次第江戸詰被仰付、同十六日出立
同六未十二月十六日居物打見習被仰付、御足充行式人扶持被下置候
文久三亥二月十日殿様御上京御供二而出立
同年八月三日御参府御供増被仰付、八月十七日出立、同十二月江戸分御上京御供、子二月十三日御供二而着
元治元子八月廿八日御供二而上京、夫分長征、丑三月帰慶応元丑九月十五日小屋頭坪川武作跡
同三卯十月十八日御趣意二付席其儘小筒組後拒役被仰付
同年十一月晦日宰相様御滞京中為御備上京出立

同四辰二月五日出精相勤候二付、御充行

一切米拾式石三人扶持
如此被下置候

但是迄被下置候七人扶持之義ハ已後不被下候

慶応四辰四月十一日京分帰
同年六月廿五日会征出立、十一月十三日帰、巳二月廿二日為御賞千五百疋被下候、外二十式兩被下
明治二巳二月廿七日歩隊二被仰付、後整衛隊ト改
同年六月廿日名替

弥五太夫事

岩佐弥藤太

同年十一月廿五日今般御改革、更ニ御充行米三拾壹俵三斗六升九合
同三午四月廿五日戊辰北越出張軍事精勵二付、御賞典之内四石三ヶ年被下候事
同 第一大隊十番小隊入
同年十二月八日常備第八小隊入 年給六俵
同四未十月十三日解隊
同年十一月二日組合惣代戸長兼申付候事



岩佐斧右衛門

一切米八石式人扶持
天明四辰年八月是迄御目付物書二候処、年来相勤候二付御預所御代官方

下代被仰付、御充行並之通如此被下置

岩佐尉兵衛

一切米八石式人扶持

寛政四子四月廿六日親斧右衛門及老年候二付立替被仰付、跡御預所御代

官下代被召抱、御充行並之通如此被下置

文化十三子二月十九日同所請込下代飯塚市助跡被仰付

文政六未正月廿五日在方取扱不宜筋相聞候二付立替被仰付候、跡式之儀

者下地割入之御先物頭吉岡伝吾組江被仰付、御充行但並之通被下置候

一切米八石式人扶持

御預所元請込下代

岩佐尉兵衛

文政十一子八月十九日詔合有之御坊主二被召出、御充行並之通如此被下

置、但為冥加金八拾兩上納被仰付候

同日友嘉と名替

同十二丑年二月十一日当丑年江戸詰被仰付候

同年四月三日当丑年江戸詰被仰付置候処、御免被成候

同十三寅年九月廿五日昨年御触通も有之候処、御坊主新入有之候節振廻

等之儀、取扱不参届候二付押込被仰付候、同月廿九日被指免候

同年十一月六日来卯年江戸御供詰被仰付候

天保二卯二月晦日不寝役被仰付、当春江戸御供詰被仰付候

同三辰二月廿六日御帰国御道中小坊主老人不足二付、兼役相勤候様被仰

付

同五年十一月十二日来未年江戸御供詰被仰付候

岩佐友睦 辰吉

一切米八石式人扶持

同七申十月五日親友嘉病氣願之上御暇被下、表御坊主二被召出、御充行

並之通如此被下置

同日友睦と名替

同十二丑三月九日御右筆部屋御坊主不時助被仰付候

同十三寅九月三日御右筆部屋御坊主定助被仰付候

同十四卯十月十六日御右筆部屋御坊主被仰付、御扶持方老人扶持御増、

都合

一切米八石三人扶持

如此被成下

同十五辰二月廿五日当辰年江戸御留守詰被仰付候

同辰十一月三日来巳年江戸詰被仰付候

弘化三年十月十五日来未年江戸御供詰被仰付候

同四未七月九日当八月中公方様御成之節、神田橋へ御立寄可被遊との御

沙汰二付、御用掛り被仰付候

同九月十二日御立寄無御滞被為濟、右御用掛り出精之段達御聴太儀二思

召候、且又小役人以下掛り并掛り同様相勤候者共出精二付、銀五匁被下

置候

嘉永元申年十二月廿一日当夏急御出府被遊候二付、右取調を始御用多相

勤候二付銀拾五匁被下置候

同二酉年十二月十五日今般御前様御引移御婚姻前後無御滞被為濟、御満

足思召候、右御用掛り出精二付式拾式匁五分被下置候

同三戌年正月十五日出精相勤候二付一統格二被成下候、但江戸二而

同年十月廿日來亥年江戸詰被仰付候

岩佐収造

同四亥年江戸詰

同年十一月九日今般御改革ニ付御徒番所勤指免候事

同年十一月三日御帳付見習被仰付、御充行式石御増、都合

但軍政局可為支配事

一切米拾石三人扶持

一 同年十一月廿五日今般御改革、更御充行式拾八俵三斗五升八合被下

如斯被成下候

同月晦日御預ケ人当番勤申付候事

同日左之通名替

同三年三月八日御金土藏元切手御門口山里御門当番申付候事

友睦事

同年七月十八日民政寮収納方総会所會計寮泊り番更ニ申付候事

岩佐尉兵衛

同年十一月晦日右四ヶ所泊番改而申付候事

嘉永六丑年三月十一日一統上席ニ被成下、御広敷添役被仰付候

同五年九月廿五日老年ニ付隠居

万延元申十二月十六日出精相勤候ニ付、御足充行式石被下置候

同廿八日左之通名替

岩佐徳一郎 実連伝倅ニ而八月廿五日立替候、小牧徳一郎也

尉兵衛事

一 現米拾三石式斗八升

岩佐新助

文久二戌八月十八日当秋芝御陣屋詰御雇被仰付、右詰中御扶持方三人扶

持被下置、役儀之儀者被指免候、閏五月廿四日出立、同三亥九月廿八日

帰着

五十嵐門弥

元治元子十二月賊徒一件ニ付御留守御用相勤、依之三拾三匁被下置候

一米

元治二丑正月十六日出精相勤候ニ付、小役人格二被成下候

御勘定所坊主ニ被召出、御擬作如此被下置

慶応二寅十一月十日小十人組被仰付、砲発調練等致精励候様被仰付

一切米八石式人扶持

同三卯三月十六日御趣意ニ付当分御徒番所勤被仰付、小十人組之儀ハ被

明和七寅十二月五日御勘定所坊主ハ表御坊主江被召出、御充行並之通知

指免、但地廻諸勤共

此被下置

明治元辰九月廿二日御札所銀目書方被仰付

同二巳六月廿一日名替

五十嵐門斎

新助事

一切米八石式人扶持

天明二寅七月六日兄門弥病氣願之上立替被仰付、表御坊主二被召出、御
充行並之通如此被下置

都合
一切米八石三人扶持
如此被成下、支度出来次第江戸詰被仰付、次田善朴与致交代候様被仰付

同三卯年御番外奥御小姓部屋御坊主被仰付

天保六未十一月八日来申年江戸詰被仰付

同六年不寢役被仰付

同七申正月五日当申年江戸詰被仰付置候処、被成御免

享和三亥七月廿五日奥御坊主庭瀬松益跡被仰付

同八酉二月廿三日当秋江戸詰被仰付

文化五辰正月十五日御茶方庭瀬松益跡被仰付

同年来々亥年迄詰越被仰付

同六巳十二月十六日出精相勤候二付、御道具役格二被仰付

同九戌九月四日御養子被仰出候二付御用掛り被仰付

同七年十一月十一日御道具役三浦春賀跡被仰付、切米壹石増、都合

同年十月五日今般御家督并御引移御用掛り被仰付

一切米九石式人扶持

同年十二月五日今般殿様御元服被仰出候二付御用掛り被仰付

如此被成下

同月十四日今般御家督御引移前後無御滞被為濟、右御用掛り出精相勤候旨被仰出候

文政三辰正月十五日出精相勤候二付、一統格被成下

同月廿日今般御家督御引移前後無御滞被為濟、右御用掛り出精相勤候二

五十嵐玄意

一切米八石式人扶持

天保十一子年江戸詰被仰付

文政七申六月五日親門斎先達而及大病御暇相願、其後令病死候二付、倅

同十二丑正月廿三日来寅年迄詰越被仰付

玄意表御坊主二被仰付、御充行並之通如此被下置

同十二丑十一月十九日出精相勤候二付一統格二被成下候、但席藤本久円

但文政元寅九月十六日表御坊主被召出、三人扶持被下置

上

同三辰十月十四日小坊主被仰付

同十三寅十二月七日来卯年江戸詰被仰付候

同六未年江戸御供詰被仰付

同十月五日御帳付見習被仰付、御充行式石御増、都合

同七申年親跡被仰付候二付是迄被下置候三人扶持上ル

一切米拾石三人扶持

同八酉年江戸御供詰被仰付

如此被成下候

同十二丑二月廿八日御右筆部屋御坊主定助被仰付

同日弥左衛門と名替

当丑年江戸詰被仰付候

同十四卯十月廿日來辰年御道中御右筆部屋御坊主御雇御見送り立帰被仰

天保五年五月廿五日御右筆部屋御坊主被仰付、御扶持方壹人扶持御増、

付

弘化二己十二月十六日出精相勤候二付御帳付本役被仰付、御充行式石御増、都合

一切米拾式石三人扶持

如此被成下、役中御足充行三石被下置候

弘化三年八月十三日支度出来次第江戸詰被仰付候

同四未七月九日当八月中公方様御成之節、神田橋御住居江御立寄可被遊との御沙汰ニ付、御用掛被仰付候

同九月十二日御立寄無御滞被為濟、御用掛り出精之段達御聽太儀ニ思召候、小役人已下掛り并掛り同様相勤候者共江銀七匁被下置候

嘉永元申年十二月廿一日当夏急御出府被遊候ニ付、右取調を始御用多相勤候ニ付銀式拾匁被下置候

嘉永四亥正月十六日出精相勤候ニ付御足充行三石御増、都合
一切米拾五石三人扶持

如斯被成下候

嘉永四亥八月廿九日病氣及大病御奉公難相勤ニ付御暇被下置、養子小一郎与申者無役小算ニ被仰付、御充行

五十嵐小一郎

一切米拾式石三人扶持

如斯被下置

同五子四月廿五日此度小算之者共以前へ被復老人扶持御増、都合

一切米拾石三人扶持

如此被下置候

同年五月廿五日御帳付見習被仰付候

安政二乙卯年十二月十三日出精相勤候ニ付、役中御足充行式石被下置候同三辰十月十四日病氣罷在候処及大病御奉公難相勤ニ付御暇相願候、依之願之通被仰付養子捨太郎与申者

五十嵐捨太郎

一切米拾石三人扶持

如此被下置、無役小算ニ被仰付候

文久三亥十月廿九日御帳付見習被仰付候

元治元子二月廿三日京都表江出立、四月廿三日宰相様御供二而帰元治元子六月廿五日宰相様御上京中繁勤相勤候ニ付、為御酒代銀五匁被下置候

同年十二月賊徒一件ニ付出張、御手当銀百匁被下置候
慶応元丑八月廿一日江戸詰出立、寅九月十八日帰

同二寅九月朔日出精相勤候ニ付、金五百疋被下置候
同年十二月十六日出精相勤候ニ付御充行式石御増、都合

一切米拾式石三人扶持

如是被成下候

同年十二月廿八日左之通名替

捨太郎事

五十嵐弥左衛門

同四辰三月八日上京、六月十三日帰

明治卜改元、十月廿一日御趣意ニ付御帳付見習被指免

同二己六月廿九日名替

弥左衛門事

同年 民政局勘定方手伝

同年十一月廿一日今般御改革ニ付役儀被免候事

但附送り之儀ハ追而御指図相待可申事

同月廿二日民政局算者申付候事

一同月廿五日今般御改革、更御充行米三拾壹俵三斗六升九合被下

同月廿九日掌政堂筆者申付候事 但上級

同三年六月廿三日民政寮主帳申付候事 但上級

同年九月十七日宿預ケ者申遣方間違不念ニ付伺之通慎、同廿日御用之儀

ハ相勤候様可申付事、同廿四日指免候事

同年十二月十二日民政寮勤 定式方

但十六等之二等 年給十六俵

同年十一月廿八日居住罷在候持地拜地被下候

同四年六月朔日御改正ニ付免職

同十四日任序掌

但聴訟局振退勤

同年十二月十日任福井県史生 聴訟方

同五年二月八日大野出張所詰被仰付候事

同年六月十二日白山麓十八ヶ村地理之儀ニ付、石川県官員卜立合検査掛

り申付候事

同年五月名替

捨太事

五十嵐直爾

磯野

1

磯野栄助

一切米八石式人扶持

文化七年二月廿八日養父村尾加太夫病氣願之上立替被仰付、跡諸下代之

内江被召抱、嶋崎伝右衛門飯預り被仰付

同年四月十日御預所御代官方雇下代江

同年六月十日御材木方下代へ

同十二月廿七日村尾事磯野与相改

文化九申九月廿二日御代官方川端長兵衛下代へ

文政三辰十二月十九日御広敷書役へ、来秋江戸詰被仰付

同四巳御參府御供大奥女中道中引纏江戸立婦被仰付候

文政七申正月十五日出精相勤候ニ付、小算格ニ被成下

同年七月九日来酉春迄詰越

同十一子十月三日来丑春江戸詰被仰付候、五月三日御着帯御誕生掛り

同十二丑七月十八日当丑年詰ニ御立被下、貞照院様御供嶋崎勘次郎代御

返被成候

同月廿三日貞照院様之方振向勤被仰付候

同十三寅七月十二日御広式書役勘定役兼帯被仰付候

天保二卯年正月十六日出精相勤候ニ付御充行式石御増、都合

一切米拾石式人扶持

如此被成下候

天保二卯二月二日大奥女中引纏江戸立婦被仰付候

同年五月十五日御指留中当番相勤候様被仰付候

同年九月廿日立婦御用ニ而罷越帰国御指留被置候処、此度詰ニ被仰付候

同三辰二月十一日来巳年迄詰越被仰付候

同十一月廿五日来々午年迄詰越被仰付候

天保四巳十二月廿七日栄助事友太夫与名替

天保五午正月十五日出精相勤候ニ付小算被仰付、詰中御広敷勘定掛り手

伝被仰付候、但席中川捨五郎次

同年五月十七日先達而於江戸表詰中御広敷勘定掛り手伝被仰付、此度大

奥女中引纏御用ニ而罷帰候処、改而御広式方勘定役書役兼被仰付候

同五年三月廿四日当夏大奥女中道中引纏ニ而詰帰被仰付候

同六年六月五日江戸詰中役儀不念之儀有之ニ付、無役小算被仰付押込、

同七月十四日押込被置候処、今日今被指免候

同七年申年四月五日御広式勘定掛り書役兼当分仮被仰付候

天保八酉十一月廿九日御広敷勘定役書役兼被仰付

同九戌六月廿四日当秋江戸詰佐藤勝右衛門与致交代候様被仰付候

同年八月廿六日今般大奥女中江戸表へ御返シ被成候ニ付、道中引纏ニ而

直ニ江戸詰被仰付

天保十亥六月二日当秋詰帰之処、来子ノ秋迄詰越被仰付

同年十一月七日当年今五ヶ年之間格別之御省略被仰出候ニ付、右掛り被

仰付候

一切米拾石三人扶持

天保十亥十二月廿日出精相勤候ニ付忝人扶持御増、都合拾石三人扶持被

成下候

同十四卯七月四日当卯秋江戸詰被仰付候

同九月十六日出精相勤候ニ付、跡目小算被成下候

同閏九月八日常盤橋勤へ

同月十日御住居御広敷勘定役書役兼へ増

同十一月廿八日御趣意ニ付御住居御台所方手伝兼被仰付

同十五辰五月十二日御住居御台所方手伝兼被仰付置候処、御免被成候

磯野順助

一切米拾石式人扶持

弘化五申年正月廿五日養父友太夫病身ニ付願之上御暇被下、養子順助と

申者無役小算ニ被召出、御充行如斯被下置候、但席山形糸太郎次

同年三月十七日小算勤役被仰付候

嘉永五子年四月廿五日此度小算之者共以前ニ被復忝人扶持御増、都合

一切米拾石三人扶持

如是被下置候

同年十二月廿八日左之通名替

順助事

磯野友太夫

同七寅正月十六日江戸詰出立

同年三月廿三日御殿山へ出張ニ付金式朱被下置候

同年十一月廿八日御門所入之儀、不埒至極之趣相聞候ニ付立替被仰付、

右跡諸下代ニ被召抱、御充行並之通

磯野榮太郎

一切米八石式人扶持

安政二卯二月十一日養父友太夫義、昨年於江戸表被仰付候通諸下代之内

江被召抱、御勝手役仮預り浮下代被仰付候
 同年六月十二日御切米御扶持方粉蔵兼下代へ
 安政三辰五月十四日病身ニ付願之上御暇被下、養子金次郎与申者諸下代
 へ被召抱、御充行並之通

磯野金次郎

一切米八石式人扶持

如此被下置、西村源左衛門仮預り浮下代被仰付候

同年八月廿五日御切米御扶持方粉蔵兼下代へ

同四巳正月廿五日御製造方下代へ

同五年二月十一日御金方下代へ

同六年六月十七日制産方下代へ帰役

同年九月十八日九州表江出立

万延二酉二月十三日出精相勤候ニ付小寄合格ニ被成下、当年限り米式俵
 被下置候

文久二戌四月廿六日帰着

同年十二月十六日出精相勤候ニ付、別段之訳を以小算格ニ被成下候

元治元子十二月賊徒一件出張、御手当三拾五匁被下

慶応二寅二月十七日産物会所下代へ

同四辰二月五日出精相勤候ニ付、年々米三俵ツ、被下置候

同四辰三月十三日上京

同年閏四月十九日当分参与附属被仰付

同年五月十三日御雇を以会計商法司判事被仰付

明治二巳七月廿一日司計局下代勤申付候事

但總會所勘定方手伝江

同年十一月廿二日民政局筆者申付候事

但惣会所勤

同月廿五日今般御改革、更御充行米式拾式俵壹斗八合

同三年十二月十二日民政寮勤 引立勘定租税運上方

但十六等ノ二等 年給十六俵

同四年六月朔日免職、御改正ニ付

同年九月十八日大蔵省御用ニ付至急可致上京事

同年十一月十四日入間県出仕

磯野²

吉田辰右衛門 御広敷錠前番

一切米八石

文政十一子八月晦日出役下代勤被仰付、平瀬五左衛門仮預被仰付、九月

廿二日大野猪兵衛組へ増割入被仰付

同十三寅二月七日古物方下代へ

天保五年六月五日御作事方下代へ

同年十一月二日矢野権平下代へ

同六年十二月十七日楷五郎様御膳所勤被仰付

同七年五月廿五日御膳所勤中椀奉行格被成下

同十一年二月四日御趣意ニ付楷五郎様御膳所勤被指免、当分御勝手役仮

預り被仰付

同三月十六日綿麻方下代被仰付

同十月廿六日福嶋忠右衛門肩下代へ

天保十二丑八月二日平瀬久作肩下代へ

同十五辰七月御扶持方へ

弘化四未年八月廿一日椀奉行御台下代兼へ

嘉永元申年七月廿六日席其儘御預所御金方下代江

同二酉年五月十四日椀奉行御台下代兼被仰付候

同四亥六月四日椀奉行御道具預り御台下代兼被仰付候

同五子八月廿五日山干飯領御代官肩下代へ

但椀奉行役席其儘御代官下代惣列藤井幸左衛門次へ

同年九月廿一日御札所奉行下代江被仰付

同六丑八月十六日依願諸下代株ニ被成下候

但銀拾貫匁上納可有之事

同七寅三月廿日年寄候ニ付願之上御暇被下、養子幸右衛門与申者諸下代

之内へ被召抱、御充行並之通

吉田幸右衛門

一切米八石式人扶持

如斯被下置、西村源左衛門飯預り浮下代被仰付候

同年四月十七日御切米方御扶持方初蔵下代兼江

安政二卯四月廿六日御雜用方下代へ

同三辰七月廿九日病身ニ付願之上御暇被下、養子三蔵与申者諸下代之内

へ被召抱、御充行並之通

吉田三蔵

一切米八石式人扶持

如斯被下置、西村源左衛門飯預り浮下代被仰付候

安政三辰九月十四日与内方下代へ

同四巳正月廿五日御趣意ニ付浮下代西村源左衛門飯預り被仰付候

同年四月廿日御札所奉行下代へ増

同五午正月廿一日病氣ニ付内願之趣も有之、西村源左衛門飯預り浮下代

へ

同年二月晦日病氣ニ付願之上御暇被下、養子鉄次郎与申者諸下代之内へ

被召抱、御充行並之通

吉田鉄次郎

一切米八石式人扶持

如此被下置、西村源左衛門飯預り浮下代被仰付候

安政五午十二月十六日御広敷書役へ

同六未八月十九日江戸詰出立

万延元申十月五日御札所御趣向方下代へ

同二酉正月元日左之通改姓名

吉田鉄次郎事

磯野喜之介

文久三亥十月廿五日産物会所下代江

同四子正月廿日製造方下代江

元治と改元、十二月賊徒一件出張、御手当三拾五匁被下

慶応元丑六月五日出精相勤候ニ付、小寄合格ニ被成下候

同二寅五月六日出坂、十月十日帰

同年十月十二日産物会所下代江

同三卯五月十一日殿下砂子坂領御代官方下代江

同四辰閏四月九日御預所下領御代官方下代江

明治二己七月十九日御領御預所上領收納方下代江

同年十一月廿一日今般御改革二付役儀指免候

但附送り之儀ハ追而御指図之上

同月廿五日今般御改革二付、更御充行米式拾式俵壹斗八合被下、御門番

勤也

同三年二月廿三日民政寮附属申付候事

但引立方算者

一下級

同年十二月十二日民政寮附属指免候事

同四未二月十二日小学校御門番増江



赤尾曾兵衛

一切米拾石三人扶持

享保十五戌八月廿一日小算二被仰付

元文五申二月十三日小算〆切米五石増、都合拾五石三人扶持被成下、御

台所目付被仰付候

延享元子正月十六日切米三石増、都合拾八石三人扶持被成下、御台所目

付〆御勝手役被仰付

宝曆二申十一月十八日病氣大切之趣、近来小役人跡目被仰付之品も候得

共、年来無難相勤格別之趣を以休息被仰付、倅為跡目御徒二被仰付

赤尾忠四郎

一切米拾五石三人扶持

宝曆二申十一月十八日親曾兵衛御勝手役相勤候処、病氣二付休息被仰付

為跡目御徒被仰付、御擬作並之通被下

明和五子八月六日御徒目付被仰付

天明四辰五月六日御徒目付〆御広式添役被仰付

寛政二戌三月十一日果ル

赤尾七五郎

一切米拾五石三人扶持

寛政二戌四月廿九日親忠四郎御広敷添役相勤候処、果候二付年来之勤功

を以為跡目役義其儘小役人格被仰付、御擬作如此被下置

同十月三日儀兵衛与名替

同三亥二月利兵衛与名替

文化九申四月十六日川除奉行多部久左衛門跡被仰付候

文政七申十二月十一日御趣意銀御貸方佐々木武太夫跡被仰付候

同十亥十二月五日新番格御取立、川除奉行被仰付

赤尾久太郎

一切米拾五石三人扶持

文政十二丑三月廿九日親利兵衛年寄候二付休息被仰付、小役人被仰付、

御充行如此被下置

同十三寅十一月廿五日小役人席其儘御徒勤被仰付候、但身分之義ハ是迄之通御奉行支配勤向之儀ハ御徒頭支配之事、御徒仲ケ間座列之儀ハ組頭之上たるへき事

天保三辰八月十二日利兵衛与名替

同年十月廿九日来巳年江戸御供詰被仰付候

同六年十一月廿九日当春不慎之趣相聞候ニ付押込

同十二月廿五日押込被指免候

同八酉秋江戸詰被仰付候

同六月四日此度火之御番ニ付支度出来次第出立被仰付

同八酉十月廿三日此度御場御免ニ付御減ニ相成、勝手次第罷帰候様被仰付

付

同十二月十一日先年御咎被仰付候処、又々当春不慎之趣相聞候ニ付押込

同九戌正月廿九日押込被置候処被指免候

同年三月廿日当年御入部御迎被仰付候

同十亥十二月五日御広敷添役平田三郎右衛門跡被仰付候

同十四卯八月廿五日先年も度々御咎被仰付候処、亦復昨年以來不慎之趣

相聞候ニ付役義并御充行之内式石取揚、一統格ニ被下、押込被仰付、同

九月廿五日押込被指免

一切米拾三石三人扶持

赤尾久作

一切米拾石式人扶持

弘化三年四月廿三日養父利兵衛義病氣願之上御暇被下、無役小算被召出、

御充行如此被下置候

嘉永五年四月廿五日此度小算之者共以前へ被復忝人扶持御増、都合一切米拾石三人扶持

如是被下置候

同六丑二月廿日不慎之趣相聞候ニ付押込、三月廿日被差免

安政五年十一月五日病身ニ付願之上御暇被下、養子光次郎与申者諸下代

之内へ被召抱、御充行並之通

赤尾光次郎

一切米八石式人扶持

如此被下置、御勝手役仮預り浮下代被仰付候

万延元申七月廿日御切米方御扶持方下代兼へ

文久二戌三月五日御材木方炭薪方下代兼へ

同年七月五日御金方下代へ

同年十二月十五日仕出場書役被仰付候

元治元子三月廿二日江戸詰出立、丑四月廿三日帰

慶応元丑五月十五日天徳寺御霊屋御普請ニ付銀拾匁被下

同年十一月九日左之通名替

赤尾光次郎事

石田岩右衛門

同二寅七月廿六日京都詰出立、卯八月廿五日帰

同三卯二月十二日不念之儀有之ニ付伺之上慎、同十五日被指免

明治下改元、十二月十六日年中格別御用多之処出精相勤候ニ付、当年限

米式俵被下置候

同二巳六月十七日左之通名替

岩右衛門事

石田徹二

武曾長兵衛 官左衛門

一切米七石式人扶持

同年十一月朔日今般御改革ニ付役儀被免
同日出納方附属申付候事

天保八酉十一月四日御充行其儘諸下代之内へ被召抱、嶋崎伝太夫仮預り
被仰付

同月廿七日會計寮權少属被仰付候事

同十亥二月晦日出精相勤候ニ付御充行壹石御増、都合

同月 今般御改革ニ付、更ニ御充行米式拾式俵壹斗八合、来正月ハ式
十八俵

一切米八石式人扶持
如此被成下

同四未二月十六日東京詰出立

同十一子二月四日御趣意ニ付楷五郎様御膳所勤被指免、当分御勝手役仮

但御東京ニ付御道中御用弁相勤候事

預り被仰付

同年四月四日詰中造宮掛り兼被仰付候事

同六月廿日炭薪方御材木方下代兼へ

同年六月朔日御改正ニ付免職、在京中従前之通

同十月廿四日山方渡り下代江

明治四未七月十三日任福井藩權少属

同十四卯十月玉薬方下代へ

出納方可相勤事

弘化二巳年十二月十七日左之通名替

名替

官左衛門事

徹二事

長兵衛

石田磊 コイシ

同月廿一日詰中權大属之御取扱ニ被成下候事、且失却も有之ニ付金式拾

同三年十月十二日追廻方下代江

兩被下候事

同四亥八月廿八日病氣ニ付願之上御暇被下、養子藤九藏与申者未熟ニ付

同年十月廿七日任東京府權少属

当分表御坊主被仰付、御充行

同五申二月願之上帰省

同年三月十七日任足羽県史生 総会所勤

武曾藤悦

一切米八石式人扶持

如斯被下置

同日藤悦与名替



嘉永五子七月二日小坊主被仰付候

同年十二月廿八日左之通改姓

武曾事

成田藤悦

同七寅四月晦日表御坊主被仰付候

安政二卯五月十一日去ル亥年未熟ニ付当分表御坊主へ被仰付置候処、此

度諸下代之内へ被入、西村源左衛門飯預り浮下代被仰付候

同日左之通名替

藤悦事

成田藤一郎

同年十月廿六日御腰物方下代増江

同四巳 御製造方下代被仰付候

同年十二月左之通名替

藤一郎事

成田権左衛門

万延元申十二月廿日青山領大谷村磯吉与申者へ銀子引合有之候与ハ乍申、

役所ニ有之候同人糸無断取出シ売払候始末、不届ニ付立替之上押込

但他国出之儀ハ被指留候事

右御不審ニ付先達而シ親類共江御預ケ被仰付置候事

同二酉二月十日押込御免

同十六日昨冬不調法之儀有之立替被仰付候、跡養子左一郎与申者諸下代

之内へ被召抱、御充行並之通

一切米八石式人扶持

如此被下置、西村源左衛門飯預り浮下代被仰付候

文久二戌十二月六日御切米方御扶持方下代兼へ

同四子正月廿五日御蔵所下代へ

元治元子十二月賊徒一件ニ付御留守御用相勤、依之拾式匁被下

慶応元丑十二月十九日左之通改姓

成田事

石田左一郎

同三卯三月廿九日病氣ニ付願之通御暇被下、養子熊三郎与申者諸下代之

内江被召抱、御充行並之通

石田熊三郎

一切米八石式人扶持

如斯被下置、会所預り兩人飯預り浮下代被仰付候

明治二巳十一月廿五日今般御改革、更御充行米式拾式俵壹斗八合被下

同年十二月九日会計寮附属申付候事

同三年六月十二日役所不締り之儀有之役前不参届ニ付押込、同十七日謹

慎中ニ候得共御用之儀ハ可相勤事

同廿二日被指免候

同年十二月十二日会計寮附属指免候事



※イ末にあり

成田左一郎

橋本次郎助 御目付千本藤左衛門組物書

一切米八石式人扶持

安政二卯年正月十六日年来出精相勤候ニ付諸下代之内江被召出、御充行
如此被下置候

但跡株御定之銀高半分上納ニ而被下置候事

ノ

同十八日銀壹貫五百匁致上納候事

同年四月廿六日玉葉方下代江

同年九月七日新札出来中御札所御趣向方下代兼へ

安政三辰六月廿四日御雜用方下代へ

同四巳江戸詰

安政六未二月廿九日三国山岸領御代官方下代へ

元治元子十二月賊徒一件出張、御手当三十五匁被下

慶応二寅二月六日年寄候ニ付御暇被下、倅諸下代之内江被召抱、御充行
並之通

橋本吉之介

一切米八石式人扶持

二月廿四日養子吉之介如此被召抱、渡辺藤太夫仮預り浮下代被仰付

同年五月二日御切米御扶持方下代兼江

同年十二月廿五日左之通名替

吉之介事

橋本喜之介

同三卯五月十六日御雜用方古物方下代兼江

同四辰六月廿五日会征出立、十一月十日御内用有之、若松表分早驅ニ而

帰、巳二月廿二日右出張ニ付十兩被下候

明治二巳四月九日中納言様御供東京江出立

同年六月十一日庶務方下代江、但月給米一ケ年分壹俵被下候事

同年九月晦日歸藩申付、十一月二日帰

同年十一月朔日今般御改革ニ付役儀指免候事

同月廿五日今般御改革ニ付、更御充行米式拾式俵壹斗八合被下

同年十二月十三日当分給禄方手伝申付候事

同月十四日會計寮附属申付候事

同三午四月廿五日戊辰北越出張軍事精勵ニ付、御賞典之内十兩被下候事

同年六月十二日役所不締り之儀有之、役前不参届ニ付押込、同十二日謹

慎中ニ候へ共御用之儀ハ可相勤、同廿二日被指免候

同年十二月十二日會計寮附属指免候事

同四未正月十二日洋人居住所見張番申付候事

同月廿日当分会計寮江

同年十二月改姓

橋本事

石田喜之助



吉山平八郎

一切米八石

弘化二巳七月十一日御作事組下代分出精相勤候ニ付、其身一代諸下代之

内へ被入、御充行壹石御増、都合如此被成下、御作事方下代勤被仰付

同十月十日來午年江戸詰被仰付

嘉永元申年十二月五日当秋原平左衛門組中之節罷越及乱酒候趣相聞候
二付、移りを以支配頭合押込

同三戌年十二月十六日出精相勤訳合も有之二付諸下代之内江被入、其儘
御作事方下代二被指置候

同四亥年正月廿六日御材木方炭薪方下代兼江、但森川健吉上江

同四亥五月十七日追廻方下代へ

嘉永五子正月廿四日東郷領御代官肩下代江

同年十月二日御広敷書役へ

同六丑三月廿五日江戸表出立

同年四月九日慎姫様御入輿二付御用掛り被仰付候

同七寅正月十日來卯ノ春迄詰越被仰付候、卯四月帰着

同年四月廿日大輿向御人減御趣法替被仰出候二付、右掛り被仰付候

安政元寅十二月廿五日出精相勤候二付、小算格二被成下候

同四巳正月廿五日綿麻方下代へ

同五午二月九日糸御趣法方下代へ

同年十二月十六日御厩方下代へ

万延元申十月廿日倅利金太不埒至極有之、御城下七里四方御追放被仰付
候二付伺之上慎

文久元酉六月廿日玉薬方下代江

但亥八月廿三日已來玉薬奉行被相止、右役所製造方江附属被仰付

候二付、製造方下代二相成候事

元治元子四月九日追廻方下代江

同廿八日病身二付願之通御暇被下、養子周藏与申者諸下代之内江被召抱、

御充行

吉山周藏

一切米八石式人扶持

如此被下置、御勝手役仮預り浮下代被仰付候

同年十二月賊徒一件、御留守御用相勤候二付銀拾式匁被下

慶応元丑十二月廿四日左之通名替

吉山事

石丸周藏

慶応二寅正月廿一日御武具方彈薬方下代兼へ

同年十一月十一日御武具御改正中出精相勤候二付、銀五拾匁被下置候

同年十二月十六日於御武具役所不慮之致怪我可為難儀二付、為御手当銀

式百匁被下置候

同三卯八月二日御金方下代江

同年十二月十六日上京出立候処、御模様二付途中引返帰

同四辰正月八日上京詰越、巳三月朔日東京江罷越候事

明治二巳十一月朔日今般御改革二付役義被免

同月四日御金方附属申付候事

但年給壹俵被下候事

同月 名替

周藏事

石丸静之介

同月廿五日今般御改革二付、御充行米式拾式俵壹斗八合被下

同三年二月七日今般御改革二付御金方被廢候、依之勤向指免候事

同日貨幣局算者申付候事

但下級

同年三月 從東京歸

同月廿七日會計寮附属出納方申付候事

但中級

同年五月十七日持家無之二付、安西関六家屋敷相對ヲ以讓受地所抱地ニ

仕度旨、願之通被仰付

同年十二月十二日會計寮勤 主帳之算者

但十六等ノ三等 年給十三俵

同四未六月朔日御改正ニ付免職

同廿七日藩庁附属申付候事

但出納方 等外ノ一級

同五申正月廿五日給祿方差免候事

同日右雇申付候事

同年三月四日礼服用七尾県へ早々出頭申付候事

同 等外二等出仕

同年五月名替

静之介事

ノリヨシ
石丸順義

同六年 廢県ニ付免職

一 同年三月 病死

一 同廿二日養子

石丸文雄 実福岡甚作倅也

一 給祿拾石壹斗四升

飯塚

飯塚市助

一切米八石式人扶持

天明四辰年御勘定所御雇仕出場留附被仰付

寛政元酉年十一月廿日養父安太夫相果候跡諸下代之内江被召抱、平瀬五

左衛門仮預り被仰付候

同二戌年二月廿二日御代官有賀市右衛門下代被仰付

同七卯十二月十日今庄領之内所々荒所追々起返シ御田地相仕立候ニ付、

御褒詞之上御目錄金貳百疋被下置候

同九巳九月十一日郡奉行梶川半兵衛下代被仰付

享和元酉年六月廿日請込役被仰付

同二戌十二月十六日出精相勤候ニ付、小算格被成下候

文化二丑年十月十六日田野村新田開発之義出精取斗候ニ付、為御褒美金

壹両被下置

同三寅六月廿日不宜義有之候ニ付、格式御取揚浮下代被仰付候

同年十月廿七日御台所方内藤直右衛門下代被仰付

同四卯五月四日支度出来次第江戸当分長詰被仰付候、詰中年々為失却金

三兩ツ、被下置候

同六巳四月十一日出精相勤候ニ付小寄合格被成下、交代帰国被仰付候

同七午二月朔日御預所御代官松山藤助受込下代被仰付

同十三子年二月十七日格式其儘浮下代被仰付

同閏八月十九日御武具方下代被仰付候

文政三辰年御勘定所追廻方下代被仰付

同五年三月御代官方請込下代被仰付

同九戌三月病身二付浮下代被仰付、大谷武兵衛飯預り被仰付候

同月病氣願之上立替被仰付候

飯塚権吉

一切米八石式人扶持

同年三月廿一日下代勤被仰付、御充行並之通如斯被下置、大谷武兵衛飯預り被仰付候

同十亥四月廿一日三国御趣法方下代勤被仰付、御勝手役飯預り

同十一子十二月十九日仕出場留付江

同月廿八日市助与名替

同十二丑十一月九日謙五郎様此表江被為入候二付御趣意有之、御同所様

御膳所勤被仰付候

天保二卯三月十六日出精相勤候二付、椀奉行格被成下候

同年八月十六日御趣意二付昼夜隔日勤御免被成候

同六未七月四日御雜用方下代江転役被仰付候二付、以来格式無之事

同七申十一月五日來酉年江戸詰被仰付候

同八酉十一月四日謹姫様御入輿御調御用掛り被仰付候

天保九戌四月廿一日出精相勤候二付、小寄合格被成下候

同年八月廿六日此度殿様御尊骸運正寺江御納被成候二付、御用掛り被仰

付

同十一子十一月廿六日御武具方下代江

同十三寅九月十六日山方下代江

同十四卯十二月五日金津奉行下代へ

同十五辰十月十一日御貯方定掛り下代へ

弘化二巳六月廿九日金津下代勤中不参届趣相聞候二付押込被仰付、同七月六日押込被差免候

同四未正月十六日出精相勤候二付、小算格二被成下候

嘉永二酉年五月十四日御趣意方下代江

嘉永五子正月十九日金津奉行請込下代江

同一年十二月十六日出精相勤候二付、当年分米三俵ツ、年々被下置候

同六丑年正月廿五日昨年三国湊汐見橋御掛替之節、折々見廻り致心配候

二付為御酒代銀拾匁被下置候

安政元寅十二月十六日出精相勤候二付御充行式石御増、都合

一切米拾石式人扶持

如是被成下候、但是迄被下置候米三俵ハ以後不被下候

安政三辰六月十六日御趣意方勤中勤方等閑、且又仕來役徳与心得候与ハ

乍申、配当銀等過分申受、殊二一旦右銀子高書上ケ候以後、同勤之者及

白状候二付、亦復銀子申受候段相頭候始末不届至極二付、格式并御充行

之内式石取揚浮下代二被仰付押込、但不正之筋二相当り候銀子七貫八百

目御趣意方へ上納被仰付候、七月六日押込被差免候

同四巳五月廿六日与内方下代江

万延元申六月廿一日御預所御代官方下代へ

文久二戌十二月十六日出精相勤候二付、別段之訳を以小寄合格二被成下

候

候

元治元子五月廿二日御預所郡方下代へ

慶応三卯四月十六日御納戸方下代江

同年八月廿二日御預所御代官受込下代江

同四辰六月十二日年寄候ニ付御暇被下、俸祥介与申者諸下代之内へ被召抱、是迄之通軍事方書記役被仰付候、御充行如此被下置候

飯塚祥介

一切米八石式人扶持

但右祥介

一三人扶持

小寄合格 市助倅 太郎一事

飯塚順節

元治元子二月廿九日表御坊主ニ被召出、如此被下置候

同年十二月賊徒一件、御留守御用相勤候ニ付銀拾六匁被下

慶応元丑四月十一日御時計役兼帯被仰付候

同三卯三月十六日御趣意ニ付被召出之儀ハ被相止候得共、御憐

愍を以鳴物方被仰付、勤中如此被下置

一耆人半扶持

同日左之通名替

順節事

飯塚祥介

同年四月八日軍事方書記方被仰付候

明治二己七月六日名替

祥介事

飯塚益男マスラ

同年十一月廿五日今般御改革ニ付、更御充行米式拾式俵壹斗八合被下

同年十二月廿二日学校名簿申付候事

同三午二月四日右名簿指免候事

同月五日歩兵修行被仰付候

同四未二月 兼而漢学入門致居候処、今般東京江罷越一層専門ニ修行

仕度願之通被仰付、三月廿三日出立

同年七月十七日名替

益男事

飯塚雄タケン



1

小泉増右衛門

一切米八石式人扶持

文化十酉十一月六日中根新左衛門組小泉増右衛門与申者、尾崎庄兵衛下代へ御人撰を以出役被仰付、下代勤出役中御充行並之通八石式人扶持被

下置

同十一月五日中午根新左衛門物書増右衛門倅小泉助八与申者、御

預所御金奉行雇下代相勤居候処、親増右衛門勤功を以御側物頭

中村仲組明株被下置

文化十一戌七月三日松田善右衛門組御切米方下代勤小泉増右衛門与申者、病氣ニ付願之上下代勤被指免、御充行並之通九石式人扶持被下置候

曰文化十酉十一月六日之御書付二ハ、諸組割入御趣意中ニ而御人

撰を以出役と被仰付候得共、御目付物書拾六年相勤候功を以、

諸下代江被出夕候事二候得ハ、旧来下代之部江可入筈、御目付
太田三郎兵衛少御奉行西尾源太左衛門江申通、御記録江記置候
様及差図候事

天保十四卯年二月十八日

小泉助八

一切米八石式人扶持

文化十一戌七月親増右衛門致病死候二付、松田善右衛門組へ被入候

文化十四丑年十二月十五日出役御預所御金方下代被仰付、御充行並之通

如此被下置候

文政三辰六月十七日御腰物方下代被仰付候

同六未九月十五日御預所御代官下代へ

同九戌二月五日御代官柳下勘七下代へ

同十二丑七月廿八日御代官横山吉太夫下代江

天保三辰七月廿四日服部弥右衛門下代今跡部又八下代へ

同四巳十二月廿一日増右衛門与名替

同六未年粟田部領へ役替

同戌年砂子坂領へ役替

同九戌十二月十二日御代官粟田部領酒井金五左衛門受込下代へ

同十亥三月六日南居領御代官受込下代へ組替

同年三月廿九日広瀬領御代官木内甚兵衛受込下代へ組替

同十三寅十二月十六日出精相勤候二付小寄合格二被成下候、席加藤庄右

衛門次

同十五辰七月廿四日御武具方下代へ

弘化二巳十月廿一日御厩方下代被仰付、支度出来次第江戸詰被仰付候

同三年三月二日当夏御帰国御道中御供ニ而詰帰リ被仰付候

同十一月十五日御預り所御代官受込下代被仰付候

嘉永二酉年正月十六日出精相勤候二付、小算格二被成下候

同年六月廿六日玉葉方下代江

同三戌年八月十五日御腰物御拵方下代兼被仰付候

同四亥五月十七日御武具方下代江

同五子三月五日御趣意方下代江

安政元寅十二月五日今般大橋御修覆出来二付、為御褒美銀七匁五分被下

置候

同二卯正月廿八日御用之外急度慎罷在候様被仰付候

同年五月廿五日役儀被指免、是迄之通慎罷在候様被仰付候

安政三辰六月十六日御趣意方勤中勤方等閑之趣、且又仕来役徳与心得候

与者乍申、配当銀等申受候始末、不届二付小寄合格江被下ケ押込、但不

正之筋ニ相当り候銀子式貫匁御趣意方江上納被仰付候、七月六日押込被

指免候

同四巳八月十一日病身二付願之通御暇被下、養子

小泉猪三七

一切米八石式人扶持

如是被下置、諸下代之内へ被召抱、西村源左衛門仮預り浮下代被仰付候

安政五年十二月十六日糸御趣法方下代江

同六未四月四日左之通改姓名

小泉猪三七事

池田三右衛門

同七申二月十一日制産方下代被仰付、支度出来次第江戸詰、同十七日出立

万延与改元、五月廿五日御台所方下代へ、来西春迄其儘詰罷在候様被仰付候

文久元酉十月廿九日三国山岸領御代官方下代へ

同二戌十一月七日御納戸方下代江、来亥春江戸詰

同三亥三月十日江戸詰引揚出立

元治元子二月廿七日出精相勤候二付、小寄合格二被成下候

同年四月七日江戸表分婦

同年四月廿二日産物会所下代江

元治元子十二月賊徒一件二付出張、御手当三拾五匁被下置候

同二丑二月十五日東郷粟田部領御代官方下代へ

慶応四辰閏四月廿七日左之通名替

三右衛門事

池田猪右衛門

同年八月廿五日志比領江組替

明治二巳四月廿日御代官方下代池田国太郎妻御咎之処、娘二付伺之上慎被仰付

同年六月廿九日名替

猪右衛門事

池田猪三平

同年七月十九日志比領收納方下代へ

同年十一月廿一日今般御改革二付役義指免候

但附送り之儀ハ追而御指図相待可申事

同月廿五日今般御改革、更御充行米式拾貳俵壹斗八合被下

同三年二月二日当分收納方決算方手伝申付候事

同四未三月十二日下馬御門番江



吉村安右衛門

一切米八石

文化二丑年十二月十七日御先武頭鈴木甚十郎組へ被召抱

文政三辰十月十三日出役下代勤被仰付

同年十二月十九日御藏奉行喜多嶋孫太夫下代へ

同七申八月廿二日御預所御代官松原次郎左衛門下代へ

同十亥六月七日御代官高橋一太夫下代へ

天保五年七月廿二日酒井金五左衛門下代へ

同六未十一月四日跡部又八肩下代へ

同九戌八月二日久野長右衛門下代へ

同十一子二月廿日高橋一太夫受込下代へ

天保十二丑年八月二日多部三左衛門受込下代へ

同十五辰十二月出精相勤候二付、小寄合格二被成下

嘉永二酉年七月廿六日志比領御代官請込下代江組替

同三戌年二月廿四日与内方下代へ

同五子正月廿五日妻他行之節着服、心得違之趣相聞候二付押込、二月五日被指免

同年四月廿日内達之趣茂有之二付出役下代之名目被指除候、但銀八貫匁
上納可有之事

同七寅二月晦日御預所御代官岡十次兵衛肩下代江

但受込脇江

同年五月十四日御預所御代官安川幸助肩下代へ組替

安政二卯年三月廿五日御趣意方下代へ

同三辰八月五日出精相勤候二付、小算格二被成下候

同四巳正月廿五日年寄候二付御暇被下

吉村兼藏

一切米八石式人扶持

安政四巳五月廿六日養父安右衛門先達而御暇被下候跡諸下代之内江被召
抱、御勝手役飯預り浮下代被仰付候

制産方下代へ

同六未十二月十六日不慎之趣有之二付押込、同廿四日御免

同月晦日病氣二付願之上御暇被下、養子国太郎与申者諸下代之内へ被召

抱、御充行並之通

吉村国太郎

一切米八石式人扶持

如是被下置、西村源左衛門飯預り浮下代被仰付候

文久元酉六月廿日御切米方御扶持方下代兼へ

同三亥七月十七日明里御藏所下代へ

元治元子十二月賊徒一件二付御留守御用相勤、依之拾式匁被下

慶応元丑閏五月十五日御金方下代江

同年十一月六日左之通改姓

吉村事

池田国太郎

同二寅十月十六日江戸詰出立、卯十二月十二日帰

但道中ハ御広敷引纏ニ而罷越候

同四辰三月三日三国山岸領御代官方下代江

同年八月廿五日南居山干飯領江組替

明治二巳四月廿日妻ゆき不埒至極之趣有之二付急度可被仰付之処、真柄
元次郎召抱前且昨冬大赦被仰出已前之所業二付、御憐愍を以離縁之上押
込被申付、国太郎伺之通慎被申付

同年七月十九日南居山干飯領収納方下代

同年十一月廿一日今般御改革二付役義指免候事

但附送り之儀ハ追而御指図相待可申事

同月廿五日今般御改革、更御充行米式拾式俵壹斗八合被下

同三午二月十五日造营方附属申付候事

同年八月九日下級申付候事

同年十二月十二日会計寮勤 治水方算者

但年給五俵

同四未六月朔日御改正二付免職



松村平助

一切米八石式人扶持

天明二寅二月十一日御預所御代官方大久保清右衛門定雇下代被仰付、俵
数拾六俵被下置

同四辰八月八日御充行並之通如斯被成下、御代官井上弥大夫下代被召出

寛政五丑八月廿一日西村勘五兵衛下代入替被仰付

同七卯四月廿七日同所高間九兵衛受込下代被仰付

文化四卯三月十一日小寄合格被成下、当時西脇林右衛門請込下代勤

文政元寅八月廿日雪吹牛兵衛受込下代勤へ

同年十二月十六日小算格被成下候

同五年四月廿日病氣願之上出役勤被差免候、且又年来相勤候二付御目録
銀拾匁被下置候

松村金次郎

一切米八石式人扶持

右同日親平助病氣願之上立替被仰付、諸下代之内へ被召抱、御勝手役仮
預り被仰付候

文政六未四月六日古物方下代勤へ

同七月廿三日御切米方矢村甚左衛門下代勤へ

同七申八月九日初藏下代勤へ

同十三寅閏三月十五日高橋久助下代勤へ

天保五年五月廿二日村山嘉助下代勤へ

同六未三月十七日炭薪方下代兼勤被仰付候

同十月二日瓦方下代江

同七申八月五日天梁院様御靈屋御普請御出来之処、出精相勤候二付銀貳

拾匁被下置候

松村甚藏

一切米八石式人扶持

天保九戌十二月廿二日養父十左衛門病氣願之上御暇被下、諸下代之内江
被召抱、御充行如斯被下置、嶋崎伝太夫仮預り被仰付候

同十亥十月四日楷五郎様御膳所勤被仰付

同十一子二月四日此度御趣意有之、楷五郎様御台所大奥江兼帯被仰付候

二付御膳所勤被差免、当分御勝手役仮預り被仰付候

同年六月十九日御雜用方下代江

同十二月六日来丑春江戸詰被仰付

同十三寅五月十一日平瀬久作下代被仰付候

同十三寅十二月廿一日改姓

池村甚藏

弘化二巳八月九日大町次左衛門肩下代へ組替
嘉永元申八月二日三国領御代官肩下代へ組替

同年十二月十四日左之通名替

甚藏事

池村甚右衛門

同二酉年七月廿六日東郷領御代官肩下代へ組替

同五子正月廿一日砂子坂領御代官方肩下代へ組替

安政二卯三月廿五日御趣意方下代江

同三辰八月五日出精相勤候二付、小寄合格二被成下候

同四巳六月廿九日寺社町奉行下代被仰付、役中御充行拾石三人扶持被下

置候

同年十月三日右跡式江

万延元申十二月廿八日他国女通手判賃改正之儀格別致心配候段、厚御褒

詞之上金式百疋被下置候

池村良金 醇三郎 廿二

文久元酉十二月五日出精相勤候二付、小算格二被成下候

一米式拾九俵五升六合

元治元子十二月賊徒一件二付御留守御用相勤、依之拾式匁被下

但右醇三郎林儀右衛門御暇跡仮養子中左之通

明治二巳正月十六日出精相勤候二付小算上席二被成下、御充行式石壺人

扶持御増、都合

一慶応元丑九月廿五日儀右衛門跡小算二被召出

一切米拾石三人扶持

一明治二巳四月九日中納言様御供東京江出立

如此被成下、御勘定所勤被仰付

一同年九月十日雅太郎事醇三郎卜改

同年六月十七日名替

一同月晦日金銀勘定方并御膳所向取扱之廉御納戸方諸品受払兼勤

甚右衛門事

申付候事

池村甚平

一同年十一月五日東京詰更二申付候事

同年 御金方定年番手伝

但詰中御家従出納方附属申付候事

同年十一月朔日今般御改革二付役義被免

一同三年三月十四日大学出仕申付候事

同月四日御金方附属申付候事

一同年四月十四日大奥御建継御普請出精太義二付、金五百疋被下

同月廿五日今般御改革、更御充行米式拾九俵五升六合被下

候事

同三年二月七日今般御改革二付御金方被廢候、依之勤向指免候事

一同月廿五日戊辰北越出張、軍事精勵二付金十兩被下候

同十日元切手口山里御金土蔵番当番申付候事

一同年七月十八日親対面願之上飛脚御用相勤、着

同日当分御金方決算掛り申付候事

一同月十四日大学出仕指免候段、八月二日飛脚二申来ル

同月廿日病院出納掛り申付候事

一同年九月十四日学校附属申付候事 但下級

但中級

一同年十月二日実父甚平跡式相続致度二付願之上学校附属指免候

同年六月廿三日病院附属指免候事

事、但出納方也

同年七月十八日五十六歳以上二付諸勤御用捨被成候事

×

池村

同年九月 病死

同年閏十月四日歩兵修行指出候也

同四未八月四日御用有之上京申付候事、但能勢静造指添也

同廿三日在京中序掌之御取扱之事

同廿八日出立

同年九月九日滞京中臬庁出仕

同五申二月十二日出納寮十三等出仕

同年 大藏省権少属

同年四月十日任出納寮少属



山岡猪太夫

一切米拾五石三人扶持

延享三寅七月朔日猪兵衛倅御徒被召出、御充行如斯並之通被下置

宝曆三酉十二月三郎左衛門与名替

同九卯閏七月六日病氣願之上立替被仰付

山岡市藏

一切米拾五石三人扶持

右同日立替御徒被仰付、御充行如斯並之通被下置

安永七戌十二月三郎左衛門与名替

寛政六寅三月廿九日病氣願之上立替被仰付

山岡仁藏

一切米拾五石三人扶持

右同日立替御徒被召出、御充行如斯並之通被下置

寛政十一未十二月三郎左衛門と名替

文化三寅九月廿一日病氣願之上立替被仰付

山岡市藏

一切米拾五石三人扶持

右同日養父三郎左衛門病氣願之上立替被仰付、御充行並之通如斯被下置、御徒二被仰付

御徒二被仰付

文化六巳十二月廿八日作左衛門と名替

文化十酉六月廿五日病氣二付立替

山岡庄兵衛

一切米拾式石三人扶持

同八月五日養父作左衛門及大病先達而御暇相願、其後令病死候二付、御充行如斯被下置、小算二被仰付候

同十一戌十二月廿五日三郎左衛門与名替

文政三辰十二月廿五日安右衛門と名替

同五年年江戸詰

文政十亥閏六月廿九日御徒不足二付御入人二被仰付、御充行並之通被下置候

同十一子年五月朔日支度出来次第江戸増詰被仰付

同十二丑三月十五日今般火之御番御免被成二付詰帰被仰付候

天保三辰十月廿九日来巳年江戸御供詰被仰付候

同五年二月十五日病氣二付願之通詰二御立被下、御国江御返シ被成候

同五年十二月廿八日安太夫と改名

同六年十二月廿一日押込被置候処被差免候

山岡七之助

一切米拾式石三人扶持

天保七申年六月五日親安太夫及大病御暇相願候二付、無役小算二被召出、御充行如斯被下置候

同年七月五日御徒御入人被仰付、御充行並之通

一切米拾五石三人扶持

如斯被下置候

同八酉秋江戸詰被仰付

同八月十八日病氣二付当秋江戸詰御免被成候

山岡伊三太

一切米拾石式人扶持

同年十二月廿五日養父七之助病身二罷成候二付御暇相願候、依之無役平

小算二被召出、御充行如斯被下置候

山岡平左衛門

一切米八石式人扶持

天保九戌閏四月廿五日養父伊三太病氣願之上御暇被下、諸下代之内へ被召抱、御充行並之通如斯被下置、御勝手役仮預り被仰付候

同年十二月十二日瓦方下代被仰付

同十亥六月五日御金奉行大久保太郎太夫下代へ

同十二月廿五日山岡事市村与改姓

同十一子江戸詰罷越

同十四卯十二月十六日出精相勤候二付、役席小寄合格被成下候

天保十五辰年江戸詰被仰付、四月廿一日出立

市村平左衛門

弘化二巳年四月十六日出精相勤候二付小寄合格二被成下候、席高橋由右衛門次

同七月九日表御代官肩下代江

同八月九日御代官市村三右衛門肩下代江組替

同十二月十五日平太夫と名替

同四未七月晦日御納戸下代当分増

嘉永元年七月十三日当秋江戸詰被仰付、詰中御厩方下代兼帯被仰付候

同二酉年六月十七日当冬御入輿二付御用掛り被仰付候

同年八月八日出精相勤候二付、小算格二被成下候

同年十二月十五日今般御入輿前後無御滞被為濟御満足思召候、右御用掛り出精二付銀拾五匁被下置候

同五子三月五日御預所郡方下代へ

同七寅八月十一日御預所郡方受込下代江

安政二卯七月十一日御預所御領分分郷西長田村用水出入一件二付、先役

六人公辺へ御呼出し二付引纏として出府被仰付候、然ル処同年十一月三日

日帰着

同年十月十一日立帰出府之処御指留被成、当分月勘定助へ

同四巳正月十六日出精相勤候二付、米三俵ツ、年々被下置候

同四巳正月十六日出精相勤候二付、米三俵ツ、年々被下置候

文久三亥八月十一日病氣願之上御暇、倅剛一郎与申者諸下代之中江被召

抱、御充行並之通

市村剛一郎

一切米八石式人扶持

如此被下置、御勝手役仮預り浮下代被仰付候

一無息中

文久二戊八月芝御陣屋詰御雇被仰付

(文久三)

同年九月五日御切米方御扶持方下代兼へ

元治元子五月廿二日御台所方下代江

同年七月十一日仕出場書役江

一同年十二月賊徒一件出張、御手当三拾五匁被下

同二丑三月十三日江戸詰出立、寅四月廿日帰

慶応二寅正月廿三日左之通名替

剛一郎事

市村肅二

同三卯八月二日御広敷書役江

同年十二月廿二日出精相勤且訳合も有之二付、役席小寄合格ニ被成下候

同四辰三月三日役席其儘中領郡方書役下代江

明治二巳二月十七日金津芝原領御代官方下代江

同年七月十九日惣会所引立勘定方江

但年給忝俵ツ、

同年十一月廿二日民政局筆者申付候事

但惣会所勤

同月廿五日今般御改革、更ニ御充行米式拾式俵斗八合

同三午閏十月十九日御用有之二付東京府江可罷越事、同廿七日出立
同年十一月十二日東京府出仕權大属心得勤申付候事

町会所掛り可相勤事

同月廿五日右出仕ニ付民政寮附属指免候事

一同四未十一月十日依病氣願免職之事

一同五申正月廿三日工部省権中録

一同年二月 和歌山県八等出仕

猪坂

猪坂平太夫

一切米八石式人扶持

文政十二丑三月十五日出役下代勤被仰付、御充行並之通被下置、平瀬五

左衛門仮預り被仰付

同十三寅二月七日御材木方下代当分仮

同年七月六日栗原作太夫下代江

天保二卯二月十六日御趣意ニ付浮下代嶋崎伝太夫仮預り被仰付候

同年九月五日金津奉行仮下代福井勤被仰付、但金津奉行支配

同四巳二月廿五日中領郡方肩下代江

同六未十一月四日御納戸方下代江

同七申年四月七日当秋江戸詰被仰付候

同八酉五月八日役前不念之趣有之二付押込、同廿八日押込被差免

同年十月四日謹姫様御入輿御調御用掛り被仰付候

同九戌二月廿日去秋詰帰之節御用多ニ付詰延被仰付、当春致越年候処、

未御用濟ニも相成不申候ニ付詰越被仰付候

天保九戌五月十日詰越被仰付罷在候得共、追々御用薄ニも相成候ニ付詰

帰被仰付、勝手次第致出立候様被仰付候

同十亥三月六日産物方下代へ

同十一子八月三日南居領御代官蓮川小伝太肩下代江

天保十二丑八月二日山岸領御代官松尾伝蔵肩下代江組替

同十五辰七月廿四日御作事方下代へ

弘化三年十二月十六日出精相勤候ニ付小寄合格被成下候、但席坂下与左

衛門次

弘化四未十二月二日三国領御代官肩下代江、但御代官肩下代惣列吉江定

右衛門次

嘉永元申八月二日志比領御代官肩下代江組替

同二酉年七月廿六日品ヶ瀬領江組替

同四亥八月十二日今庄領御代官肩下代へ組替

同七寅二月晦日金津領御代官受込下代江

安政三辰二月十七日綿麻方下代江

同年二月廿五日依願諸下代株ニ被成下候

但銀五貫匁上納可有之事

安政四巳正月廿五日年寄候ニ付御暇被下、倅慎平与申者諸下代之内へ被

召抱、御充行並之通

猪坂慎平

一切米八石式人扶持

如斯被下置、西村源左衛門飯預り浮下代被仰付候

安政四巳三月廿五日表御金方下代江増

同五年八月朔日江戸詰出立

同年八月廿二日左之通名替

慎平事

猪坂新平

万延元申六月廿一日南居山干飯領御代官方下代へ

元治元子二月廿一日御金方下代江、支度出来次第京都詰被仰付、同廿五

日出立、八月八日帰

同二丑正月十六日出精相勤候ニ付、小寄合格ニ被成下候

元治元子十二月賊徒一件ニ付御留守御用相勤、依之拾式匁被下

慶応下改元、丑七月廿一日御作事方御普請方下代江

同年九月四日追廻方下代江

同二寅四月廿五日堺町戦争一件ニ付、公辺今被下配当金五百疋被下置候

同三卯五月廿九日御趣意ニ付役儀被指免、御勘定所支配ニ被仰付候

同年八月二日御製造方下代江 巳二月年給一俵

明治二巳十一月廿五日今般御改革ニ付、更御充行米式拾式俵壹斗八合被

下

同月廿七日右同断ニ付製造局被廢候、依之役儀指免候

同三年三月五日先達而分錢札書認出精ニ付、銀百五拾匁被下置候

同年七月廿三日洋人居住所見張番申付候事

同年十一月晦日右同断改而申付候事

岩井

岩井八太郎 大坂御館入

一米拾九俵三斗六升五合

一明治三年十月九日卒族ニ被成下、給禄適宜改正米十九俵三斗六升五合被下候

一同四未八月三日福井県へ引越申付候事

岩尾

藤井久斎 庄藏事 堀丞太夫組

一三人扶持

文政四巳三月十七日表御坊主御雇被仰付、如此被下置候

同十八日久斎与名替

同六未年二月八日小坊主ニ被仰付候

同九戌年 表御坊主ニ被仰付候

同十一子江戸御供詰被仰付候

同十二丑三月廿五日今般御焼失ニ付火之御番御免被成候ニ付、詰帰被仰付候

同十三寅年閏三月十三日奥御坊主被仰付候

同年九月十三日間違之義有之候ニ付押込

同年十月廿三日来卯年江戸御供詰被仰付候

天保二卯十二月廿一日不慎之趣在之ニ付押込、同廿七日被差免候

同三辰 来巳年江戸御供詰被仰付候

同四巳十二月廿日出精相勤候ニ付、当年限り金式両被下置候

同五年午十一月十二日来未年江戸御供詰被仰付候

同六未年閏七月十三日御遺骸御国へ被為入候ニ付、御道中御供ニて立帰被仰付候

同年十二月廿日出精相勤候ニ付、御坊主順席ニ被成下候

同七申年二月廿三日来酉年迄詰越被仰付候

同十月十七日来々戌年迄詰越被仰付候

申十二月廿六日門悦与名替

同九戌八月廿五日支度出来次第江戸詰被仰付

同十亥三月廿八日御滞府中詰越被仰付

同年四月廿九日当春不慎之趣相聞候ニ付押込、同五月十九日押込被指免候

同十一子四月十九日来丑年迄詰越被仰付候

同年八月十七日当秋交代被仰付候

一切米八石式人扶持

天保十二丑正月十六日出精相勤候ニ付、御充行並之通如此被成下

同十四卯閏九月廿九日来辰年江戸御供詰被仰付

同十五辰十一月三日来巳年江戸御供詰被仰付候

弘化二巳二月十八日病氣内願ニ付当春江戸詰被仰付置候処、御免被成候

同三年十月十六日来未年江戸御供詰被仰付候

一切米拾石式人扶持

同四未三月五日御帳付見習被仰付、御充行式石御増、都合如是被下置

同日政右衛門与名替

同六日当秋江戸詰被仰付候

嘉永元申年十二月七日当夏田安一位様御容躰ニ付、急御出府被遊候節於

江戸表掛り同様相勤、出精之段御褒メ被下

同三戌年三月十六日出精相勤候ニ付御扶持方壱人扶持御増、都合
一切米拾石三人扶持

近藤事

杉野直吉

如斯被成下候

同三辰二月廿六日明道館着到附被仰付候

同五子年四月十一日病氣罷在御奉公難相勤候ニ付、御暇被下置候様相願
候、依之願之通被仰付、養子多之助与申者無役小算ニ被仰付、御充行並
之通

同四巳十二月十一日於除痘館役前等閑之趣相聞候ニ付押込、同月晦日御
免
左之通名替

之通

同午

藤井多之助

直吉事

杉野初五郎

一拾石式人扶持

如是被下置候

同年同月廿五日此度小算之者共以前へ被復壱人扶持御増、都合

同六未五月廿三日御切米方御扶持方下代兼へ
万延元申七月廿日御蔵所下代へ

一切米拾石三人扶持

如此被下置候

同年八月二日小算勤役被仰付

同年八月十一日病身ニ付内願之通西村源左衛門仮預り浮下代被仰付候
同年十一月五日病氣ニ付願之上御暇被下、養子久次郎与申者諸下代之内
へ被召抱、御充行並之通

安政元寅十二月廿八日左之通改姓

藤井事

杉野久次郎

一切米八石式人扶持

近藤多之助

如此被下置、西村源左衛門仮預り浮下代被仰付候

安政二卯九月三日病身ニ付願之上御暇被下、養子直吉与申者諸下代之内

江被召抱、御充行

同二酉正月廿日玉葉方下代へ

文久元酉八月七日病身ニ付願之上御暇被下、養子助蔵与申者諸下代之内
へ被召抱、御充行並之通

近藤直吉

一切米八石式人扶持

如是被下置、御勝手役仮預り浮下代被仰付候

杉野助蔵

一切米八石式人扶持

安政二卯九月十九日左之通改姓

如此被下置、野村治右衛門仮預り浮下代被仰付候

一文久二戌三月十一日表御坊主江

同日左之通名替

助藏事

杉野周甫

同年十二月二日御時計役兼帯介被仰付候

同三亥二月十日殿様御上京御供二而出立

同年三月廿五日中午将様御供二而京都分帰着

同年十月十三日中午将様御供二而上京

同四子正月十九日御時計役被仰付候

元治と改元、九月廿三日不寝役被仰付

一 同年十二月賊徒一件出張、御手当三拾五匁被下

同二丑正月左之通改性

杉野事

岩尾周甫

慶応二寅正月晦日奥御坊主順席被仰付

同年六月廿五日宰相様御登坂御供出立、十月六日帰

同三卯四月八日御附奥御坊主被仰付候

同月十二日宰相様御上京御供出立、八月九日帰

同年十一月二日御上京御供出立、辰三月十四日帰

同四辰閏四月五日上京、八月十三日帰

明治と改元、十月五日上京、巳二月十二日帰

同二巳四月九日中納言様御供東京江出立、午正月帰

同年九月廿一日名替

周甫事

同年十一月廿五日今般御改革、更御充行米式拾貳俵壹斗八合被下

同三年八月七日東京江出立

同年十一月十日地藏町元御留守組前地所埋立拜地、願之通



野田半右衛門 江戸定

一切米七石

文政三辰年御住居御広敷御出居番被仰付

同八酉年御本殿御広敷御出居番被仰付、御徒代り御書使御内御献上附御

葉取相勤

同十二丑年御住居御広敷打込勤被仰付、其後同御徒助度々被仰付、御書

使を初本役同様相勤

天保七申年表御出居番へ

同十亥年小寄合格被成下、砂村御抱屋敷守り被仰付

同十四卯年正月十九日出精相勤候二付御充行壱石御増、都合

一切米八石

如此被成下候

野田半次郎

一切米八石

弘化二巳四月廿二日養父半右衛門病氣二付願之上御暇被下、養子半次郎
与申者諸下代之内へ被召抱、御充行八石式人扶持被下置、御勝手役仮預

浮下代被仰付

同年五月二日砂村御抱屋敷守被仰付

同三年正月廿六日砂村御屋敷奉行下役并御庭預り兼被仰付

嘉永元申年八月十日御台所方下代江

同二酉年六月十七日当冬御入興ニ付御用掛り同様被仰付

同年七月十三日御武具方下代孫嫡子御宮掛り兼御住居御出居番兼帯被仰

付候

同年十二月十五日今般御前様御引移御婚姻前後無御滞被為濟御満足思召

候、然ル処先役中掛り同様相勤候ニ付銀拾五匁被下置候

同三戌年四月十日御武具方下代被指免、孫嫡子御宮掛り并御住居御出居

番勤是迄之通

同年七月十八日御上屋敷住居ニ付、孫嫡子御宮掛り之儀御不弁理ニ付被

指免

野田伝次郎

一切米八石式人扶持

嘉永六丑八月七日養父半次郎病氣願之上御暇被下、養子伝次郎与申者諸

下代之内江被召抱、御充行如是被下置、御勝手飯預り被仰付候

同年十一月四日当分御広敷御出居番飯へ

安政四巳九月十六日御趣意ニ付御出居番勤被指免候

同六未正月廿九日当分御台所方下代飯江

同年十一月廿四日御台所方下代へ

文久二戌十二月廿四日来春中将様御船ニ而御上京被仰出候ニ付、陸通御

先出立

同三亥三月十八日京へ振りニ而江戸へ出立、十月十二日御国江着

元治元子四月廿二日御預所御金方下代江

同年九月五日病身ニ付願之通御暇被下、養子八介と申者諸下代之内江被

召抱、御充行並之通

野田八介

一切米八石式人扶持

如斯被下置、池村半兵衛飯預り浮下代被仰付候

同年十二月賊徒一件、御留守御用相勤候ニ付銀拾式匁被下候

慶応元丑五月二日追廻方下代江

同年同月十四日製造方下代江

同年十二月十六日左之通名替

八介事

野田粮蔵

同二寅十二月十五日左之通改姓名

野田粮蔵事

本庄立輔

慶応三卯正月廿九日大砲方下代江

同四辰閏四月十六日製造局下代江

同年六月廿五日会征出立可致処延引、七月九日大砲并弾薬才領ニ而越後

表へ出立

巳二月四日太政官會計御用ニ而下筋令着、夫令西京江罷越、四月三日帰

但二月廿二日右出張ニ付三千疋被下、別段十兩被下

明治二巳八月七日器械製造局下代被免

同年九月廿六日病氣願之上御暇被下、養子石太郎与申者諸下代之内江被召抱、御充行並之通

本庄石太郎

一切米八石貳口

如此被下置、御勝手役仮預り浮下代申付候事

同年十一月廿五日今般御改革、更御充行米貳拾貳俵壹斗八合被下

同三年正月十日生兵修行指出候

一同三年五月廿五日本庄立輔戊辰北越出張各所戰爭拔群尽力ニ付、御賞典之内永世四石被下候事

同四年三月十三日岩佐藤太郎給禄并拝地とも相對ヲ以振替願之通

一米貳拾三俵三斗六升三合

同年七月左之通改姓

本庄事

稲垣石太郎

同五申五月

石太郎事

稲垣ミノリ抵

三 新番格以下
ハ



八田善助

一切米八石式人扶持

文政六未正月十七日御充行並之通被下置、御切米方矢村甚左衛門下代勤被仰付、同十九日御先物頭吉岡伝吾組へ増割入被仰付

同七申三月十九日御奉行書役下代勤へ

同八酉年江戸詰

同九戌七月九日御預所仕出場書役下代勤へ

同十三寅正月廿一日奈良助右衛門極方下代二被仰付

同年江戸詰被仰付候

同年四月四日今立五郎太夫極方下代へ

同十三寅年七月五日御住居御普請御用掛り被仰付

天保三辰十二月五日此度於江戸表御住居御普請宜出来、右御用掛り出精

之段御褒詞被成下、御目錄銀七匁五分被下置候

同四巳年九月十六日小算二被召出、御充行並之通、都合

一切米拾石式人扶持

如斯被下置候

同年十月十九日来午年江戸詰被仰付候

同六未十一月廿日嘉左衛門与名替

同七申二月廿五日当年大橋御修覆被仰付候二付、御用掛り被仰付候

同年十月十一日今般大橋御修覆中出精相勤候段御褒詞被成下、御褒美銀

式拾匁被下置候、同日右同断銀拾五匁別段二被下置候

同十亥六月十一日御札所受込差添斎川安右衛門跡被仰付

天保十二丑四月四日先達而御内用二付府中表江罷越候節、不埒至極之趣相聞候二付御扶持被召放候

天保十三寅十二月十六日別段之誤合を以再御扶持人二相成候義、被差免候

天保十五辰正月廿日御札所御趣向方江被召出

一切米八石式人扶持

八田嘉左衛門

御充行如斯被下置、請込手伝被仰付候

同年四月八日御内御用有之二付立帰出府被仰付候、但株金上納可有之事

弘化三年十一月十一日新札引替之節出精之段褒又可遣候

同十二月十六日被召出今年数無之候得共、出精相勤候二付格外之誤合を

以小寄合格被成下候、但席斎藤又助次

同四未二月十日御札所御用多二付請込指添同様相勤候様

嘉永元申年十二月十二日小算格二被成下、御札所請込勤被仰付候

同三戌年九月廿五日他行之節着服心得違之義有之二付押込、十月六日被

差免候

同年十二月十六日出精相勤候二付御充行式石御増、都合

一切米拾石式人扶持

如斯被成下、受込勤勤中小算二被仰付候

同四亥三月五日御料所陣屋江出張、御内用向格別骨折相勤候二付、跡目

小算二被成下候

同五子年四月廿五日此度小算之者共以前へ被復壹人扶持御増、都合

一切米拾石三人扶持

八田嘉左衛門

如是被下置候

同七寅二月十二日御内御用有之、立帰出府被仰付罷越候処、閏七月廿四

日歸着

安政元寅十二月十一日御札所為御内用出府罷帰、引続右一条二付御料所陣屋へ出張いたし出精相勤候二付、別段之詔を以小役人格ニ被成下、御札所受込役被仰付、御充行三石御増、都合

一切米拾五石三人扶持

如斯被成下候

安政三辰十月廿五日新札引替之節出精之段褒メ遣、且是迄度々掛り相勤候二付金三百疋被下置候

同四巳閏五月廿二日役前不念之儀有之二付伺之上慎、同廿五日被指免候

同六未正月十六日出精相勤候二付、御足充行式石被下置候

万延元申十二月十六日出精相勤候二付、御足充行式石御増

一切米拾五石三人扶持

如此被成下候

文久元酉十二月三日役前不参届儀有之伺之上慎、五日御免

同月十一日新札引替之節出精相勤候二付、桐御紋御上下一具被下置候

同二戌十一月廿五日年来出精相勤候二付御取立被成、新御番格ニ被仰付候

候

慶応元丑八月五日親嘉左衛門年寄候二付休息被仰付

八田増吉

一切米拾五石三人

如此被下置、小役人ニ被仰付候

一文久二戌閏八月五日典籍方被仰付、学問厚致修行候様被仰付候

慶応元丑八月七日助句読師典籍方兼是迄之通被仰付、勤中耆人扶持被下

置候

同年十二月廿八日左之通名替

増吉事

八田作介

同二寅五月廿日外塾師助被仰付

同四辰五月十一日明道館授読典籍方兼被仰付、役中御足耆人扶持是迄之

通被下置候

明治二巳六月廿日名替

作介事

カウ
八田亨一郎

同年七月四日年給式俵ツ、被下候事

一 同年十一月廿五日今般御改革二付、更御充行米三拾五俵四斗五升

同月廿七日御改革二付役儀指免候

同年十二月二日小学訓導被仰付候事

同三年五月十二日訓蒙被仰付候事 年給八俵 未正月〇年給廿八俵

同年閏十月 第七塾掛り

同年十一月廿八日居住罷在候借地拝地被下候、鷹匠町也、但伺二而

同四未九月二日准三等教授被仰付候事

但文学教官

同日経学兼看読

同年十二月十六日任四等教授

支那学

同五申五月

亨一郎事

長谷川¹

長谷川文藏

一切米七石式人扶持

文政六未年養父平四郎病氣ニ付願之上立替、御充行如此被下置、御広敷
錠前番被召抱

同八酉年御広敷御出居番被仰付候

文政十二丑八月朔日御聞番物書被仰付候

天保四巳六月九日御預所下代江

同六未七月十一日出精相勤候ニ付御充行壹石御増、並之通

一切米八石式人扶持

如斯被成下

同八酉十一月廿日出精相勤候ニ付、小寄合格ニ被成下候

同十四卯八月朔日小算格ニ被成下候、席細野嘉兵衛次

弘化四未正月十五日出精相勤候ニ付、年々俵数三俵ツ、被下置

弘化四未年十月十六日御作事方下代被仰付候

嘉永二酉年三月十六日月勘定方被仰付候

同年六月十七日当冬御入輿ニ付御用掛り同様被仰付

同年七月十二日小算被成下、御充行式石御増、都合

一切米拾石式人扶持

如斯被成下、御預所勤被仰付、但是迄被下置候俵数三俵以後不被下候

同年十月十九日御上屋敷大輿向御普請御用掛り并表御建継御普請等ニ付、

先役中出精之段達御聴太儀ニ思召候、依之御目錄金三百疋被下置候

同年十二月十五日今般御前様御引移、御婚姻前後無御滞被為濟御満足思

召候、然ル処先役中掛り同様相勤候ニ付銀拾五匁被下置候

同三戌年八月五日勤向其儘御預所御勝手役手伝被仰付

但公辺御用向是迄御勝手役相勤候御用相勤可申事

同年九月三日今岡丈右衛門勤中之致業不存趣ニ者候得共、於役前不念ニ

付押込、然ル処同廿二日御免

同四亥六月廿八日出精相勤候ニ付御扶持方壹人扶持御増、都合

一切米拾石三人扶持

如斯被成下候

同六丑十一月六日出精相勤候ニ付一統格ニ被成下、御預所御勝手役見習

被仰付候

安政二卯十二月廿三日出精相勤候ニ付御充行式石御増、都合

一切米拾石三人扶持

如斯被成下候

安政六未正月十五日出精相勤候ニ付小役人ニ被成下、御預所御勝手本役

被仰付、役中御足充行三石被下置候

同年閏三月廿日御国拝見且御預所御普請場所見分として着、右拝見相濟、

四月八日出立

文久二戌正月十五日出精相勤候ニ付、御足充行三石御増

一切米拾石三人扶持

如此被成下、外ニ役中御足充行式石被下置候

慶応四辰正月十五日出精相勤候ニ付御取立被成、新番格ニ被仰付、役儀

之義ハ御免被成候

同年同月廿五日今般御趣意二付家内共御国表江引越被仰付、二月廿三日
着

明治卜改元、七月廿六日御徒番所勤被仰付

同年十一月十六日病死

同年十二月廿日親文藏跡式小役人二被仰付、御充行

長谷川順藏

一切米拾五石三人扶持

如此被下置、御徒組江被入、予備小隊之後拒役被仰付

明治二巳二月廿九日歩隊二被仰付、後整衛隊卜改

同年十一月廿五日今般御改革、更御充行米三拾五俵四斗五升

同三年七月廿二日第三大隊二番小隊入申付候事

同年十二月八日予備第十小隊

同四未四月七日右解隊被仰出候事

同五申五月名替

順藏事

長谷川文雄



長谷川甚三郎 中判役代

一切米七石式人扶持

天明二寅年仮中判役被召出

寛政四子十月廿八日中判本役被仰付候

同七卯二月三日壹石御増、都合八石式人扶持被成下

一切米拾石式人扶持

同十年四月四日出精相勤候二付切米式石御増、都合如此被成下

享和三亥正月十一日年寄候二付俸へ立替被仰付、鉄藏与申者へ

長谷川鉄藏 仮中判

一切米八石式人扶持

御擬作如此被下置、仮中判被仰付候

但御用多之節者鉄藏壹人二而ハ御間ニ合兼候儀も可有之、鉄藏本

中判被仰付候迄ハ、甚三郎江金壹両式歩年々被下置候間、御間

を合候様可致旨被仰付

文化二丑二月七日出精相勤候二付切米式石御増、都合

一切米拾石式人扶持

如此被成下、中判本役被仰付

同三寅七月五日御住居御普請御用掛り被仰付候

同四卯七月廿八日御上屋敷御普請出精相勤候二付、銀拾五匁被下置

同十四酉十二月十九日出精相勤候二付、小算格被成下

同十二亥九月廿七日伺之上御用外慎候様被仰付候

同十四丑十一月十九日出精相勤候二付御扶持方壹人扶持御増、都合

一切米拾石三人扶持

如此被成下候、且又浅姫君様御引移御普請御用掛り被仰付候

文政二卯十二月廿四日御普請御用掛り出精二付、御目録銀三拾匁被下置

候、御普請中格別出精二付一統格被成下候

同三辰八月十三日此度公方様靈岸島御住居御通拔之御沙汰被仰出候二付、

御用掛り被仰付

同年十月廿五日右御用掛り出精之段達御聴ニ太儀被思召候、依之金百疋被下

同年十一月朔日此度右御通抜無御滞被為濟候ニ付、浅姫君様之御目録銀被下之

同四巳七月六日此度浅姫君様常盤橋御屋敷江被為入候ニ付、御用掛り被仰付候

同年九月廿八日右御用掛り無御滞相濟出精之段達御聴太儀被思召候、仍之御目録金百疋被下置

同九戌四月三日御誕生御用掛り

同年五月廿六日来月下旬公方様浜御庭江御成之節、靈岸島御住居御通抜可被遊旨御沙汰ニ付、御用掛り被仰付候

同年八月廿三日御誕生御用掛りニ付金百疋被下候

同年十二月廿日出精相勤候ニ付小役人格ニ被成下候、御作事方吟味役兼帶被仰付候

文政十二丑五月三日御着帶御誕生御用掛り被仰付

同年八月三日今般若殿様御誕生御祝儀被為濟御満足ニ思召、金百疋被下同十三寅年四月晦日右御向屋敷御普請御用掛り被仰付候

天保二卯三月十二日此度格別之御嚴法御儉約御取調ニ付、懸り被仰付候

同三辰十二月十一日此度御住居御普請宜出来、右掛り出精之段御褒詞被成下、為失却銀四拾五匁被下置候

同月十二日浅姫君様御附御広式添役斎藤鉄之助跡被仰付、且又此度御普請中格別出精相勤候ニ付、御充行式石御増、都合

一切米拾式石三人扶持

如此ニ被成下候

天保九戌八月三日御住居御普請御用掛り被仰付

同十亥四月十二日御住居御普請宜出来、右掛り出精ニ付金貳百疋被下置

同十一子十一月十五日来出精相勤候ニ付、御足充行三石被下置候

同十三寅九月五日御住居御広式添役其儘、同勘定役書役兼帶被仰付候同十四卯五月廿六日役儀并勘定掛書役兼其儘、貞照院様之分振退勤被仰

付候

同八月十日果ル

長谷川保藏

一切米拾式石三人扶持

天保十四卯九月十五日親鉄藏及大病立替相願、其後令病死候、依之跡目小算ニ被仰付、御充行如此被下置候

嘉永二酉年十月十九日御上屋敷大奥向御普請御用掛り并表御建継御普請等ニ付、出精之段達御聴太儀ニ思召候、依之御目録銀三拾五匁被下置候

同三戌年正月廿九日御作事方改役下役現物掛り兼、但シ畳方上水掛り兼被仰付候

同四亥四月九日今般公方様右大将様神田橋御住居江御立寄無御滞被為濟、右御用掛り出精ニ付銀七匁五分被下置候

同年十二月廿五日御本殿御広式書役勘定役兼江

但是迄被下候失却金貳兩者以後不被下候事

同六丑正月六日慎姫様御縁組御用掛り被仰付候

同七寅四月廿日大奥向御人減御趣法替被仰出候ニ付、右掛り被仰付候

同年七月十九日御勘定所勤被仰付、月勘定方頭取へ

安政二卯十月五日当分御作事方改役仮振退勤へ

同三辰三月十二日出精相勤候二付、一統格ニ被成下候

同五年十一月廿一日今般御家督御相統御引移御用掛り出精二付、銀貳拾匁被下置候

同年十二月廿四日靈岸島御屋敷御建継御普請出精二付、銀四拾五匁被下置候

同七申正月七日御陣屋御普請骨折出精相勤候二付、格別之誤合を以壹石御増、都合

一切米拾三石三人扶持

如是被成下候

同年二月廿六日太田御陣屋御普請御用掛り出精二付、金貳百疋被下置候
万延与改元、六月廿四日靈岸島御屋敷御建継御普請出精二付、金貳百疋被下置候

同年七月廿八日先達而横浜表江臨時致出張候二付御褒詞

同年八月廿六日左之通名替

保蔵事

長谷川鉄蔵

同年十一月十八日巢鴨御普請出精二付、金百疋被下置候

文久二戌四月十三日先達而御持場替一件御用掛り出精之段、御褒詞之上
金貳百疋被下置候

同年十二月廿四日来春中将様御船ニ而御上京被仰出候二付、陸通り御先
江出立

同三亥三月十九日京分振りニ而江戸へ出立

慶応元丑五月十五日天徳寺御靈屋御普請出精二付、銀三拾匁被下置候

同三卯十二月廿八日出精相勤候二付、小役人格ニ被仰付候

同四辰正月御国表へ引越被仰付、然ル処直ニ詰被仰付

同年三月廿五日御趣意ニ付罷歸候様被仰付、四月廿五日着

同年閏四月廿五日今度江戸御屋鋪引払一件格別致心配候二付、金七百疋被下置候

同年九月六日越後表へ出立、巳三月十七日帰、御手当三両被下

明治二巳 月勘定方受込

同年十一月朔日今般御改革ニ付役儀指免候事

同月廿五日今般御改革、更御充行米三拾三俵貳斗四升四合被下

同三年正月十九日民政寮附属申付候事

但金館方算者勤

一下級

同年十二月十二日民政寮勤 金館方也

但十六等心得 年給六俵

同年十一月廿八日居住罷在候持地拜地被下候

同四未六月朔日御改正ニ付職務被免候事

同年十月十日総会所出納方出仕

但十六等二等ノ官禄被下候事

同年十二月三日金館方申付候事

同五申正月廿五日金館方被廢止候事

同年七月四日貨幣種類取調中雇申付候事

同年五月名替

鉄蔵事

アキラ
長谷川皎

同年七月十九日第二区勝見下町組副戸長
同年九月四日総会所雇申付候事

長谷川³

長谷川平八

一切米

右知高院様附御料理人

一切米

元文四未十二月十九日於江戸切米壺石御増、都合如此被成下

寛保三亥十二月十九日年始一統御礼被仰付

一切米拾石三人扶持

長谷川茂八

寛延二巳五月六日御充行如此被下置、表御台所へ罷出候様被仰付候

但是迄知高院様附御料理人相勤、御充行御分料之内被下置候処、

知高院様御逝去二付如是

寛延二巳十二月由太夫卜名替

宝曆元未二月七日御料理方本役被仰付、御充行並之通

一切米拾壺石三人扶持

如此被成下

同七寅十一月廿一日一統格被仰付

同十三未十月十五日御守殿附被仰付

安永三年七月十三日倅他四郎不埒之趣有之、御門弘被仰付候二付押込被

仰付、同八月七日押込御免被成

同五申三月十九日病氣願之上御暇被下

長谷川由蔵

一切米拾壺石三人扶持

右同日親由太夫立替被仰付、御充行如此被下置、御料理方被仰付

但是迄由蔵見習相勤候二付、金三両ツ、被下候得共相止

天明元丑十二月由太夫卜名替

同二寅四月九日一統格被仰付、御部屋附御塩梅役兼帯被仰付

同四辰正月平八卜名替

同六午正月廿日御充行式石御増被下、都合

一切米拾三石三人扶持

如是被成下、御塩梅本役御料理方兼帯被仰付

寛政七卯二月三日小役人格被仰付

同十年三月朔日果ル

長谷川平次郎

一三人扶持

同年四月四日親平八病氣二付倅平次郎立替之義相願、其後令病死候、然

ル処平次郎儀幼年二付、御扶持方如此被下置、御料理方見習被仰付

文化二丑二月七日御料理方本役被仰付、御充行並之通

一切米拾壺石三人扶持

如此被成下

同五辰九月十九日由太夫卜名替

同六巳八月十三日御前様御方勤被仰付

同七年三月十五日出精相勤候二付、一統格被成下候

文政四巳八月朔日出精相勤候二付、小役人格被成下候

同九戌四月三日御袖留并御着帯御誕生御用掛

同八月廿三日右御用掛り二付金百疋被下之

同十亥六月十一日右御祝御用懸被仰付候

同十二丑正月十五日出精相勤候二付御充行式石御増、都合

一切米拾三石三人扶持

如此被成下候

同年五月三日御着帯御誕生御用掛被仰付

同年八月三日今般若殿様御誕生御祝儀被為濟御満足思召候、金百疋被下

之

同十三寅二月十二日若殿様御宮参御用掛り被仰付

天保二卯三月十六日此度格外之御嚴法御儉約御取調二付、掛り被仰付候

同三辰六月十一日不正之取斗共有之趣相聞候二付、一統格御下ケ押込、

但席松田文嘉次

同四巳十二月廿七日来午年御帰国之節御見送り被仰付候

同五年六月十四日御台所御膳所向御儉約掛り被仰付候

同六月廿五日出精相勤候二付、小役人格被成下候

同十一月七日今般御家督御引移前後無御滞被為濟、右御式正懸り相勤候

二付、金百五拾疋被下之

同十一月十六日右同断御用已前今御取調出精二付、別段金百五拾疋被下

之

同七申年二月五日御袖留御式正懸り二付、銀拾匁被下置候

天保八酉十月十九日御台所頭目付御答中跡仮役被仰付候

同十月廿六日右御免被成候

同九戌六月九日御家督を始御祝事二付、御家中江御料理被下候御用掛り被仰付候

一切米拾五石三人扶持

天保十亥正月十五日出精相勤候二付御充行式石御増、都合如是被成下候

同年四月四日御台所目付御答中跡仮役兼帯被仰付

同年四月十二日御台所目付御答中跡仮役兼帯被仰付置候処、御趣意二付

当分御台所目付兼帯被仰付候

同年十月十一日役儀其儘御国許へ家内共引越被仰付候、但家屋敷被下候

同十一子二月十四日果ル

長谷川音五郎

一切米拾壹石三人扶持

天保十一子三月十九日養父由太夫及大病立替相願、其後令病死候二付、

御料理方被仰付、並之通如此被下置候

同年十月廿九日今度寿福院頂戴之御朱印御国表へ被遣候二付、関平太夫

引纏被仰付候二付指添被仰付候

同十二丑正月十七日当丑年江戸詰被仰付

同十四卯閏九月十三日養父由太夫儀、先年御国勝手へ被仰付候処、其後

江戸長詰被仰付候、然ル処同役共歎願も有之二付定御雇二被仰付候

同十五辰十一月九日来年始御式正懸り被仰付候

弘化四未七月九日当八月中公方様御成之節、神田橋御住居へ御立寄可被

遊との御沙汰二付、御用懸り被仰付候

同九月十二日御立寄無御滞被為濟、右御用掛り出精之段達御聴太儀二思

召候、依之掛り之者出精二付銀七匁五分被下置候

弘化四未年十二月廿日出精相勤候二付、一統格二被成下候

嘉永二酉年十二月十五日今般御前様御引移御婚姻前後無御滞被為濟、御満足思召候、然ル処御用掛りハ不被仰付候へ共御用多相勤候二付、金式

百疋被下置候

長谷川友次郎

一切米拾壺石三人扶持

嘉永四亥正月廿四日養父音五郎病氣二付願之上立替、御料理方被仰付、並之通如此被下置候

同七寅三月廿三日御殿山出張ニ付金式朱被下置候

安政三辰正月十八日出精相勤候二付、一統格二被成下候

同五年十二月廿八日中将様御料理方勤中御台所目付も心得候様被仰付候
万延元申十一月廿六日近來格別出精相勤候二付、別段之訳を以式石御増、

都合

一切米拾三石三人扶持

如是被成下候

文久二戌十二月廿四日來春中将様御船ニ而御上京被仰出候二付、陸通り

御先江出立

同三亥三月十九日京々振りニ而江戸へ出立

同年六月七日今度御国表江引越被仰付、着

同四子正月廿五日出精相勤候二付、小役人格二被成下候

元治元子十二月賊徒一件ニ付出張、御手当銀百匁被下置候

慶応元丑十二月朔日三ノ丸御座所御年男仮被仰付候二付、桐御紋御上下

一具同御綿入一被下置候

同二寅六月廿五日宰相様御登坂御供出立、十月六日帰

同三卯四月十二日宰相様御上京御供出立、八月九日帰

同年十一月二日右同断御供出立、辰四月八日帰

同四辰六月廿八日上京、十月帰

明治二巳二月廿三日上京、三月十三日帰

同年四月九日中納言様御供東京江出立、九月十七日帰

明治二巳十一月廿五日今般御改革、更御充行米三拾三俵式斗四升四合被

下

同三午正月十三日今般御改革ニ付御料理方指免候事

但軍務寮支配之事

同月廿四日生兵修行指出候

同年六月廿九日第二大隊六番小隊入申付候事

同年九月十三日右隊伍長申付候事

但其隊之上席申付候事

十一月廿八日居住罷在候百軒長屋拝地被下候

同年十二月十二日予備五番隊押絶

同四未四月七日右解隊被仰出候事



長谷川清作

慶応二寅十月廿六日御趣意ニ付御目付組被相止、御小人目付出役勤御目

付手附被仰付、但勤中詰組嫡席之事

同三卯十月左之通名替

清作事

長谷川貫一

同年同月廿一日急々上京

但九月朔日罷歸、折返し也

同月軍事方振退勤

同四辰正月十四日今般從坂地岡本晋太郎致同道、不顧身命戰地江入込、

御用弁厚相心得候始末柄格別宜ニ付一統格ニ被成下、御充行

一切米拾石三人扶持

如此被下置、勤向是迄之通被仰付候

慶応四辰四月四日京都へ歸

同月十一日軍事局勤書記方兼被仰付、軍事目付支配ニ被仰付

同年閏四月四日中根新左衛門儀、松平日向守榊原式部大輔殿へ為御使

者被遣候ニ付附添被仰付候、六日出立、五月七日歸

同年五月十一日探索御用ニ而越後高田江出立、追々奥州若松江御人数相

進候ニ付、十二月朔日若松へ歸

明治ト改元、十二月廿一日若松表民政御用中昼夜格別致精勵候ニ付、金

拾兩被下置候

同月廿五日出張中失却有之二付、為御手当金五兩被下置候

同二巳二月廿二日出張ニ付千五百疋被下、外二十式兩被下

同年三月九日月給米三俵ツ、被下

同年六月二日軍政局書記方申付候事

同年十一月廿五日今般御改革ニ付、更御充行米式拾九俵五升六合被下

同月廿七日御改革ニ付当役指免候

同年十二月二日学校附属申付候事

同三年四月廿五日戊辰北越出張各所攻撃勉勵ニ付、御賞典之内四石廿ヶ
年被下候事

同年七月廿二日出坂、八月四日歸

同年八月十三日民政寮附属申付候事

但總會所勤

一中級

同年十二月十三日民政寮勤 惣会所筆者

但准十六等 未正月へ九俵

明治四未六月朔日御改正ニ付免職

同廿七日藩庁附属申付候事

但惣会所勤 十六等ノ二等

同年九月廿九日元御小人目付勤中京坂擾乱之節、相働候ニ付御引立被成

下、其節御持筒組家共御引上ケニ付、此度歎願差出左之通附紙を以被下

置事

家銀拾貫匁被下

同年十二月廿日今般改正ニ付免職

同五申正月廿八日御用濟ニ付自今不及出勤

同年七月十日新潟県へ採用ニ付早々可致出頭事、病氣ニ付暫御猶予願、

九月二日依願出頭被免

御用書写

長谷川貫一

補十五等出仕

岐阜県參事從六位小崎利準 奉

明治七年三月廿七日

租税課勸業掛

十五等出仕 長谷川貫一

明治七年三月廿七日

十五等出仕 長谷川貫一

上等月給下賜候事

明治七年三月廿七日

長谷川⁵

長谷川庄藏

一切米八石式人扶持

寛政十二申十二月廿五日養父山田円右衛門病氣願之上御暇被下、御充行

並之通被下置、御台所下代江被召抱

享和元酉年江戸詰被仰付候

文化三寅御帰国御迎御用被仰付候

同年十月廿七日御代官方下代へ

同十三子二月廿日病氣願之上出役勤被差免、倅庄之助与申者諸組之内へ

御入人被仰付候

長谷川庄右衛門

一切米七石式人扶持

文政六未年四月十一日兄庄之助跡御普請組へ被召抱

天保八酉年八月十二日御普請奉行粕谷彦太夫組へ御充行其儘諸下代之内

へ被召抱、嶋崎伝太夫仮預り浮下代被仰付候

同九戌二月廿五日御台所下代被仰付候

同廿六日庄藏与名替

一切米八石式人扶持

天保九戌十二月十六日出精相勤候二付御充行壱石御増、都合如斯被成下

同十亥三月十二日明里御蔵奉行嶋田九郎左衛門下代へ

同年九月廿九日御納戸方下代被仰付、支度出来次第江戸詰被仰付

同十一子九月廿六日御代官福嶋忠右衛門肩下代江

天保十二丑八月二日殿下領御代官井上茂右衛門肩下代江組替

同十五辰四月十六日出精相勤候二付、為御酒代銀式拾匁被下置候

弘化二巳八月九日多部三左衛門肩下代江組替

同十二月十二日席佐治忠左衛門次

嘉永二酉年四月廿日伯父元御普請組清水新平後家みゑと申者方江、兄石

田直助と申者先年為後見同居罷在候処、兩人不和熟之始末柄二付、昨年

新平弟水落村新右衛門と申者願書差出候節致加判候処、元来右一件最初

親類共談方不参届ゝ事起り候趣相聞、不束二付呵り

嘉永二酉年七月廿六日今庄領御代官下代江組替

同年八月廿六日中領郡方肩下代江

同三戌年十二月十六日出精相勤候二付、小寄合格被成下候

安政二卯正月廿九日中領郡方受込下代へ

同年三月七日病氣願之上御暇被下、倅祐吉与申者諸下代之内江被召抱、

御充行並之通

長谷川祐吉

一切米八石式人扶持

如斯被下置、西村源左衛門飯預り浮下代被仰付候

安政五年七月廿九日下代勤被指免、算学等致研究候様被仰付候

文久二戌四月廿九日表御坊主江

同日左之通名替

如此被下置、真五郎事真悦と改

明治二巳九月廿一日名替

真悦事

長谷川政二

祐吉事

長谷川祐益

文久三亥四月廿四日病氣願之上御暇被下、養子吉五郎与申者表御坊主江被召出、御充行

同年六月 東京江出立、十一月廿四日帰
同年十一月廿五日今般御改革二付、更御充行米式拾貳俵壹斗八合被下
同年十二月廿三日表給仕指免候事

但軍務寮支配之事

同三年正月十日生兵修行指出候

同年十二月十五日持地押地二被下候事

長谷川祐齋 但同日左之通改名

一切米八石式人扶持

如此被下置候

元治元子二月廿一日小坊主江

同年三月十五日表御坊主江

同年九月廿日上京、十一月十三日帰着

元治元子十二月賊徒一件、御留守御用御手当十式匁被下

慶応二寅正月廿五日御時計役被仰付候

同三卯三月十日御上京御供出立、四月四日帰

同年十一月二日宰相様御上京御供出立、辰三月廿五日帰

同四辰閏四月廿五日病氣願之上御暇被下、養子真五郎与申者表御坊主二

被仰付、御充行並之通

伴

伴庄左衛門

一切米拾五石三人扶持

享保七寅三月廿三日表御徒分御部屋附被仰付

伴平次

一切米拾五石三人扶持

元文四未七月十六日庄左衛門倅御徒被召出、御充行並之通被下置

延享四卯十二月平次兵衛と名替

寛延元辰十二月十三日親庄左衛門御暇被下

長谷川真悦

一切米八石式人扶持

伴甚左衛門

伴

一切米拾五石三人扶持

同辰十二月十五日平次兵衛倅御徒被召出、御充行並之通被下置

明和二酉六月廿九日御徒目付役被仰付、切米三石御増

一切米拾八石三人扶持

都合如斯被成下

同八卯四月十六日病氣二付御役御免被成、御徒被仰付、御充行並之通被

下置

同年七月廿六日病氣願之上御立替被下

伴清之丞

一切米拾五石三人扶持

同廿七日親甚左衛門為跡目御徒被仰付、御充行並之通被下置

安永九子十二月清次郎与名替

寛政八辰十二月庄左衛門与名替

文化元子十二月庄右衛門与名替

文化四卯四月三日病氣願之上御立替被下

伴万五郎

一切米拾五石三人扶持

同日養父庄右衛門病氣願之上立替被仰付、御充行並之通如斯被下置、御

徒二被仰付

文化五辰江戸御留守詰

同十四丑江戸御供詰

文政元寅十二月廿六日庄左衛門与名替

同六未御供詰

同七申七月廿九日御徒目付永山忠兵衛跡被仰付、役中御足充行三石被下

置候

同九戌年江戸御留守詰

文政十一子江戸御見送り被仰付

天保二卯六月五日御勘定所御普請御用掛り被仰付候

同四巳三月十六日当春御道中御見送り被仰付候

同五年三月十三日御花島指物絵奉行原田清兵衛跡仮兼帯被仰付候

同年七月五日調御用之節不念之義有之二付押込、七月十三日被差免候

同年十月廿九日来未年江戸御供詰被仰付候

同六未四月十六日久能御宮其外御修覆御用被蒙仰候二付、御用掛り被仰

付

同六未年閏七月十三日御遺骸御国江被為入候二付、御供二而立婦被仰付

候

同十一月七日今般御家督御引移無御滞被為濟候二付、金百疋被下置候

同九戌二月十六日当夏御入部御迎被仰付候

同十亥十一月十一日来子年江戸詰被仰付候

同十一子年八月廿日御趣意二付詰越被仰付、御国江御返被成候

一切米拾八石三人扶持

天保十一子十一月廿日出精相勤候二付、御足充行三石御増都合如斯被成

下

天保十二丑八月十日果ル

伴庄五郎

一切米拾五石三人扶持

天保十二丑九月十六日親庄左衛門及大病立替相願、其儘御徒被仰付、御充行並之通如斯被下置候

同十三寅五月朔日今度東叡山火之御番被為蒙仰候二付、支度出来次第江戸詰被仰付候

天保十一子三月十六日御徒二被召出、御充行近年御定之通五人扶持被下置候

同十二丑九月十六日親庄左衛門跡式被仰付候二付、此御充行揚ル

同十五辰十二月八日来巳年江戸御參勤御供御見送り被仰付候

伴孫藏

一切米拾式石三人扶持

弘化三年七月十一日養父庄五郎義病氣願之上御暇被下、無役小算二被召出、御充行如斯被下置

伴幸次郎

一切米拾石式人扶持

弘化三年七月廿九日養父孫藏義跡目無間茂及大病御暇相願候得ハ、被仰付方も可有之処、誤合も有之二付小算格二被仰付、御充行如斯被下置

嘉永元年申年十二月廿二日御台下代被仰付候

嘉永三戌年十月廿日来亥年江戸詰被仰付候

同五子正月十五日出精相勤其上誤合も有之二付、小算二被成下候、同十七日詰中御台所方手伝被仰付候

同年四月廿五日此度小算之者共以前へ被復忝人扶持御増、都合

一切米拾石三人扶持
如此被下置候

同七寅九月廿九日御徒御入人被仰付、御趣意二付勤中御足充行五石被下置候

安政四巳四月十四日荒川喜代太指南之処、年中支合致皆勤候趣玉附二而御覽被遊、出精之段御沙汰有之

同五年江戸詰被仰付、五月十六日出立
同年十二月廿八日左之通名替

幸次郎事

伴右衛門

文久元酉十二月十一日御徒目付被仰付、役中御足充行三石被下置候
但是迄被下置候御足五石之儀も其儘被下置候事

同二戌十二月廿日来亥年江戸詰引揚被仰付出立
同年十二月廿八日左之通名替

右衛門事

伴庄左衛門

文久三亥正月十五日出精相勤候二付御足充行之内三石御増、都合
一切米拾三石三人扶持

如此被成下候
文久三亥十一月十九日江戸表分御上京御供被仰付、同十二月御供出立、子二月十三日御供二而京都分着

元治元子八月廿八日御上京御供出立、夫分長征、丑二月帰

慶応元丑四月十一日出精相勤候二付御足充行之内式石御増、都合

伴

一切米拾五石三人扶持

同年八月十二日小役人二被成下、御台所目付被仰付候

同年十二月廿八日左之通名替

庄左衛門事

伴金右衛門

同三卯十月十二日御台所目付其儘御徒番所勤兼帯被仰付

同四辰四月十二日当分評定局振退勤被仰付

但泊り番一人ツ、相勤可申事

一昼番ハ無之事

(明治)
同二巳正月廿五日堀土居方被仰付

但小役人席其儘 席八田作介次

同年六月十七日名替

金右衛門事

伴金蔵

同年十一月朔日今般御改革ニ付役儀指免候事

同月廿五日今般御改革、更御充行米三拾五俵四斗五升被下

同三年正月廿八日御門番勤申付候事

同年三月八日民政寮総会所当番申付候事

同年四月三日御家従附属申付候事

但中奥勘定役

同日支度出来次第東京詰申付、同十二日出立

同年五月朔日詰中御膳所御勘定之儀も相心得候様申付候事

同年八月十五日帰藩申付、九月九日帰

同月十月十日御趣意ニ付役儀被免

同日雜務方申付候事

但上級

一年給三俵 席斎藤又四郎次

同月廿八日東京詰中監正寮御用取扱申付候事

但来未二月山崎良輔ト交代候様

同年十一月廿八日居住罷在候屋敷地之内ニ而九十六坪拜地被下候

同四未二月十六日御東京ニ付御供出立

同年四月五日年給九俵式斗七升三合六勺 是マテ在三俵也

同年五月七日邸内御取締方其儘御取次之儀も心得候様申付候事

同年十二月廿二日御都合も有之二付御家従被免候事

橋本¹

柳沢吉右衛門

一切米八石式人扶持

安永八亥十月晦日は迄巢鴨辻番相勤候処、表御坊主へ被召出

同日吉右衛門事喜斎と名替

橋本宗古

一切米八石式人扶持

寛政九巳十月三日養父喜斎病氣願之上立替被仰付、表御坊主ニ被召出、

御充行並之通如此被下置

同十年正月十二日奥御坊主見習被仰付候

享和元酉年五月廿八日奥御坊主川崎善弥跡被仰付候

文化六巳年八月廿一日表御坊主被仰付

同九申御留守中天梁院様御附奥御坊主不寝役兼帶助被仰付候

同十四丑年七月十二日若殿様御附奥御坊主高橋春朴跡被仰付候

同年十二月廿九日柳沢事橋本宗古、如是改性

文政二卯年五月廿三日若殿様御附御茶方兼奥御坊主被仰付候、且又御住

居兼勤被仰付候、但御引移迄者是迄之通

同九戌三月二日席其儘表御坊主江

同十亥御留守中御茶方、御住居御数寄屋方御小道具御召方助被仰付候

同十二丑御時計兼帶助被仰付候

同十三寅正月十五日出精相勤候二付、一統格被成下候

天保三辰御留守中御住居御数寄屋方兼帶被仰付候

天保三辰十一月七日御道具役御茶方兼高橋春嘉跡被仰付、御充行壺石御

増

一切米九石貳人扶持

如是被成下、且又御住居兼帶勤被仰付、同日御茶方兼帶勤被指免候

同十一月七日御家督御引移御用相勤候二付銀貳拾匁被下置候

天保十亥八月廿九日伺之上慎被仰付置候処、今日今被指免

一切米拾石三人扶持

天保十一子三月八日年来実躰相勤候二付、御充行壺石壺人扶持御増、都

合如此被下置、小役人格二被成下、松榮院様御附御広式添役岩屋滝五郎

跡被仰付候

宗古事

橋本利兵衛

同日名替

同三月十八日小助と名替

同十五辰二月七日近々公方様御成之節、神田橋御住居へ御立寄可被遊と

の御沙汰被仰出候二付、御用掛被仰付候

弘化三年正月十五日出精相勤候二付御充行式石御増、都合

一切米拾式石三人扶持

如此被成下候

同二月十六日添役其儘常盤橋勤被仰付候

橋本小太郎

一切米拾式石三人扶持

嘉永二酉年六月十一日親小助年寄候二付立替、跡目小算二被仰付、御充

行如此被下置

同年七月十三日御書使御献上御品付仮被仰付候

同年十月十九日一統格二被成下、御徒定御雇被仰付候

同三戌年十月廿四日御徒御入人被仰付、右勤中御足充行三石被下置候

同七寅三月廿三日御殿山出張二付御下緒一掛被下置候

安政四巳十二月廿三日出精相勤候二付御足充行三石御増、都合

一切米拾五石三人扶持二被成下候

万延元申七月廿八日先達而横浜表江臨時出張二付御褒詞

同年十一月廿五日御広敷添役被仰付、小役人格二被成下候

文久二戌八月廿九日

橋本兵吉

一切米拾式石三人扶持

養父小太郎及大病立替相願、其後令病死候二付、跡目小算ニ被仰付、御充行如是被下置候

文久二戊十二月二日一統格ニ被成下、御徒定御雇被仰付候

同廿四日来春中将様御船ニ而御上京被仰出候ニ付、陸通り御先江出立

同三亥三月十九日京々振りニ而江戸へ出立

元治二丑正月廿五日心得違之趣有之、支配頭存を以叱り、伺之上慎之処、

同晦日被差免候

慶応ト改元、六月十三日御徒御入人被仰付、御足充行三石被下置候

同二寅四月朔日此度被仰出候御趣意ニ付、当分之処御徒当番被相止候へ

共、諸勤向是迄之通被仰付候

同三卯四月四日御趣意ニ付御徒之儀ハ被指免、席其儘勤向之儀ハ是迄之

通相心得候様被仰付

但御足充行之儀ハ御憐愍を以其儘被下置候

同四辰正月廿一日夜立、御内飛脚ニ而同廿八日京都江着

同月御国表江引越被仰付、然ル処直ニ詰被仰付候

同年三月三日先達而京都江早駆罷越江戸表江罷帰候節、於途中不束之儀

有之二付押込、但此御用書於御国表被仰出候義ニ付於江戸表三月十二日

ハ押込、同十九日被指免

同月六日御趣意ニ付支度出来次第御国表へ罷帰候様被仰付、四月十七日

着

同年閏四月十六日御徒組へ被入、予備小隊後拒役被仰付候

明治ト改元、十月廿日奥州会津表江早速出張被仰付、右出張中本多興之

輔方手二小隊之彈菓預り小銃取扱方兼被仰付、同廿三日出立、巳二月三

日右兵隊附属ニ而帰

明治二巳二月廿九日歩隊ニ被仰付、後整衛隊ト改

年給忝俵半被下、御足三石ハ被廢

同年十一月廿五日今般御改革ニ付、更御充行米三拾壹俵三斗六升九合

同三午八月十二日第二大隊十番小隊入申付候事

同年十一月廿三日兵隊指免候事

同月廿八日居住罷在候持地拜地被下候

同月晦日瓦御門番へ

同五申二月十五日病死

同年三月廿五日家督

橋本藤之助

一米三拾壹俵三斗六升九合

右藤之助儀ハ元御先勝本順平弟ニ而分當常備小隊ニ而彦根へ出張、其儘



橋本善朴

一切米八石三人扶持

寛政八辰十二月十六日一統格御右筆部屋御坊主ハ御帳付渡辺作右衛門跡

被仰付、要右衛門与名替、御擬作七石被相増、都合拾五石三人扶持被成

下

享和元酉二月四日立替被仰付

橋本熊藏

一切米拾五石三人扶持

右同日親要右衛門立替被仰付、御擬作並之通如此被下置、御帳付被召出候

享和二戌江戸詰

文化元子十二月作兵衛与名替

文化六巳江戸詰

文政二卯江戸詰

同年十二月廿八日今般淺姫君様御引移御用無御滞被為濟候、依之御目錄

金貳百疋被下置候

文政二卯十二月廿八日先達而若殿様初而之御登城御用掛り被仰付候二付、

金百疋被下置候、同日今般之御用向格別出精二付金百疋被下置候

文政三辰二月十五日出精相勤候二付、小役人格二被成下

同七申五月三日小役人二被成下、御台所目付高橋与左衛門跡被仰付

同六月十四日順助与名替

同九戌四月十六日御藏奉行市村惣右衛門跡被仰付候

同十亥二月十六日役所締方不参届趣相聞候二付押込、同廿五日押込被置

候処被指免候

天保二卯二月廿五日新番格御取立被成、御右筆部屋記録掛り御帳付書方

兼帯被仰付候

橋本作兵衛 平藏

一切米拾五石三人扶持

天保五年七月十一日養父順助令病死候二付小役人二被仰付、御充行如此

被下置候

同月廿日御徒勤被仰付候

但身分之儀者是迄之通御奉行支配、勤向之儀者御徒頭支配之事、

御徒仲ヶ間座列之儀者組頭上席たるへき事

同六月閏七月十九日支度出来次第江戸詰被仰付候

同十一月廿五日当春不慎之儀相聞候二付押込、同十二月十一日右押込被

指免候

同十二月廿八日作兵衛与名替

天保十一子年江戸詰被仰付

同十一子三月十六日御趣意二付御徒勤被指免候

弘化二巳二月十六日炭薪奉行材木奉行兼広部三右衛門跡被仰付候、席其

儘

同四未五月四日御本城橋御破損二付御繕御用掛り被仰付候

弘化五申年二月廿五日瓦方被仰付候

嘉永四亥二月十一日席其儘雑用役栗本与太夫跡被仰付候

同七寅十一月廿九日川除奉行被仰付候

但席其儘

安政二卯十一月十三日河合春近用水口及大破当夏御普請之処、格別致心

配候二付金百疋被下置候

安政四巳二月廿九日出精相勤候二付、御足充行式石被下置候

同六月十月十六日荒子頭高橋素平跡被仰付候

同年十二月十一日表御坊主高橋閑齋養父由右衛門事小山幾右衛門与申者、

金津役所下代勤中同所預り銀拝借上納之始末、不埒至極之儀有之候処、

親類二而奥印等乍致置株仕切等之節、上納可為致処頼通二為任候儀、不

行届之趣二付押込、同廿五日御免

文久二戌二月廿日席其儘材木奉行炭薪奉行兼村上丈左衛門跡被仰付候

同三亥正月十六日出精相勤候二付御取立被成、新御番格二被仰付候

元治元子十二月賊徒一件、御留守御用二付御手当百匁被下置候

慶応元丑七月十一日三ノ丸御座所御普請御用掛出精二付御目錄銀壹枚被

下置候

同三卯三月十六日年寄候二付休息

橋本啓三郎 作兵衛倅

万延元申十一月十一日御徒二被召出、御充行近年御定之通被下置候

文久三亥十月十三日中将様御上京御供出立

同年十二月廿四日当年者御徒目付他国御用多人少二付、別段困窮相勤候

二付、為御手当銀三拾匁被下置候

元治元子四月廿三日右御供二而帰

同年十二月賊徒一件二付、出張御手当銀五拾匁被下置候

慶応二寅六月廿五日宰相様御登坂御供出立、十月六日帰

同三卯三月十六日親作兵衛年寄候二付休息被仰付、御充行

一切米拾五石三人扶持

如此被下置、小役人二被成下、是迄之通御徒組二被仰付

慶応三卯十月十八日御趣意二付席其儘小筒組後拒役被仰付候

同四辰正月六日急々上方江出張候処直二上京、同年閏四月十四日帰

明治卜改元、九月十九日上京、已正月十二日帰

同年十二月廿八日名替

啓三郎事

橋本半右衛門

明治二巳二月廿九日歩隊二被仰付

但後整衛隊卜改

同年六月廿日名替

半右衛門事

橋本半也

同年十一月廿五日今般御改革二付、更二御充行米三拾五俵四斗五升

同三年九月十五日第二大隊三番小隊入申付候事

同月廿五日伍長申付候事

閏十月廿四日元医学館土居并御堀之内埋立拝地願之通

同年十二月十二日予備八番隊伍長

同四未三月七日予備第八小队一番押絶申付候事、但一番

同年四月七日右解隊被仰出候事



清水祐藏

安政四巳五月廿五日御先物頭前波利兵衛元組清水甚右衛門跡

右旧来諸下代之家二付依願諸下代へ被召出、御充行八石式人扶持被下置

候

一切米八石式人扶持

同月廿六日諸下代之内へ被召抱、西村源左衛門飯預り浮下代被仰付候

制産方下代へ

同五年十二月十五日横井平四郎熊本表江出立之節、御用二付三岡石五郎

平瀬儀作等与同道出立、翌未五月廿日帰着

同六未七月廿日制産方御用ニ而長州下ノ関江出立、文久元酉十一月三日
歸着

万延二酉二月十三日出精相勤候ニ付小寄合格ニ被成下、当年限り米式俵
被下置候

文久与改元、十一月四日長州下ノ関江歸着

同二戊 長州下ノ関江出立、四月五日歸着

同年五月七日長州下ノ関江出立

同二戊十二月十六日出精相勤候ニ付、別段之詔を以小算格ニ被成下候

同三亥二月廿一日歸着

同年三月廿七日長州下ノ関江出立

元治元子五月廿九日歸着

同年六月五日御勘定所勤被仰付候

同年八月晦日産物会所下代江

同年十月長征、夫々長崎江、寅四月九日歸

慶応二寅四月廿日長崎江出立、同七月十六日歸、亦々同月廿五日折返出

立、九月廿五日歸

同三卯二月廿六日御用有之中国筋江出立、然ル処三月十二日三国江着船

歸

同年十月廿二日御台所方下代江

同年十一月二日宰相様御上京御供出立

同四辰正月廿五日当分参与方書役勤被仰付

同年二月五日出精相勤候ニ付、年々米三俵ツ、被下置候

同年三月五日會計三岡八郎附ニ而御国江罷越、同月廿二日右同断ニ而上

京

同年五月十一日御雇を以會計商法司判事被仰付

同年七月九日太政官御用ニ而京都着、同廿六日引返上京

明治卜改元、十二月廿八日左之通改姓名

清水祐蔵事

橋本二郎

明治二巳七月十七日西京分歸

同年十月十四日御用有之二付早々東京表江罷越候様申付、十一月六日出

立、午十月西京江出

同年十一月廿五日今般御改革、更御充行米式拾式俵壹斗八合

西京監督大祐

同四未五月十二日西京分立寄、六月東京へ出立

同年八月十四日東京府出仕

同 任東京府典事

同五申五月廿九日免本官 御用滞在

同年名替

二郎事

橋本清廉 キヨカド



橋本万斎

一切米八石式人扶持

文化五辰七月九日浮下代橋本甚蔵与申者立替被仰付、跡御坊主ニ被仰付

候処、今日被召出

同六巳江戸御供詰

文政二卯三月十二日御右筆部や御坊主定助被仰付

同三辰年奥御坊主被仰付

同四巳年江戸御供詰

同五年年有馬御入湯御供被仰付

同六未年江戸御供詰

同八酉年江戸御供詰

同九戌年三月二日威徳院様奥御坊主令御表様奥御坊主江

同年四月三日御袖留并御着帯御誕生御用掛り御中屋敷御右筆部屋助

同年四月十八日同十亥年迄詰越被仰付

同年八月廿三日御誕生御用掛り二付、銀拾匁被下之

同十一子年江戸御供詰

同十二丑正月廿日出精相勤候二付、一統格二被成下

同年来寅年迄詰越被仰付

天保二卯二月廿五日奥御納戸方手伝被仰付、万斎事万右衛門与名替

同年三月朔日当卯春江戸御供詰被仰付

同三辰四月十九日出精相勤候二付、御充行式石老入扶持御増

一切米拾石三人扶持

都合如斯被成下

同年五月廿六日若殿様奥御納戸方手伝兼帯被仰付

同五年十一月十六日来未年江戸御供詰被仰付

同八酉十月十九日奥御納戸手伝被差免、同日伺之上押込被置候処今日令

被差免候、且又御国江御返被成候

同九戌三月十一日先役中役前不正之趣相聞候二付小算へ被下ケ押込、但

席山岡伊三太次

同年四月五日押込被置候処被差免候

橋本清左衛門 要蔵

一切米八石式人扶持

天保十二丑閏正月二日養父万右衛門病氣願之上御暇被下、養子要蔵与申者諸下代之内へ被召抱、御充行如斯被下置、御勝手役仮預り浮下代被仰付候

天保十二丑九月廿四日御切米方佐藤幸右衛門下代へ組替

同十三寅二月四日御切米御扶持方兼千田又左衛門下代へ組替

同年十月廿四日御材木方炭薪方下代兼へ

同十三寅十二月廿八日清左衛門と名替

同十四卯閏九月廿五日御雑用方下代へ

同十五辰十二月七日来巳年江戸御供詰被仰付

弘化三年十二月九日市村勘右衛門書役下代へ

同四未正月十二日当時月番御奉行仮預り

同十三日雨森儀右衛門書役下代へ

同年九月六日心得違之趣相聞候二付御奉行存を以叱り、依之慎伺差出候

処伺之通被仰付候、然ル処検見前御用多二付、同八日令被差免候

嘉永元申年三月廿五日江戸為詰出立

嘉永二酉年閏四月九日秋田三五左衛門書役下代江

同年十一月十六日御預所極方下代江

同四亥年正月十六日御奉行長谷部甚平極方下代へ

同年十月廿九日御奉行雨森儀右衛門極方下代へ組替

同六丑年江戸詰、三月十六日出立

同年四月朔日長谷部甚平極方下代へ

同七寅四月十四日原平左衛門極方下代へ

同七寅十一月十二日長谷部甚平極方江組替

安政二卯正月廿五日小算二被召出、御充行

一切米拾石三人扶持

如是被下置候

安政三辰四月二日江戸詰出立

元治二丑正月十六日出精相勤候二付別段之訳を以御充行式石御増、都合

一切米拾式石三人扶持

如此被成下候

慶応三卯七月廿六日御預所御所務方頭取被仰付

同年八月五日左之通名替

清左衛門事

橋本万右衛門

明治二巳五月廿五日病氣二付願之通御暇被下、是迄出精相勤二付倅一郎

与申者諸下代之内江被召抱、小算格二申付、御充行

橋本一郎

一切米拾石式口

如此被下、楽手申付候事

無息中

一明治元辰九月廿日鳴物方御雇被仰付、月々百五拾匁ツ、被下置候

一同二巳四月廿六日は迄百五拾匁ツ、被下候処、追々稽古出来二付、一人

半口被下候、外年給一俵

一郎事

橋本鋤二

同年十一月廿五日今般御改革二付、更御充行米式拾五俵壹斗四升七合

同三年三月廿二日支度出来次第東京詰申付候事

但詰中年給式俵被下候事

同年六月十日楽手申付候事 但年給式俵

同年閏十月朔日從東京歸

同年十二月十五日二等楽手申付候事 但年給式俵

同四未七月廿四日喇叭伝習見込無之二付楽手指免候事

同年十二月名替

鋤二事

橋本小太郎



小森九兵衛

一切米八石式人扶持

明和二酉六月十六日親跡御目付組へ被召抱

寛政七卯八月五日御目付物書年来出精相勤候二付、諸下代之内へ被召抱、

御充行如此被下置

同月七日明里御藏奉行下代被仰付

同十年三月廿日御代官方下代被仰付当時竹沢五郎右衛門下代へ

文化十三年十月十七日御預所御金奉行近藤八右衛門下代被仰付
 文政元寅十二月十六日小寄合格二被成下候
 同五年閏正月十七日病氣願之上出役勤被差免

小森九兵衛

一切米八石式人扶持

同年閏正月廿一日諸下代之内へ被召出、御充行如此被下置、大谷八十郎
 仮預り浮下代被仰付

同年三月十八日御預所御金奉行内田作兵衛下代被仰付

同七年申年九月十七日御奉行蜷川林左衛門下代へ

同九戌年十二月十六日来亥年江戸詰被仰付候

同十一年四月十九日大井長十郎下代勤へ

同十三寅年正月廿一日同人極方下代被仰付候

同年十二月廿六日川村文平極方下代へ

同十二月七日来卯年江戸詰被仰付候

天保二卯二月晦日右詰中大道寺七右衛門仮極方下代へ

同年三月十二日此度格外之御嚴法御儉約御取調二付懸被仰付候

同年四月十日御住居御普請御用掛り被仰付候

同三辰三月廿六日萩原長兵衛極方下代へ

同十一月廿九日市村久太郎極方下代へ

同十二月五日此度於江戸表御住居御普請宜出来、右御用掛出精之段御褒

詞被成下候、御目錄銀七匁五分被下置候

同四巳十月十七日今立五郎太夫極方下代へ

一切米拾石式人扶持

同五年十一月廿五日仕出場下代より小算被召出、御充行並之通如是被下
 置

同月廿九日来未年江戸詰被仰付

同六年未四月十六日久能御宮其外御修覆御用被蒙仰候二付、右御用懸り被

仰付候

同閏七月三日殿様御容躰二付御用懸被仰付候

同十一月七日御家督御引移二付御用多之処出精相勤候二付、金百疋被下
 置候

同月十六日御積方格別御用多相勤候二付、別段銀式朱被下置候

同十二月廿日御元服御用多之処出精相勤候二付、銀拾匁被下置候

同七年申二月廿五日当年大橋御修覆中御用懸被仰付候

同年十一月十一日今般大橋御修覆中出精相勤候段、御褒美銀三匁被下置

候

同八年酉九月廿一日御巡見御用掛り被仰付候

同九年戌五月十一日諸国巡見衆御用出精相勤候段被仰出候

同十年五月十七日月勘定方頭取其儘、今度江戸御屋形御普請御国切組被仰付

候二付懸り兼帯被仰付候

同年八月廿六日殿様御尊骸運正寺へ御納被成候二付、御用懸被仰付

同十一年亥九月十六日諦觀院様御靈屋御普請出来之処、出精相勤候二付御褒

被成下、銀五匁被下置候

同十二年子四月廿五日江戸御屋形御普請於此表切組被仰付候節、出精之段

被仰出候

同年八月三日御札所御貸方差添大谷新左衛門跡被仰付

同十三年寅八月廿五日大坂御廻米御用并御内用筋兼出坂被仰付、御札所御

貸方差添之義被指免候

小森篤平

弘化三年十二月十六日出精相勤候二付老人扶持御増、都合

一切米拾石三人扶持

如斯被成下候

文久二戌七月廿九日病氣罷在御奉公難相勤二付御暇相願候、依之願之通被仰付、養子治郎吉与申者被召出、訳合も有之二付小寄合格二被成下、御充行

嘉永元申年十二月十一日出精相勤候二付跡目小算二被成下、御充行式石御増、都合

小森治郎吉

一切米八石式人扶持

如斯被成下候

如此被下置、浮下代二被仰付候

同四亥二月廿八日参会之節心得違之趣有之二付、御奉行共存を以急度叱り、伺之上御用之外慎之処三月五日差免候旨

嘉永四亥七月五日出精相勤候二付、一統格二被成下候

同三亥二月十日殿様御上京御供二而出立、同三月同断帰同年七月十七日御台所方下代へ

同七寅年十月廿一日病氣指重り御奉公難相勤二付御暇相願候、依之倅喜三郎与申者被召出候、御定も有之候得共九兵衛勤功も有之二付、別段之訳を以無役小算上席二被召出、御充行並之通

同二丑二月廿九日御蔵所下代江

元治元子五月十一日在京中場所柄をも不弁不埒之趣相聞候二付、役儀被指免押込、六月朔日御免

小森喜三郎

一切米拾石三人扶持

如此被下置候

同年十月長征、丑二月四日帰慶応四辰三月十一日当分三岡八郎江附属被仰付、同月廿二日上京同年五月十一日会計官判事筆生被仰付候

同年十一月廿六日勤役被仰付候

任造幣寮権助

安政三辰四月廿日今度黄門様御遠忌二付、於運正寺御廟御造営被仰出候

同日叙従六位

同四巳四月御供二而江戸詰出立、同五年五月十六日帰着

同年八月十三日任検査助

万延元申十二月廿八日左之通名替

同年十一月十五日実家之弟橋本官治給禄讓受、自分給禄八川越治之介倅

喜三郎事

竹六へ讓渡

一米式拾三俵三斗六升三合
同年十二月改姓

小森事

橋本安治

橋本

6

橋本寛右衛門

一切米八石式人扶持

寛政三亥二月十日御預所御代官方見習被仰付

同四子八月十二日親及老年候二付願之上立替被仰付、跡其儘御預所御代

官方下代被召抱

文化四卯七月廿二日同所受込役被仰付

同七年二月朔日御台所下代入替被仰付

同年七月晦日御腰物方下代入替被仰付候、当時其儘

同十二亥十月七日御預所御代官山田清兵衛下代江入替被仰付

文政元寅九月朔日同人請込下代被仰付

同四巳七月十二日病氣願之上出役勤被差免候

橋本左五右衛門

一切米八石式人扶持

文政七申三月廿二日出役古物方仮預り浮下代勤被仰付

同年八月廿二日御藏奉行下代勤被仰付

同九戌三月十二日浮下代大谷武兵衛仮預り被仰付候

同年六月七日関勇右衛門下代勤江

同十亥八月七日横井久太夫下代勤へ

同十一子正月廿八日加藤猪右衛門下代勤へ組替

同年十二月十二日御預所御代官方雇下代勤へ

同十三寅閏三月十五日高橋市太夫下代江

天保二卯二月十六日御趣意二付浮下代嶋崎伝太夫仮預り被仰付候

同三辰七月十一日謙五郎様奥御坊主定彦人不快引有之、表御坊主分繰上

ケ跡表御坊主御雇被仰付候

同年八月十六日謙五郎様奥御坊主定助今日分御免被成候

同四巳十二月十四日寛右衛門与名替

同六未二月十四日御預所御代官高橋一太夫下代被仰付

同七申年五月廿五日御預所御代官河村三太夫下代江

同九戌八月十二日御預所御代官高橋一太夫下代へ組替

同年十二月十二日表御代官跡部又八下代へ、但最前表御代官下代勤候儀

も有之二付、未二月御預所御代官下代被仰付候節之席へ被入

同十一子二月廿日御代官厚治丈左衛門肩下代へ組替被仰付候

同年十月廿六日御預所御代官岡田金左衛門肩下代江増、但元席へ被入

同十五辰十二月廿四日出精相勤候二付、米壹俵被下置候

弘化二巳二月二日表御代官肩下代江

弘化二巳八月九日市村三右衛門肩下代江組替

嘉永二酉年七月廿六日粟田部領蓮川仁兵衛肩下代江組替

同三戌年二月廿四日三国領御代官請込下代へ

同五子十二月十六日出精相勤候二付、小寄合格二被成下候

安政二卯十月十六日病氣願之上御暇被下、養子寛平与申者諸下代之内へ

被召抱、御充行並之通

橋本寛平

一切米八石式人扶持

如斯被下置、西村源左衛門飯預り浮下代被仰付候

安政三辰六月廿四日御切米方御扶持方初蔵兼下代へ

同年十二月十九日御金方下代へ

同四巳五月廿六日御雜用方下代へ

同六未三月廿二日江戸詰出立

同七申三月十五日御供二而帰着

万延与改元、十二月四日今庄広瀬領御代官方下代へ

元治元子十二月賊徒一件出張、御手当三拾五匁被下

慶応四辰三月三日御台所下代江

同年四月七日上京

明治卜改元、十二月十六日出精相勤候ニ付小寄合格ニ被成下候

同二巳四月廿日庶務方下代江

但御納戸御台所御雜用古物方掛り兼

月給是迄之通、但忝儀也

同年七月十一日農民政局下代江

但南居山干飯領御代官方出役

一役順元席之事

同月十九日南居山干飯領收納方下代

同年十一月廿一日今般御改革ニ付役儀指免候

但付送り之儀ハ追而御指図相待可申事

同月廿五日今般御改革、更御充行米式拾式俵壹斗八合被下

同三年正月廿三日民政寮附属申付候事

但算者勤 収納方

同年四月十九日引立方附属申付候事

同年十二月十二日右附属指免候事

同月十五日持地之内ニ而三十式坪押地被下候事

同四未二月十七日諸願取次取扱江

萩原

萩原久助

一切米八石式人扶持

文化四卯三月五日養父御駕小頭小算格桜井八十太夫願之上立替被仰付、

跡諸下代之内へ被召抱、御勝手役飯預り被仰付

同年十月八日御代官佐野内半右衛門下代被仰付

同八未十二月廿八日萩原与改姓

同十三子十月廿七日御金奉行菌田藤左衛門下代江

同十四丑七月十九日御蔵奉行徳山茂左衛門下代江

文政三辰七月廿六日御代官川村五左衛門下代勤江

同十二丑四月廿六日安本佐次兵衛受込下代江

同五月廿五日病氣願之上出役下代勤被差免候

同廿七日秋田三五左衛門組へ御入人被仰付候

萩原清六

一切米八石式人扶持

天保七申年四月廿六日諸下代之内へ被召抱、御充行如斯被下置、嶋崎伝

大夫仮預り浮下代被仰付候

天保八酉六月廿四日御切米方下代江

同九戌正月廿四日御作事方下代入替被仰付候

同五月十二日今度江戸御屋形御普請於此表切組被仰付候二付、右掛り被

仰付候

同七月十一日江戸御屋形切組御普請二付江戸詰被仰付

同年十月十日当分御住居御普請掛り被仰付

同十一月廿日御本殿御普請掛り被仰付

同十亥四月十二日御住居御普請宜出来右掛り被仰付候処、出精相勤候二

付銀三拾匁被下置候

同年七月十七日来子秋迄詰越被仰付候

同年十二月十一日御屋形御普請宜出来御用掛り出精二付、銀拾五匁被下

置候

同十一子八月廿五日出精相勤候二付、御酒代銀式拾匁被下置候

同年十月十六日御代官酒井金五左衛門肩下代江増、但惣席順寺沢万助上

天保十二丑五月十六日妻女取迎親類等為步行候節、心得違之趣相聞候二

付押込被仰付、同五月廿五日押込被差免

同十二丑八月二日志比領御代官荒川三郎太夫肩下代江組替

同十三寅五月十一日郡奉行東郷平太夫肩下代江被仰付候

弘化二巳正月十六日出精相勤候二付、小寄合格被成下候

席江守五郎左衛門次

嘉永二酉年八月廿六日中領郡方請込下代江

同三戌年十二月十六日出精相勤候二付、小算格二被成下候

安政二卯正月廿九日下領郡方受込下代へ組替

同四巳正月十六日出精相勤候二付、米三俵ツ、年々被下置候

同六未十月廿日出精相勤候二付、別段之訳を以一統格末席二被成下、御

足充行式石壺人扶持被下置、御勘定所勤被仰付候

但是迄被下置候米三俵之儀ハ以後不被下候事

同年十二月五日太田御陣屋詰出立

万延元申七月廿八日先達而横浜表江臨時致出張候二付御褒詞

文久元酉四月帰着

同年十二月五日出精相勤候二付、是迄被下置候御足充行式石壺人扶持御

増、都合拾石三人扶持

一切米拾石三人扶持

如是被成下候

元治元子十二月賊徒一件二付御留守御用相勤、依之三拾三匁被下

慶応三卯十月十五日左之通名替

清六事

萩原義輔

同年十二月廿二日出精相勤候二付、一統格順席二被成下候

同四辰四月六日御札所受込指添被仰付

明治下改元、十二月十一日出精相勤候二付御充行式石御増、都合

一切米拾式石三人扶持

如此被成下候

同二巳三月十六日左之通名替

義輔事

同年七月十日病氣願之上御暇被下、倅寅之助ト申者小算ニ被召出、御充行

萩原寅之助

一切米拾石三口

如斯被下置候、席天谷五郎七次

同年 租稅方詰

同年十一月廿一日今般御改革ニ付役儀指免

但附送り之儀ハ追而御指図相待可申事

同月廿五日今般御改革ニ付、更御充行米式拾九俵五升六合被下

同三年正月十日生兵修行指出候

同年十二月十五日持地之内ニ而六十四坪坪地被下候事

同四年四月廿九日洋学修行東京行、願之通五月朔日出立



林庄太夫 庄左衛門事

一切米拾五石三人扶持

元文元辰十一月十三日御徒被召出、御擬作並之通被下置

延享元子八月廿八日於日光相果候

林次郎作

一切米拾五石三人扶持

同年九月廿二日庄太夫為跡目御徒被召出、御擬作並之通被下置、治左衛門与名替

寬延四未十二月三郎太夫与名替

宝曆三酉正月勘兵衛与名替

宝曆十二年十一月作左衛門与名替

天明二寅十二月金太夫与名替

寬政六寅二月廿九日及老年願之上御立替被成下

林仙十郎

一切米拾五石三人扶持

寬政六寅二月廿九日親金太夫為跡目御徒被召出、御擬作並之通被下置

寬政六寅十二月孫十郎与名替

同七卯江戸詰

同九巳江戸詰

文化元子御留守詰

文化三寅十二月猪左衛門与名替

同六巳江戸詰

同十四年江戸詰罷越候処詰延ニ相成、失却多難洪之趣ニ付、格別之為御

手当銀三拾九匁被下置候

林孫十郎

一切米拾五石三人扶持

文政六未十月十六日養父猪左衛門病身ニ付願之通御暇被下、御徒ニ被召出、御充行並之通被下置

同八酉年江戸御供詰

文政十一子五月朔日支度出来次第江戸増詰被仰付

同十二丑三月廿五日今般御類焼二付火之御番御免被成候二付、詰帰被仰付候

天保五年二月十九日江戸俄詰被仰付候

同年十月廿二日来未年江戸御供詰被仰付候

同六未閏七月十三日御遺骸御国江被為入候二付、御供二而帰切被仰付候

同十一月廿九日当春不慎之趣相聞候二付押込被仰付候、同十二月十六日

押込被指免

天保七申十二月三日来酉年江戸詰被仰付候

同十一子十一月七日来丑年江戸詰被仰付

天保十二丑十二月廿五日金太夫与名替

同十四卯十一月四日小役人格二被成下、御広式添役古市八兵衛跡被仰付

弘化四未年十二月五日堀土居奉行矢野三太夫跡被仰付候

安政三辰年九月十六日御徒組頭矢野三太夫跡被仰付、役中御足充行式石被下置候

文久二戌六月廿五日出精相勤候二付小役人二被成下、御台所目付中村勤

太夫組被仰付、御足充行式石御増、都合

一切米拾七石三人扶持

如此被成下

文久三亥十月廿五日病身二付役儀被指免候

林佐太郎 金太夫養子

安政七申三月廿五日御徒二被召出、御充行近年御定之通被下置候

(文久) 同三亥十月十三日中将様御上京御供出立

元治元子三月三日病氣之処養生不相叶相果

同年四月十一日養父金太夫病氣及大病立替相願、其後令病死候二付、其儘御徒被仰付、御充行

一切米拾五石三人扶持

如此被下置候

元治元子八月廿八日御上京御供出立、夫令長征、丑三月帰

慶応二寅六月廿五日宰相様御登坂御供出立、十月六日帰

同三卯十月十八日御趣意二付席其儘小筒組後拒役被仰付

同四辰四月朔日上京、七月十九日帰

明治二巳二月廿七日歩隊二被仰付、後整衛隊ト改

同年十一月廿五日今般御改革、更御充行米三拾五俵四斗五升

同三年六月廿九日第二大隊三番小队入申付候事

同年八月十二日第三大隊式番小队更二申付候事

同年十一月廿八日居住罷在候屋敷地之内二而九十六坪拜地被下候

同年十一月晦日瓦御門番江

同四未正月廿四日民政寮泊番申付候事



林二太夫

一切米八石式人扶持

文化二丑二月十九日御奉行織田半左衛門組江被召抱

同十四丑八月廿六日出役下代勤被仰付、御充行並之通如此被下置、門野

栄十郎仮預り浮下代被仰付

同年十一月十六日町奉行書役野口善兵衛跡被仰付、但勤中御充行定之通

拾石三人扶持被成下候

文政五年八月朔日他三郎事二太夫と名替

文政五年十月五日出精相勤候二付、小算格被成下候

同十三寅二月廿八日当分浮下代被仰付、御充行八石式人扶持被成下候

同年十月二日御屋敷方書役被仰付

同年十二月二日来卯春御年寄中初大奥女中道中引纏江戸立掃被仰付候

天保二卯春大奥女中道中引纏江戸立掃被仰付置候処、御免被成候

同三辰正月廿九日女中引纏立掃被仰付、道中添役仮兼帯被仰付候

同年五月十七日御広敷書役勘定役兼帯被仰付、支度出来次第江戸詰被仰候

付候

同三月晦日当夏大奥女中道中引纏被仰付候

同十一月廿五日来々午年迄詰越被仰付候

同四巳十二月廿八日庄助与名替

同五年三月六日出精相勤候二付来未年迄詰越被仰付候、詰中為失却金壹兩被下置候

同六未四月十七日勝手次第江戸表出立罷掃候様被仰付

同六月廿五日詰中役前不念之義有之ニ付浮下代被仰付、押込被仰付候

同七申年五月朔日産物方掛り被仰付候

天保八酉四月廿九日御国絵図御用掛り出精相勤候二付、為御褒美銀式匁被下置候

同年十二月十六日産物方被仰付候

一切米拾石式人扶持

一切米拾石式人扶持

天保九戌十二月十六日出精相勤候二付御充行式石御増、都合如此被成下

同十亥十二月廿八日佐五右衛門与名替

同十三寅十二月十六日出精相勤候二付小算被成下候、席小林勘十郎次

同十五辰三月二日御内用ニ付岐阜表へ出張被仰付候

弘化三年十一月十六日心得違之趣相聞候二付急度可被仰付処、格別之御

憐愍を以押込、同十二月朔日押込被置候処被指免候

弘化四未年十一月廿五日出精相勤候二付老一人扶持御増、都合拾石三人扶持二被成下候

持二被成下候

嘉永元年十二月十一日年来相勤候二付諸下代之株二被成下、銀五貫匁

上納被仰付候

同年十二月廿二日御武具方手伝江

同二酉年八月廿六日御勘定所勤被仰付、海岸御用掛り被仰付候

同三戌十一月廿日御武具手伝勤中御修覆御用出精相勤候二付、銀拾匁被

下置候

同年十二月十六日年来相勤候二付跡目小算二被成下候

林他三郎

一切米拾石式人扶持

嘉永四亥四月廿三日親佐五右衛門病氣ニ付願之上御暇被下、無役小算二

被召出、御充行並之通如是被下置候

同年五月七日勤役被仰付候

同五子四月廿五日此度小算之者共以前へ被復老一人扶持御増、都合

一切米拾石三人扶持

如此被下置候

同六丑年江戸詰、三月廿二日御供ニ而出立
同年四月九日慎姫様御入輿ニ付御用掛り被仰付候
同年十二月廿九日左之通名替

佐五右衛門事

林左治衛

他三郎事

林二左衛門

安政三辰三月五日弟新五郎儀大嶋又太夫養子ニ差遣候処、先達而及離縁候儀、病身とハ乍申兼而行状不宜趣相聞候ニ付押込、且亦二左衛門儀も異見等不参届趣相聞候ニ付押込、同廿三日御免

元治元子十月 長征御用ニ付出坂、十二月廿七日帰

慶応元丑五月廿九日出精相勤候ニ付別段之訳を以御充行式石御増、都合

一切米拾式石三人扶持

如此被成下

慶応元丑七月十一日三ノ丸御座所御普請中格別出精相勤候ニ付、銀百五

拾匁被下置候

同年十二月廿八日左之通名替

二左衛門事

林佐五右衛門

同二寅正月十六日出精相勤且誤合も有之二付、別段之訳を以一統格末席

ニ被成下候

同三卯十月八日御買物御用ニ付上京、十一月七日帰

明治元辰十二月十一日諸局御道具調役被仰付候、且又出精相勤候ニ付役

中小役人格ニ被成下候

但月勘定受込之儀も是迄之通 月給五俵

同二巳六月十七日名替

同年 御道具調月勘定方受込

同年十月廿九日御家従出納方附属用度掛り申付候事

但格式月給当分是迄之通

同年十一月廿五日今般御改革、更御充行米三拾壹俵三斗六升九合

同三年三月九日御家従被仰付候事

但出納掛り

十一月廿八日居住罷在候屋敷地之内ニ而七十七坪坪地被下候、未六月廿

日御取消

同四未四月五日年給廿式俵壹斗八升式合四勺、十四級也

同五申八月晦日御書下ケニ而免職

同日同断ニ付為御慰勞年給半高被下候事

同年十月二日坂井港納米中雇申付候事

林³

林文榮

一米八俵式人扶持

寛政十二申正月廿七日如斯被下置、御勘定所御坊主被召出

文化十四十一月五日年来出精相勤候ニ付御充行七石式人扶持被下置、川

地忠左衛門組江割入被召抱

同月六日御預所御金方雇下代被仰付、右出役中御充行壹石御増、都合

一切米八石式人扶持

如斯被成下、嶋崎伝右衛門仮預り被仰付、文栄事磯右衛門与名替

同十二亥八月廿四日御雜用方青木理兵衛下代被仰付

同十三子十月十七日御預所御金奉行八田弥次兵衛下代被仰付候

同十四丑十二月十五日御預所仕出場下代仮被仰付候

同十五寅二月十五日梶川半兵衛下代本役被仰付候

文政三辰十二月朔日小宮山伝七書役下代江組替

同四巳七月廿五日此度浅姫君様御上屋敷江被為入候二付、諸事御用掛り被仰付

同九月廿八日右御用掛り無御滞相濟出精之段達御聽太儀二思召、依之銀

七匁五分被下置候

同五年五月十七日宮北長左衛門下代勤へ

同年八月朔日小宮山伝七極方下代江

同六未二月十七日桑山十藏極方下代勤へ

同八酉九月八日病氣願之上出役勤被差免候

林磯右衛門

一切米八石式人扶持

文政九戌三月晦日出役浮下代勤被仰付、御充行並之通如斯被下置、大谷

武兵衛仮預り被仰付候

同年四月三日御腰物方下代勤へ

同十一子年江戸詰被仰付

同十三寅五月十日横山吉太夫下代勤へ

天保二卯二月十六日御趣意二付浮下代嶋崎伝太夫仮預り被仰付候

同年五月九日御腰物方御拵方并下代兼

同五年九月廿二日御広敷書役江

同六未閏七月十一日御代官木内甚兵衛肩下代江

同十七日御代官渥美助左衛門下代へ組替

同九戌八月二日御代官福嶋忠兵衛下代へ組替

同十二丑八月二日今庄領多部三左衛門肩下代へ

同十二丑十月六日殿下領御代官井上茂右衛門肩下代江組替

同十五辰四月十六日出精相勤候二付、為御酒代銀三拾匁被下置候

同七月廿四日御代官松尾伝藏受込下代へ組替

弘化二巳八月九日平井佐右衛門受込下代へ組替

同四未正月十六日出精相勤候二付、小寄合格被成下候

弘化四未四月砂子坂領御代官受込下代江組替

嘉永二酉年七月廿六日広瀬領御代官請込下代江組替

同六丑年正月十六日出精相勤候二付、小算格二被成下候

安政四巳正月廿五日御趣意二付改而三国山岸領へ

同五年正月十六日出精相勤候二付、米三俵ツ、年々被下置候

同六未八月五日東郷粟田部領江組替

同年同月十六日殿下砂子坂領受込下代へ組替

文久四子正月十六日数年来誠実二相勤候二付別段之訳を以一統格末席二被成下、御充行式石壺人扶持御増、都合

一切米拾石三人扶持

如此被成下、御勘定所勤被仰付候

但是迄被下置候米三俵之儀ハ以後不被下候事

元治元子十二月賊徒一件二付御留守御用相勤、依之三拾三匁被下

慶応元丑九月廿五日年寄候二付御暇被下、養子雅太郎与申者小算二被召

出、御充行

林雅太郎

一切米拾石三人扶持

如此被下置候

慶応四辰六月廿五日会征出立、十一月十三日帰、巳二月廿二日右出張二付

明治二巳四月九日中納言様御供東京江出立
同年九月十日名替

雅太郎事

林醇三郎

同年同月晦日金銀勘定方并御膳所向取扱之廉御納戸方諸品受弘兼勤申付候事

同年十一月五日東京詰更ニ申付候事

但詰中御家従出納方附属申付候事

同月廿五日今般御改革、更御充行米貳拾九俵五升六合

同三年三月十四日左之通被仰付

大学出仕申付候事

同年四月十四日大奥御建継御普請出精太儀二付、金五百疋被下候事

同月廿五日戊辰北越出張軍事精勵二付、御賞典之内金十両被下候事

同年七月十八日親対面願之上飛脚御用相勤着

同月十四日大学出仕指免候段、八月二日飛脚ニ申来ル

同年九月十四日学校附属申付候事

但下級

同年十月二日実父池村甚平跡式相続致度二付、願之上学校附属指免候事、但出納方也

但醇三郎右仮養子中御記録之表池村家江も記置候

午十月三日右醇三郎跡式江

林磯吉 十一

一米貳拾九俵五升六合

但林左五平倅ニ而林儀右衛門孫也

林梅吉 十八

幼年ニ付代勤、卒族広部安二養子也

同月四日歩兵修行指出候也

同年十一月廿八日松本高持地之内拜地被下候

同四未三月九日梅吉病身ニ付代勤願之通指免

林伊三雄 廿歳

再代勤 卒加藤仙之介弟也

右願之通代勤申付候事



高橋藤兵衛

一切米八石式人扶持

文政四巳年十一月廿七日親ニ右衛門義出役勤被差免、跡御目付松田善右

衛門組江割入被仰付

同十二月朔日倅藤兵衛と申者善右衛門組江被召抱
同十六日諸下代之内江出役勤被仰付、御充行如斯被下置、大谷八十郎俵
預り被仰付

同廿四日古物方下代被仰付候

同五年八月八日炭薪方下代被仰付候

同六年二月十四日御台所方下代被仰付候

同七年九月十九日御預所御金方下代被仰付候

同九戌年六月十二日御預所御代官方下代被仰付候

文政十一子年十二月十一日病氣願之上出役勤被差免

同十四日病死致候二付跡御側物頭萩原長兵衛組江御入人被仰付候、御充
行九石式人扶持被下置候

高橋仁右衛門

一切米八石式人扶持

天保十一子年九月廿六日養子仁右衛門義諸下代之内江被召抱、御充行並

之通如斯被下置、嶋崎伝太夫俵預り浮下代被仰付候

同九月廿八日左之通名替

仁右衛門事

藤左衛門

同十二丑年正月十七日河野口錢方下代被仰付候

同十三寅年七月十二日御台所方下代被仰付

同十月廿四日初蔵下代被仰付候

高橋忠蔵

一切米八石式人扶持

天保十三寅年十二月十二日養父藤左衛門病氣願之上御暇被下、養子忠蔵
と申者諸下代之内江被召抱、御充行並之通如斯被下置、嶋崎伝太夫俵預
り浮下代被仰付候

同十四卯年二月六日初蔵下代被仰付候

同十五年二月廿一日御腰物方下代被仰付

同十二月左之通改姓

高橋事

大西忠蔵

大西磯吉

一切米八石式人扶持

弘化五申年正月廿日養父忠蔵病氣願之上御暇被下、養子磯吉と申者諸下
代之内江被召抱、御充行如斯被下置、中野文左衛門俵預り浮下代被仰付
候

嘉永二酉年五月四日御扶持方下代江

磯吉事

大西佐五平

同五子正月廿四日御作事方下代江

同六丑年三月十六日出立江戸詰、翌寅四月廿日帰着

同七年三月廿三日御殿山へ出張二付金式朱被下置候

同七寅五月十四日砂子坂領御代官肩下代江

安政二卯十一月十四日御納戸方下代江

同三辰江戸詰

同四巳三月朔日出精相勤候二付、小寄合格二被成下候

同四巳五月十六日金津芝原領御代官方下代へ、但役席岡井喜右衛門次

同年六月廿九日郡方書役下代へ

同五年九月廿日中領郡方下代江

文久三亥十二月十六日出精相勤候二付、小算格二被成下候

元治元子五月廿二日南居山干飯領御代官受込下代へ

慶応元丑十二月廿八日左之通改姓名

大西佐五平事

林左五平

同四辰二月五日出精相勤候二付、年々米三俵ツ、被下置候

同年八月七日南居山干飯領御代官受込下代江組替

明治二巳七月十九日南居山干飯領収納方受込

但月給三俵

同年十一月廿一日今般御改革二付役義被免候事

但附送り之儀ハ追而御指図相待可申事

同月廿五日今般御改革二付、更ニ御充行米式拾式俵壹斗八合被下

同三年正月廿三日民政寮附属申付候事

但算者勤

同年十二月十二日民政寮勤 収納方算者

但十六等之二等、未正月令十六俵

同四未六月朔日御改正二付免職

同廿四日任序掌

但地方 十六等ノ一等

同年十二月十日任福井県史生 収納方
同五申五月名替

左五平事

カネタケ
林包武



坂川文右衛門

一式人扶持

明和七寅五月表御金方雇下代被仰付

安永元辰正月仕出場留付御雇被仰付

同八亥四月五日御扶持方如斯被下置、御趣意方雇下代被仰付

天明元丑三月七日親小左衛門数年来相勤候勤功を以御充行並之通

一切米八石式人扶持

如斯被下置、御台所方青山次郎左衛門下代被召抱

同二寅正月廿日御代官横山藤八郎下代入替被仰付

同五巳八月十一日御代官伊黒弥三右衛門請込下代被仰付

寛政七卯十二月十六日小寄合格被成下

同十二申十二月十六日出精相勤候二付、年々俵数三俵ツ、被下置候

文化五辰九月廿五日小算格被成下

同十一戌正月廿五日不念之儀有之、格式其儘ニ而浮下代勤被仰付、是迄

被下置候俵数以後不被下候

同年二月、月勘定方御用多二付手伝被仰付

同十二亥二月二日御鷹場之内不用地面諸作付方御用掛り被仰付

同年五月十四日御代官柳下勘七請込下代勤安川庄太夫跡へ被召抱

坂川彦太夫

一切米八石式人扶持

文政六未二月六日親文右衛門年寄候二付立替被仰付、跡御金奉行下代勤被仰付、但親文右衛門年来相勤候二付為御酒代銀拾匁被下置候

同八日彦兵衛卜名替

同八西九月四日御代官下代勤へ

同九戌十二月廿五日長右衛門卜名替

天保元寅十一月十九日文右衛門卜名替

同二卯四月廿六日御代官笹倉郡右衛門下代江

同三辰七月廿四日石井甚平下代江

同六未閏七月十七日御代官久野長右衛門下代江組替

同八酉七月六日御代官栗原作太夫請込下代被仰付

同九戌八月二日御代官跡部又八受込下代江組替

坂川鉄五郎

一切米八石式人扶持

天保十一子九月廿九日養父文右衛門病氣願之上御暇被下、養子鉄五郎卜申者諸下代之内へ被召抱、御充行並之通如斯被下置、嶋崎伝太夫仮預り

浮下代被仰付

但文右衛門義請込勤中出精相勤候二付、為御酒代銀拾匁被下置候

天保十一子十一月廿六日御扶持方下代江

天保十二丑九月廿四日御腰物方下代江被仰付候

同十二丑十二月廿四日来寅春江戸詰被仰付候

同十五辰七月廿四日御代官大町次左衛門肩下代へ

弘化二巳八月九日蓮川仁兵衛下代へ組替

同十一月十六日病氣願之上御代官下代被差免、浮下代二被仰付、中野文左衛門仮預り被仰付候

坂川五之助

一切米八石式人扶持

弘化二巳十二月十六日病氣願之上御暇被下、養子五之助と申者諸下代之内へ被召抱、御充行如斯被下置、中野文左衛門仮預り浮下代被仰付候
巳十二月廿八日林と改姓

同三年六月十七日御金方波々伯部源右衛門下代へ

同四未七月晦日御貯方下代江組替

林五之助

嘉永元申年江戸詰

同二酉年四月七日於江戸表御厩方下代被仰付、来戌年迄詰越被仰付、御金方下交代迄其儘兼帯被仰付候

同三戌年四月三日出精相勤候二付、小寄合格二被成下候

同六丑年三月廿二日御供二而江戸表へ出立

同年十月十二日御趣意二付江戸詰被相止候二付、勝手次第罷帰候様被仰付、十一月三日帰着

安政二卯年正月十六日出精相勤二付、小算格二被成下候

同年十月十一日御広敷勘定役書役兼被仰付候

同三辰年江戸詰、三月二日出立

同五年十月十一日江戸詰出立

同六年九月四日出精相勤候二付御充行式石御増、都合

一切米拾石式人扶持

如此被成下候

文久二戌四月廿九日御納戸方下代江

同年十二月廿八日左之通名替

五之助事

林与右衛門

同三亥二月六日御作事方下代へ

同年十月十二日京都表江出立、子六月十五日帰

元治元子九月廿九日京都岡崎御屋敷御普請中心配相勤候二付、銀七拾五

匁被下置候

元治元子十二月賊徒一件二付出張、御手当銀三拾五匁被下置候

元治二丑正月十六日出精相勤候二付小算二被仰付、御扶持方壱人扶持御

増、都合

一切米拾石三人扶持

如此被成下候

慶応二寅五月廿九日役前不念之儀有之二付押込、六月廿日被指免

但御金方下代勤也、小算江上一郎不届一件二付

明治二巳六月十七日名替

与右衛門事

林確平

同年 御金方定年番

同年十月廿七日当役其儘楮幣局受込返申付候事

同年十一月朔日今般御改革二付役義指免候事

同月四日御金方附属申付候事

但月給米一年分四俵被下候事

同年同月廿五日今般御改革、更御充行米式拾九俵五升六合被下

同月廿七日會計寮権少属被仰付候事

同三年二月七日今般御改革、御金方被廢候、依之権少属被免候事

同月十日下午馬太鼓三ノ丸御門当番申付候事

同日当分御金方決算掛り申付候事

同年三月廿九日御用濟二付右掛り指免候事

同年四月五日下午馬御門三ノ丸御門太鼓御門当番申付候事

同年五月廿日會計寮附属申付候事

但給禄方

一上級 附り肝煎也

同年十二月十二日會計寮勤

但十六等ノ二等

同四年正月十七日任准史生 未正月今十六俵

但會計寮勤仕 給禄年給方肝煎

同年 病死

同年七月二日父確平跡式申付、給禄

林吉郎

一米二拾九俵五升六合

従前之通被下候事

林幸左衛門

一切米八石式人扶持

天保四巳四月廿九日御目付鈴木忠太夫物書年来相勤候二付、諸下代之内
江被召出、御充行如斯被下置候、但跡株之儀者被下置候事
同日嶋崎伝太夫仮預り浮下代被仰付候

林勝五郎

一切米八石式人扶持

同五年四月廿七日養父幸左衛門病氣願之通御暇被下、諸下代之内へ被召
抱、御充行並之通如斯被下置、嶋崎伝太夫仮預り浮下代被仰付候
同七申三月十二日御切米方下代勤へ
同八酉七月廿五日御腰物方下代勤へ
同年十月廿五日炭薪方下代御材木方下代兼へ
同九戌十二月廿八日作右衛門与名替
一切米九石式人扶持

天保十亥正月廿九日仕出場書役下代被仰付、月番御奉行仮預り被仰付

同年五月廿六日鈴木忠太夫書役下代へ

同十一子八月十四日井上半太夫書役下代へ

同年十月廿一日西尾源太左衛門書役下代江組替、来丑年江戸詰被仰付

同十二丑三月十二日当丑年江戸詰被仰付置候処、当秋出立罷越候様被仰

付候

同十二丑五月九日東郷仁右衛門書役下代江

同十三寅四月廿八日萩原長兵衛書役下代江被仰付候

同十三寅七月十一日右同人極方下代被仰付

同十四卯十月十一日岡田金左衛門極方下代江

同十月十九日月番御奉行仮預り被仰付

同十五辰四月廿日佐々木小左衛門極方下代へ

同十五辰七月九日御簡略御用掛り被仰付候

同十一月十六日市村勘右衛門極方下代被仰付、来巳年江戸詰

同四未正月十六日岡田金左衛門極方下代へ

同三月十七日病氣願之上仕出場下代被差免、御勝手役仮預り浮下代被仰

付

林文次郎

一切米八石式人扶持

弘化四未三月廿九日養父作右衛門病氣願之上御暇被下、養子文次郎与申
者諸下代之内へ被召抱、御充行並之通被下置、中野文左衛門仮預り被仰
付候

嘉永二酉年閏四月十二日御切米方下代江

同五子年三月廿一日御雜用方下代被仰付候

同七寅正月十六日為詰江戸表へ出立

同年三月廿三日御殿山へ出張二付金式朱被下置候

安政二卯二月十九日仕出場書役被仰付、詰中其儘御雜用方下代相勤候様

同三辰正月十九日広瀬領御代官肩下代江

同四巳正月廿五日御趣意二付改而南居山干飯領へ

同年三月廿五日三国山岸領江組替

同六未二月廿九日御広敷書役へ

万延元年江戸詰

文久元酉二月廿五日出精相勤候二付、小寄合格二被成下候

同年十二月賊徒一件二付御留守御用相勤、依之拾式匁被下

慶応二寅正月十六日出精相勤候二付、小算格二被成下候

同年十二月十六日御作事方下代江

同四辰四月廿一日金津芝原領御代官方下代江

同年八月廿五日殿下砂子坂領へ組替

明治二巳二月二日御台所方下代江

同月廿一日東京江出立

明治二巳六月十一日庶務方下代江、但月給米一年分老俵被下候事

同年九月晦日帰藩申付、十一月二日帰

同年十一月朔日今般御改革二付役義指免候事

同月廿五日今般御改革、更御充行米式拾式俵壹斗八合被下

同三年正月廿四日生兵修行指出候

同年九月十八日民政寮附属申付候事

但引立方算者
一下級

同年十二月十二日右附属指免候事

同四未二月十二日小学校御門番増江

同五申十月廿九日出納課雇申付候事

林市郎右衛門

一切米拾石三人扶持

元文三年十一月七日果ル

林喜太夫

一切米八石式人扶持

元文五申四月三日大工之内分御充行如斯被下、棟梁大工被仰付

同年四月十九日市郎右衛門与名替

一切米拾石式人扶持

寛保元酉九月十一日中判役高山加兵衛跡被仰付、切米式石御増、都合如

斯被成下

林次三郎

一切米拾石式人扶持

宝曆十四申四月十九日親市郎右衛門与立替被仰付、中判役被仰付、御充

行如此被下置

明和六丑二月六日市郎右衛門と名替

林弥三次

一切米拾石式人扶持

安永五申七月廿四日親市郎右衛門病氣願之上養子弥三次立替被仰付、御

充行親之通被下、中判役被仰付

天明二寅市郎右衛門与名替



林熊藏

一切米八石式人扶持

寛政十二申四月廿三日親市郎右衛門病氣願之上立替被仰付、倅江御充行如斯二被下、仮中判役被仰付

一切米拾石式人扶持

文化二丑正月廿五日切米式石御増、都合如斯被成下、中判本役被仰付

同七年十二月廿四日弥三右衛門と名替

文政四巳正月十六日出精相勤候二付、小算格被成下候

同九戌七月廿四日柳之御門御再建御用掛り被仰付候

林弥太郎

一切米七石式人扶持

天保三辰八月十四日親弥三右衛門及大病御奉公難相勤候二付立替相願候処、倅未熟二候得共年来格別之勤功も有之二付、御憐愍を以立替被仰付、倅江御充行如斯被下置、中判役見習被仰付候

同七年十月十一日今般大橋御修覆中出精相勤候段御褒詞被下、御褒美

銀拾匁被下置候

同八酉正月十六日出精相勤候二付御充行壹石御増、都合

一切米八石式人扶持

如斯被成下候

一切米拾石式人扶持

天保十亥十二月十一日本役二被仰付、御充行式石御増、都合如斯被成下候

同十一子九月十六日不慎之趣相聞候二付押込被仰付候、同年十月五日押

込被差免

同十四卯八月廿五日先年も御咎被仰付候処、亦復不慎之趣相聞候二付、御充行之内式石取揚、浮下代江被入押込

林清之助

一切米八石式人扶持

天保十四卯十月五日養父弥太郎病身二付願之上御暇被下、養子清之助諸

下代之内へ被召抱、御充行如斯被下置、嶋崎伝太夫仮預り被仰付候

同十五辰二月十六日御充行其儘中判役見習被仰付候

弘化三年五月廿九日中判本役被仰付、御充行式石御増、都合

一切米拾石式人扶持

如斯被成下

当午年江戸詰

同十二月廿二日来々申年迄詰越被仰付候

同四未九月十二日今般公方様神田橋御住居江御立寄無御滞被為済、右御

用掛り出精之段達御聴太儀二思召候、且又小役人以下掛り并掛り同様相

勤候者共出精骨折候二付、銀七匁被下置候

嘉永二酉年六月七日御門所入之儀心得違之趣相聞二付押込

同年十月十九日御上屋敷大奥向御普請御用掛り并表御建継御普請等二付、

出精之段達御聴太儀二思召候、依之御目録銀六拾匁被下置候

同年十月廿八日江戸二而今度御普請中出精相勤候二付、金三百疋被下置

候

同五子八月八日江戸詰出立、同六丑九月十日帰

同六丑正月十八日出精相勤候二付壹人扶持御増、都合

一切米拾石三人扶持

如是被成下候

安政元寅十二月五日今般大橋御修復出来二付、為御褒美銀貳拾匁被下置

候、同日右同断之処格別出精二付別段貳拾匁被下

同三辰四月廿日今度黄門様御遠忌二付御廟御造營被仰出候処、纒之日數

二而宜出来二付銀三拾匁、別段拾匁被下置候

同三辰十二月十六日出精相勤候二付、小算格二被成下

同六未三月三日江戸詰出立

同年五月八日横濱御警衛御持場御台場御陣屋御取立二付、御用掛被仰付

同年十月十九日右出精二付金壹兩被下

同七申二月五日当秋迄詰延被仰付

安政七申正月七日御陣屋御普請出精相勤二付、当年限米貳俵被下置候

同年二月廿六日右同断二付銀貳拾貳匁五分被下置候

万延与改元、六月廿四日靈岸島御屋敷御建繼御普請出精二付銀五拾匁、

別段拾匁被下置、外御勘定所取扱二而別段貳兩被下

同年十月五日今度大橋御門御造立被仰出候処、宜出来二付三拾匁被下

同年十一月十六日巢鴨御屋敷御普請二付骨折銀三拾匁、別段拾匁被下置

候、外御勘定所取扱二而別段壹兩被下

文久三亥九月十日今度三ノ丸御座所御普請二付御用掛被仰付

元治元子二月廿五日役前不参届其上不束之趣相聞候二付、小算格取揚押

込、三月五日御用指支二付被指免、御用外ハ是迄之通慎、然ル処三月廿

日被指免

同年十月 長征出立、丑二月帰

慶応元丑七月十一日三ノ丸御普請格別出精二付小算格二被成下、米貳俵

被下置候

同二寅二月廿日中判役筆頭大工支配飯被仰付、役米三俵ツ、年々被下置

候

七月廿七日今度御座所御建繼御普請被仰出、御用掛被仰付

同三卯十月 左之通名替

清之助事

林弥三右衛門

明治元辰十二月十六日中判役筆頭大工支配之儀、今般御趣意二付御廢止

被成候

但中判役筆頭大工支配飯被指免、是迄被下置候役米三俵之儀ハ已

後不被下候

同二巳正月十六日近来引統御普請之処格別出精相勤候二付、別段之詛を

以一統格二被仰付

同年六月十七日名替

弥三右衛門事

林清十郎

同年十一月朔日今般御改革二付役儀被免

同日造營方見廻役申付候事

同月廿五日今般御改革、更御充行米貳拾九俵五升六合被下

同三午二月八日上級御申付候事

同年五月廿日役儀指免候事

同年七月十八日瓦御門当番更申付候事

同年十一月晦日右同断改而申付候事

同四未二月十七日諸願取次取扱



松村源助 円助事 中領組

一切米八石

文化六巳十一月廿五日養父原田勘次郎病氣願之上立替被仰付、跡諸下代之内へ被召抱、御勝手役仮預り被仰付、仕出場留付相勤

同七年三月十日瓦方下代へ

同八未六月六日明里御蔵奉行富田猪左衛門下代へ

同十二月廿八日原田事松村与改姓

同十二亥七月廿日去戌年納方之義不宜儀共相聞候二付、出役勤被差免押込、諸組之内へ被入、森田伝右衛門組へ御入人被仰付

同十三子七月廿九日出役下代勤被仰付、河野浦口錢役所下代へ

文化十五寅二月十六日壺石増、都合八石式人扶持二被成下

文政元寅九月四日御金奉行多喜田藤内下代へ

同三辰六月七日靈岸島御台下代勤被仰付、支度出来次第江戸詰被仰付

同九月廿四日同所御雜用方下代勤兼帯被仰付

同五年閏正月四日御広敷書役増被仰付

同十亥正月十六日出精相勤候二付、小算格二被成下

松村源助 専蔵事

一切米八石

文政十三寅正月十六日親源助病氣願之上御暇被下、倅専蔵与申者諸下代之内江被召抱、御充行如此被下置、御勝手仮預り被仰付

同年閏三月十五日初蔵下代江

同六未閏七月廿九日専蔵事源助与名替

同十一月廿九日当春不慎之趣相聞候二付押込被仰付、同十二月十一日押込被指免

同十二月十七日御城表火之番江

天保八酉四月五日心得違之趣相聞候二付押込、同四月廿五日押込被差免
同十二月十一日当春不慎之趣相聞候二付押込

同十亥四月廿四日先年〆度々御咎被仰付候処、又々不慎之趣相聞不届至極之義二付、立替之上押込被仰付、同五月三日押込被指免候

松村平助 利八事

一切米八石

天保十亥五月十四日養父源助与申者先達而立替被仰付候、跡利八与申者諸下代之内へ被召抱、御充行並之通被下置、嶋崎伝太夫仮預り被仰付

同十亥六月廿五日御作事方下代へ被仰付

同十一子三月廿二日当秋江戸詰

同四月廿六日当秋江戸詰被仰付置候処、益前二到着候様被仰付

同十二丑十二月廿二日御代官方下代へ

弘化二巳五月十四日利八事平助与名替

嘉永二酉年七月廿六日三国領御代官肩下代江組替

同四亥七月九日金津奉行下代へ、但福井勤

同六丑正月十六日出精相勤候二付、小寄合格二被成下候

安政二卯十一月廿六日金津表へ引越被仰付候

同四巳六月廿九日金津芝原領御代官方下代へ

同六未八月五日南居山干飯領江組替

林芳太郎

万延元申六月廿一日御札所御趣向方下代へ

文久三亥十二月十六日出精相勤候二付、小算格二被成下候

元治元子八月七日御札所御趣向方被相止候二付御勘定所勤へ

同年同月晦日綿麻方下代御厩方下代兼江

同年十月十七日綿麻方役所被相止候二付御厩方下代振退江

慶応元丑十一月廿一日御趣法講下代へ

同三卯正月廿一日御広鋪勘定役書役兼江

同年十月廿二日病身二付願之通御暇被下、養子定吉与申者諸下代之内江

被召抱、御充行並之通

松村定吉

一切米八石式人扶持

如此被下置、御勝手役仮預り浮下代被仰付

慶応四辰三月三日御切米方御扶持方下代兼江

明治二巳六月十七日左之通名替

定吉事

松村芳太郎

同年十一月朔日今般御改革二付役義指免候事

但付送り之義ハ追而御指図相待可申事

同月廿五日今般御改革、更御充行米式拾式俵壹斗八合被下

同年十二月九日会計寮附属申付候事

同月十九日名替

松村事

同三年六月十二日役所不締り之儀有之、役前不参届二付押込、同十七日
謹慎中二候へ共御用之儀ハ可相勤事、同廿二日被指免候
同年十二月十二日会計寮附属指免候事



岡本善九郎 坪川事

一切米八石式人扶持

文化十二亥二月十二日御旗奉行前田彦次郎組江被召抱

文政三辰十一月十九日出役勤被仰付

同日御預所御代官方雇下代被仰付候

同四巳正月廿六日瓦方下代勤江

同五年八月六日御台所方下代勤へ

同六未年二月十四日炭薪方下代勤被仰付

同七申岡本与改性

同八酉年三月晦日御代官方下代勤へ

天保三辰四月五日宮塚甚左衛門下代被仰付

同年閏十一月廿六日御作事方下代被仰付、来巳年江戸詰被仰付候

同五年二月十一日火消道具差配被仰付、并御出先分御出馬之節末々之者

火事装束差配被仰付候

同五年五月晦日御代官本多佐五右衛門下代江、但元席江被入候

天保六未十一月四日中領郡奉行味岡彦太夫肩下代被仰付候

同十二月十四日新兵衛与名替

※ハ末にあり

同七申十二月五日銀式拾匁、右此度郡役所普請出来之処、致心配候趣相聞候二付為御酒代被下置候

同九戌六月廿九日出精相勤候二付、小寄合格二被成下候

同年十二月十六日出精相勤候二付、為御酒代銀式拾匁被下置候

同十一子二月廿日御代官伊黒源五右衛門受込下代へ

同十二丑八月二日殿下領御代官井上茂右衛門受込下代へ組替

同十四卯八月廿九日出精相勤候二付小算格二被成下候、席長谷川文蔵次

弘化二巳八月九日多部三左衛門受込下代へ組替

弘化五申年正月廿四日品ヶ瀬領御代官請込下代江組替

嘉永二酉年七月廿六日三国領御代官請込下代江組替

同三戌年二月廿四日金津領御代官請込下代へ組替

同年十二月十六日格別出精相勤候二付御充行式石御増、都合

一切米拾石式人扶持

如斯被成下候

嘉永四亥年十月十六日当年熟作之趣二付、仕癖之作難等無之様被仰出候

処、当作難帳一同是迄之通振合二取扱候儀者不行届、別而年来御代官方

相勤追々御引立も被成候処、心得違二付請込下代勤被指免、伺之上慎之

処、同廿三日被指免候

同五子正月十九日御広敷書役勘定役兼江

嘉永五子年江戸詰、三月廿一日出立、同六丑四月廿二日帰着

同六丑年正月六日慎姫様御縁組二付懸り同様被仰付候

同七寅年正月廿日御預所郡方受込下代江

同年八月十一日玉葉方下代江

安政三辰三月廿五日依願諸下代株二被成下候

但銀七貫匁上納被仰付候事

同四巳正月十九日山方下代へ

同年十一月廿日御趣意二付役儀被差免、御勘定所勤被仰付候

同五年二月九日元分銅印御講方下代へ

同六未二月廿九日年寄候二付御暇被下、倅諸下代之内へ被召抱候旨被仰

付

同三月八日養父新兵衛右同趣二付、養子熊三郎与申者諸下代之内へ被召

抱、御充行

岡本熊三郎

一切米八石式人扶持

如此被下置、御勝手役仮預り浮下代被仰付候

同年七月五日左之通名替

熊三郎事

岡本清五郎

同年九月十二日追廻方下代へ

同年十月十六日玉葉方下代へ

同七申二月廿日制産方下代江

万延与改元、八月十一日御厩方下代へ

文久元酉三月晦日左之通改姓

岡本事

伊藤清五郎

文久元酉十一月十六日御札所奉行下代へ

文久二戌八月十六日御雜用方下代へ

同年十二月十五日御金方下代へ

伊藤文八郎事

同三亥二月六日御広敷書役江

竹内泰雄

元治元子八月十五日江戸表江立帰御用出立、九月晦日帰

同年十月廿九日出納課雇申付候事

同年十二月賊徒一件二付御留守御用相勤、依之十式匆被下

公布二付訳含有之

慶応元丑六月廿日大奥女中指添二而江戸表へ出立、八月五日帰

林下改姓

同三卯正月十六日出精相勤候二付、小寄合格二被成下候

同月廿一日御武具方下代江

但当春京都詰被仰付、詰中御雜用方下代兼

同年三月十日御上京御供出立詰、然ル処五月十八日病氣二付願之上帰着

早見文太夫

同年六月十六日病氣願之上御暇被下、養子文八郎与申者諸下代之内江被

一切米八石式人扶持

召抱、御充行並之通

寛政七卯三月十六日郡奉行井上孫左衛門組物書令諸下代之内江被召抱、御充行並之通如此被下置

伊藤文八郎

一切米八石式人扶持

如斯被下置、会所預り浮下代被仰付候

同年四月七日中領郡方肩下代被仰付

同年九月五日御製造方下代江

文化三寅六月廿七日同所請込下代被仰付

同四辰五月廿五日御作事方下代江

同四卯春右御用二付飛州高山陣屋江罷越、御用相勤候様被仰付候

明治下改元、十月晦日奥州会津表江出立、巳二月五日遊撃隊宿割帰着

同二巳四月廿日御改革二付役儀被指免、御勝手役仮預り被申付候

同年四月十六日年来出精相勤候二付、小算格二被成下候

同年十一月廿五日今般御改革、更御充行米式拾式俵壹斗八合被下

同十一戌正月廿五日不念之儀有之二付押込被仰付候、同二月五日御免被

同年十二月九日会計寮附属申付候事

成

同三年十二月十二日右附属指免候事

同十二亥六月十二日病氣願之上出役勤被指免、跡諸組之内江割入被仰付

同月十五日持地之内二而三拾式坪坪地被下候事

候

同五申五月

早見勇助

一切米八石式人扶持

同年六月廿一日出役下代勤被仰付、御充行並之通如此被下置、御勝手役
仮預り被仰付候

同年九月朔日御預所御代官山田清兵衛下代被仰付

文政四巳正月廿六日松原次郎左衛門下代被仰付

同七申四月十五日同所請込下代被仰付候

同年八月十一日病身内願二付受込役御免被成、肩下代被仰付

同月十九日出役勤被指免候

早見文次郎

一切米七石式人扶持

右同日養父勇助出役勤被指免、跡御先筒組江被召抱

同年九月五日御充行其儘表御坊主二被召出

同日久意と名替

同八酉年江戸御供詰被仰付

同十亥年迄詰越被仰付候

同十亥正月十五日出精相勤候二付、御充行壱石増

一切米八石式人扶持

都合如此被成下

同十二丑年十一月十四日御書物方定掛り被仰付候

同十三寅年六月三日奥御坊主大嶋栄立跡被仰付

同年十月廿三日来卯年江戸御供詰被仰付候

天保二卯十一月七日来巳年江戸御供詰被仰付

同五年十一月十二日来未年江戸御供詰被仰付候

同六未閏七月十三日御遺骸御国江被為入候二付、御道中御供二而立帰被
仰付候

同七申年二月廿三日来酉年迄詰越被仰付

同八酉年十月十七日来戌年迄詰越被仰付候

同年十月十九日奥御坊主被指免候、同日伺之上押込被仰付候

同月十九日押込被仰付置候処被指免候、且又御国表へ御返被成候

同九戌三月十一日奥御坊主勤中不正之趣相聞候二付立替

早見祐甫

一切米八石式人扶持

天保九戌四月廿五日養父久意儀先達而立替被仰付候、跡養子角平与申者

表御坊主江被召出、御充行如此被下置候

同日角平事祐甫と名替

同十亥二月朔日御右筆部屋御坊主定助被仰付

一切米八石三人扶持

天保十一子十一月廿日御右筆部屋御坊主次田文悦跡被仰付、御扶持方壱

人扶持御増、都合如是被成下

同十二月廿一日来丑年江戸詰被仰付

同十三寅十二月廿二日来々辰年迄詰越被仰付

同十四卯五月廿九日、当八月中旬頃公方様御成之節、神田橋御住居江御

立寄可被遊との御沙汰之旨御内意被仰出候二付、御用掛被仰付候

同十五辰十一月三日来巳年江戸詰被仰付候

弘化三年十月十五日来未年江戸御供詰被仰付候

同十二月廿八日御番割御軍帳中御用掛相勤候二付、銀拾匁被下置候
弘化四未年十二月廿日出精相勤候二付、一統格二被成下候

嘉永元申年十二月七日当夏田安一位様御容躰二付急御出府被遊候節、御
往来共御供相勤太儀二候段御褒メ被下

同十二月十一日御帳付見習被仰付、御充行式石御増、都合
一切米拾石三人扶持

如斯被成下
同日左之通名替

祐甫事

早見治左衛門

嘉永元申年十二月廿一日当夏急御出府被遊候二付、右取調を始御用多相
勤候二付銀拾五匁被下置候

同二酉年十二月十五日今般御前様御引移御婚姻前後無御滞被為濟御満足
思召候、右御用掛り出精二付金貳百疋被下置候

同三戌年四月十六日出精相勤候二付御帳付本役被仰付、御充行式石御増、
都合

一切米拾式石三人扶持

如斯被成下、役中御足充行三石被下置候

嘉永五子十二月廿八日御番割御軍帳中掛り被仰付候二付、銀拾匁被下置
候

安政二卯三月十四日御軍制御改正御用掛り相勤候二付、銀七匁被下置候
同三辰八月五日出精相勤候二付、御充行三石御増

一切米拾五石三人扶持
如是被下置候

文久三亥二月三日今般殿様御上京被遊候二付御用有之上京
同四子正月十六日出精相勤候二付、小役人格二被成下候

元治与改元、
長征、二月朔日帰
慶応二寅六月廿五日宰相様御登坂御供出立、十月六日帰

同三卯四月十二日宰相様御上京御供出立、八月九日帰
同年十二月廿八日左之通名替

治左衛門事
早見伊左衛門

明治元辰十月廿二日御趣意二付御帳付被指免

但席其儘

同月廿三日公務局書役下受込被仰付、後行事書役卜改
同二巳二月廿六日月給四俵

同年三月七日掌政局筆者被仰付
但掌政局書記支配之事

同年六月十七日名替

伊左衛門事
早見覺哉

同年十一月廿日御家從附属申付候事

但筆者日勤之事
一月給是迄之通

同月廿五日今般御改革、更御充行米三拾五俵四斗五升
同三午三月九日御家從被仰付候事

但書記役 未四月五日年給式俵壹斗八升式合四勺 十四級也
同年十一月廿八日居住罷在候持地之内二而九十六坪坪地被下候、未六月

廿日御取消

同四未二月十六日御東京御供出立、五月廿三日御供二而帰

同年十月廿日御家従被免候事



※ハ末にあり

早見門節

一切米八石式人扶持

天明四辰五月廿九日早見兵右衛門甥被召出、御充行並之通知此被下置、

表御坊主被仰付候

同五巳年江戸御供詰被仰付候

寛政二戌年御留守詰被仰付候

同五丑年三月不寝役被仰付、江戸御供詰被仰付候

同七卯年同断

同十年江戸詰被仰付候

同十二申年御時計役被仰付

享和元酉年江戸御供詰

同三亥年右同断

文化二丑年右同断

同三寅年七月奥御坊主被仰付

同四卯年御茶方被仰付候

同年御供詰

同六巳年右同断

同八未年右同断

同十四酉年同断

同十四丑年右同断

文政二卯年右同断

同四巳右同断

同六未年正月晦日病氣二付仍願退役被仰付、奥御坊主格二被仰付候

早見文節

一切米八石式人扶持

同年五月十四日親門節義病氣願之上御暇被下、表御坊主二被召出、御充

行並之通知此被下置

同年十月江戸詰被仰付

同七申年六月小坊主被仰付候

同十一子年江戸御供詰

同年四月廿四日表御坊主被仰付

同十二丑三月廿五日今般火之御番御免被成候二付、詰帰被仰付候

同十三寅閏三月十三日奥御坊主被仰付候

同四月五日謙五郎様御附御坊主当時助役被仰付

同年十月廿三日来卯年江戸御供詰被仰付候

天保三辰年十一月七日来巳年江戸御供詰被仰付候

同五年十一月十二日来未年江戸御供詰被仰付候

同六未年閏七月十二日御遺骸御国江被為入候二付、御道中御供二而立帰

被仰付候

同七申年来々戌年迄詰越被仰付候

同九戌年御入部被遊候二付、御道中御供御召料方手伝兼被仰付候

同九戌八月廿五日支度出来次第江戸詰被仰付

同十亥三月廿八日御滞府中詰越被仰付

同十三寅六月廿日小算格二御取立、御充行式石御増、都合拾石式人扶持

二被成下、奥御納戸御召料方手伝栗本与右衛門跡被仰付、文八郎与改名

同十五辰十二月四日来巳年江戸詰被仰付候

弘化二巳二月六日御道中御腰物方下代飯兼被仰付候

同四月十三日詰中御腰物方下代兼被仰付

同三年十二月十六日出精相勤候二付跡目小算被成下候、但席牧田林右衛

門次

嘉永二酉年十二月廿八日左之通名替

文八郎事

早見門左衛門

同三戌年正月十五日出精相勤候二付一統格二被成下候、但江戸二而

同年十月十一日御小道具方手伝大嶋長右衛門跡被仰付候

同四亥三月十七日御道具引纏二而出立

同年十一月廿二日於江戸表出精相勤候二付、江戸詰中御扶持方壱人扶持

御増、都合拾石三人扶持被成下候

同五子年四月廿五日此度小算之者共以前へ被復壱人扶持御増、都合

一切米拾石三人扶持

早見門左衛門

如是被下置候

安政元寅十二月十六日出精相勤候二付、小役人格被成下候

同二卯三月十三日江戸詰出立

同六未正月十五日出精相勤候二付御充行式石御増、都合

一切米拾石三人扶持

如此被成下

江戸出立事

安政七申三月九日帰着

文久二戌正月十六日出精相勤候二付、御足充行三石被下置候

同三亥八月六日江戸表江出立

同年十二月廿日江戸御上京御供

同四子二月十四日京都分歸

慶応元丑四月十一日親門左衛門及大病御奉公難相勤候二付立替相願、其

後令病死候二付、跡目小算へ被仰付、御充行

早見三吉

一切米拾石三人扶持

如此被下置候

同三卯三月十六日御趣意二付小十人組二被仰付

同年十月十八日御趣意二付席其儘小筒組後拒役被仰付、同廿三日上京、

辰三月 婦

同四辰六月廿五日会征出立、十一月廿一日帰

明治二巳二月十一日病氣及大病御暇相願、其後令病死候二付、養子政八

郎与申者小算被仰付、御充行

早見政次郎 実柴田藤七次男也

一切米拾石三人扶持

如此被下置、御趣意二付小十人組江被入、鳴物方被仰付

無息中

一文久三亥四月十一日太鼓役御雇被仰付、銀貳百廿七匁五分ツ、年々被下候

政次郎事

早見小太郎

一元治元子十一月十四日御趣意ニ付太鼓役御免被成候

同四未十月十三日解隊

一慶応二寅四月廿四日堺町戦争一件ニ付、公儀被下配当金七百疋被下置候

同年十一月三日給禄讓渡

一同年五月廿日太鼓役被仰付

早見元吉郎 久保村元吉郎 久保村文造倅也

一同三卯正月廿五日鳴物方御雇被仰付、御雇勤中年々銀壹貫匁ツ、被下置候、但是迄太鼓役ニ付被下候銀已後不被下候

一米貳拾九俵五升六合
同五申公布之趣ニ付早見与改

一同年三月十六日右壹貫匁ツ、被下置候処、迷惑之趣ニ付月々百五拾匁ツ、被下置候

一同年七月十日御警衛詰上京、十一月八日帰

一同四辰閏四月七日上京、九月十八日帰

一同月十一日鳴物方勤中一人半扶持被下置候

但是迄被下候銀之義ハ已後不被下候

一明治卜改元、十二月五日在京中御供困窮相勤候ニ付、金三百疋被下置候

明治二巳四月九日中納言様御供東京江出立、六月十二日御人減ニ付帰

同年五月十六日年給壹俵半被下

同年十一月廿五日今般御改革、更御充行米貳拾九俵五升六合

同三年六月十日樂手申付候事

但年給貳俵

同年十二月十五日二等樂手申付候事

但年給貳俵

同月十八日名替

早瀬

藤井藤左衛門

一切米八石式人扶持

天保十三寅七月十二日諸下代之内江被召抱、御充行並之通知此被下置、

鳴崎伝太夫仮預り河野口銭方下代被仰付候

同十四卯八月晦日御台所方下代へ

同十五辰十二月七日来巳年江戸御供詰被仰付候

弘化三年十月廿八日粟田部領御代官肩下代被仰付候

同十二月廿一日幸左衛門与名替

嘉永二酉年七月廿六日芝原領御代官肩下代江組替

同四亥七月廿一日三国領御代官肩下代へ組替

同七寅閏七月十二日南居領御代官肩下代江組替

安政四巳正月廿五日御厩方下代へ

同年七月四日病身ニ付願之通御暇被下、養子安吉与申者諸下代之内へ被

召抱、御充行並之通

之内へ被召抱、御充行

藤井安吉

若山吉十郎

一切米八石式人扶持

一切米八石式人扶持

如此被下置、西村源左衛門飯預り浮下代被仰付候
万延元申九月廿二日左之通名替

如此被下置、高嶋孫兵衛飯預り浮下代被仰付候
同年十月十二日御製造方下代江

安吉事

同三卯二月廿五日左之通名替

藤井為三郎

吉十郎事

同年十二月四日御切米御扶持方下代兼へ

若山佐兵衛

文久二戌十二月六日御材木方炭薪方下代兼へ

同三亥七月十七日彈薬方下代へ

元治元子四月十三日役頭江対シ心得違之趣有之二付、御奉行存を以押込、

同十九日指免候

同年七月朔日上京、丑五月九日帰

慶応元丑十月十六日左之通名替

藤井為三郎事

若山政次郎

一切米八石式人扶持

如此被下置、会所飯預り浮下代被仰付

同四辰正月九日上京、巳九月十六日帰

同年二月十八日御作事方下代江、直二当春京都詰被仰付

同年四月二日左之通名替

若山事

同年十一月六日病身二付願之通御暇被下、養子磯次郎与申者諸下代之内
江被召抱、御充行並之通

早瀬政次郎

若山磯次郎

一切米八石式人扶持

如此被下置、高嶋孫兵衛飯預り浮下代被仰付候

慶応二寅二月廿七日病身二付願之上御暇被下、養子吉十郎与申者諸下代

同日造営方算筆者兼申付候事

同月廿五日今般御改革、更御充行米式拾式俵壹斗八合

明治二巳九月廿七日御雜用方諸古物方兼出役申付候事

同年十一月朔日今般御改革二付役儀指免候事

同三年十二月十二日會計寮勤 治水方筆者算者兼

但准十六等 未正月ノ九俵

同四未六月朔日御改正二付免職

同年八月十九日土木方雇差免候事

同日県庁附属申付候事 但土木方 等外ノ二級

同年十二月廿四日福井県庁附属 等外ノ四級

同五申五月名替

政次郎事

早瀬正二

服部¹

服部喜左衛門

一切米八石式人扶持

天明二寅八月十二日古物方水野弥八郎下代被召抱

同八申八月十二日御雜用方下代入替被仰付

寛政七卯五月六日御代官方下代被仰付

同十二申閏四月廿八日御勘定奉行岡部市右衛門下代追廻方被仰付

享和元酉七月廿二日喜左衛門与名替

文化三寅十月十六日家内不締之趣有之ニ付押込被仰付、同十一月五日押

込御免被成、当時同所中山藤右衛門下代勤へ

文政二卯正月十六日年来実躰相勤候ニ付、小寄合格被成下候

同三辰八月九日病氣ニ付願之上出役勤御免被成

服部半右衛門

一切米八石式人扶持

文政三辰八月十三日出役下代勤被仰付、御武具方下代江

同八酉二月十六日御預所御代官下代勤へ

文政十亥十一月五日御代官河村三太夫下代勤へ

天保七申年三月廿四日御代官安川弥三右衛門肩下代江

同九戌八月二日金津領御代官多部三左衛門下代江

同十一子二月廿日御代官田川清介請込下代被仰付候

同十五辰十二月十六日出精相勤候ニ付小寄合格ニ被成下候、席吉村安右

衛門次

弘化二巳八月九日坂本平兵衛受込下代へ組替

嘉永二酉年七月廿六日山岸領御代官方請込下代へ組替

同三戌年十二月十六日出精相勤候ニ付、小算格ニ被成下候

安政四巳正月十六日出精相勤候ニ付、米三俵ツ、年々被下置候

同年同月廿五日御趣意ニ付御勘定所勤へ

同年五月廿六日山方下代江

同年十一月廿日御趣意ニ付役儀被差免、御勘定所勤被仰付候

同五年二月九日御札所御趣向方下代へ

同年十月十八日御趣意銀御貸方下代江

万延元申六月廿一日年寄候ニ付御暇被下、養子平次郎与申者諸下代之内

へ被召抱、御充行並之通

服部平次郎

一切米八石式人扶持

如此被下置、御金方下代被仰付候
文久元酉六月廿日御腰物方下代へ

同三亥二月七日今般御上京被遊候二付上京

同年八月廿二日御台所方下代江

元治元子二月廿一日京都へ歸

同年十月十四日彈藥方下代兼被仰付、早速出坂候様、夫々征長、丑二月廿日歸

慶応二寅三月廿三日上京、卯四月十六日歸

同三卯正月十六日出精相勤候二付、小寄合格二被成下候

同四辰二月五日御広敷書役江

同年八月十一日京都詰被仰付、詰中添役勤向之義も相心得候様被仰付、九月十一日出立、巳三月十六日歸

明治二巳十一月廿五日今般御改革、更御充行米式拾貳俵壹斗八合被下

同三年正月十三日今般御改革二付役儀指免候事

但軍務寮支配之事

同日御家從附屬申付候事

但御裏勘定役勤

同年十月廿八日御家從附屬指免候事、但御趣意也

同日是迄太儀二付為御酒代金五百疋被下置候

閏十月九日御使番町御堀内拜地願之通

同年十一月晦日民政寮大橋下見張番へ

同年十二月三日総会所使部筆頭

同月 小宮山伝前辺地所卜振替願之通

同四未二月廿九日元寮泊番江

服部²

服部加多右衛門

一切米八石式人扶持

文政六未二月廿一日出役勤被仰付、大谷八十郎仮預り浮下代勤被仰付候

同七月廿三日古物方下代勤へ

同七申二月廿二日御金方下代勤へ

同年六月江戸詰

同八酉七月二日御住居御広敷書役江、但當分江戸詰越

文政十一子二月五日出精相勤候二付小算格被成下、但席戸川勘左衛門次、来丑年迄詰越被仰付

同十二丑三月廿九日御趣意方下代勤へ

天保三辰三月六日御勘定所御普請二付格別心配出精之義有之候間、御褒被成下候

同年六月廿四日山方下代勤へ

天保四巳年十月五日御趣意方下代被仰付

同四巳十月十一日於御趣意方大橋御備金、兼而心配を以御修覆御用無御滞相濟候二付、為御酒代銀七匁五分被下置候

同八酉七月廿五日出領郡方受込下代被仰付候

天保九戌十二月十六日出精相勤候二付、為御酒代銀三拾匁被下置

同十亥十二月十一日出精相勤候二付、米三俵ツ、年々被下置候

同十一子二月廿日上領郡方受込下代江組替被仰付

同十二丑十一月廿九日御広敷書役勘定役兼被仰付候

同十三寅三月十六日支度出来次第江戸詰被仰付

同十四卯正月廿八日当分御勘定所月勘定方仮兼帯被仰付候

同三月十六日当夏御入国二付大奥女中道中引纏被仰付候

同四月十六日出精相勤候二付御充行式石御増、都合

一切米拾石式人扶持

如斯被成下候、但是迄被下置候米三俵ハ以後不被下候

弘化二巳二月二日山方下代江

同四未四月五日下午領郡方請込下代江

嘉永元年申年六月十六日産物方掛り江被仰付、訳合有之諸下代株ニ被成下

候

嘉永元年申年十一月十一日出精相勤候二付、小算ニ被成下候

服部謙介

一切米八石式人扶持

同年十一月十八日親嘉多右衛門病氣願之上御暇被下、諸下代之内江被召

抱、御充行如此被下置、御勝手役仮預り浮下代被仰付

同年十二月十七日当分表御坊主御雇被仰付候

嘉永四亥二月四日初蔵下代江

同六丑十月廿九日御代官下代方古手形紛込一旦受取候趣、不念ニ付急

度叱り、伺之上押込、十一月朔日被指免

同七寅二月晦日御雜用方下代江

同年三月廿九日御時節柄心得違之趣有之二付御奉行共存を以押込、四月

二日指免候旨

安政二卯四月廿六日山岸領御代官肩下代江

同三辰三月五日御作事方下代へ

同四巳年江戸詰被仰付、同五午三月廿七日帰着

同六未四月十日南居山干飯領御代官方下代へ

同年八月五日今庄広瀬領江組替

文久三亥七月十七日制産方下代江

元治元子十二月賊徒一件出張、御手当三拾五匁被下

元治二丑正月十六日出精相勤候二付、役席小寄合格ニ被成下候

慶応と改元、五月十一日御上京被仰出候二付、御台所下代兼御供被仰付

候、但御上京御延引

同年九月廿八日出坂十月廿三日帰

慶応元丑十一月廿日大坂表江出立、同三卯正月五日帰

同二寅十二月十六日出精相勤候二付、小寄合格順席ニ被成下候

同三卯四月廿五日製造方御用ニ而上京、五月廿日帰

同四辰三月十六日会所下代江

同年閏四月八日神戸表江出立、夫今京江罷越候処七月十一日帰

明治ト改元、十月廿一日奥州表へ出張、朝倉謹爾与致交代候様被仰付、

十一月朔日出立、但十二月九日庶務方試補之心得を以相勤候様被仰付候

同二巳正月十六日出精相勤候二付、小算格ニ被成下候

同年八月四日此度御徒目付久保村文四郎若松出立之処、出立当日横死ニ

付、檢使立合等相勤候二付東京江相廻、右始末并檢使書付持参ニ而帰着

同年八月廿一日惣会所勘定方手伝

但月給米三俵

同年十一月廿二日民政局筆者申付候事

但惣会所勤

同月廿五日今般御改革、更御充行米式拾式俵壹斗八合
同三年十二月十二日民政寮勤 総会所勤

但十六等ノ二等

同四未五月七日神奈川県江出仕申付候事

同五申正月十八日東京府少属



羽生忠三郎

一切米七石式人扶持

文化四卯年御札所御用使被召抱

文化十四丑十一月廿六日御札所御用使ハ札見下代帰山保吉跡被仰付

文政五年十二月廿三日御留守物頭渋谷五郎右衛門組江増割入被仰付

同六未七月廿五日御札所御貸方下代被仰付

同八酉三月十一日切米壹石増、都合

一切米八石式人扶持

如斯被成下候

文政十一子正月十六日出精相勤候二付、小寄合格被成下

同十三寅二月廿八日伊藤安右衛門下代江

同年十月十四日御台所御膳所向御儉約掛り被仰付候

同十三寅年十二月廿八日椀奉行仮役被仰付候

天保二卯三月十七日御台所向御省略格別出精相勤候段達御聴

同三辰八月廿五日御札所奉行下代江

同四巳十月五日御札所御貸方下代被仰付

同八酉十二月五日出精相勤候二付、小算格被成下候

同十亥六月廿日御勘定所勤被仰付

同年十二月廿八日忠左衛門与名替

同十一子八月廿六日御預所御金方下代江

同十三寅二月廿九日御札所御貸方下代増二被仰付候

同四月廿一日御札所御趣向方下代江

同十四卯八月廿日御勘定所勤被仰付候

弘化四未十月十二日追廻方下代被仰付、但当分裏判方助へ

嘉永元申年九月廿九日倅石太郎義先年御徒林茂平養子被差越、先達而離

縁二相成候処、茂平方二罷在候節不埒之趣相聞候二付蟄居、忠左衛門義

も異見等不参届心得違之趣相聞候二付、小寄合格江被下ケ押込、十月十

八日押込被差免

同二酉年六月十二日御預所御代官肩下代へ

同三戌年三月五日倅石太郎義一昨年蟄居被仰付候処、此度御婚姻之赦二

付於家内一家対面御免被成候

同年三月五日御預所去酉御年貢之内大坂御廻米為御用出坂被仰付、今五

日出立、同八月十九日罷帰ル

安政三辰二月十七日年寄候二付御暇被下、養子源蔵与申者諸下代之内江

被召抱、御充行並之通

羽生源蔵

一切米八石式人扶持

如此被下置、西村源左衛門仮預り浮下代被仰付候

同六未九月十二日古物方下代へ

万延元申八月十一日御蔵所下代へ

文久元酉六月廿日御材木方炭薪方下代兼へ

同年十月四日病氣二付内願之趣も有之、野村治右衛門仮預り浮下代へ

同二戊四月廿一日病氣願之上御暇被下、養子直作与申者諸下代之内へ被

召抱、御充行並之通

同三年三月廿日御厩向以来学校附属ニ被仰出候ニ付、役義指免候事

同月廿四日歩兵修行指出候

同四年正月廿四日会計寮使部申付候事

同年三月十二日下馬御門番江

羽生直作

一切米八石式人扶持

如此被下置、野村治右衛門仮預り浮下代被仰付候

同年閏八月廿三日御切米御扶持方下代兼江

同三亥四月七日綿麻方下代江

同年七月四日役儀被指免、野村治右衛門仮預り浮下代へ

元治元子二月十一日彈薬方下代江

同年五月七日左之通名替

直作事

羽生信一郎

同年十月 長征出陣、丑二月帰

慶応二寅八月十三日御厩方下代江

慶応二寅十一月廿五日御武具下代勤中御改正出精相勤候ニ付、銀貳拾匁

被下置候

同三卯三月 左之通名替

信一郎事

羽生忠三郎

明治二己十一月廿五日今般御改革ニ付、御充行米貳拾貳俵壹斗八合

花木

林喜左衛門

一切米八石式人扶持

寛政三亥六月廿日御札所御貸方雇下代被仰付

同十一未年四月晦日親病氣願之上立替被仰付、跡御札所奉行下代親跡へ

被召抱

文化十酉正月廿日年来出精相勤候ニ付小寄合格被成下、当時其儘

文政七申九月十八日病氣願之上出役下代勤被差免

林文十郎

一切米八石式人扶持

同年九月廿二日出役被仰付、御札所下代勤被仰付、御充行並之通如斯被

下置

同十三寅年閏三月廿日不宜趣相聞候ニ付押込、同四月五日押込被差免候

同十二月廿一日喜左衛門と名替

天保四己九月廿日病身ニ付浮下代嶋崎伝太夫仮預り被仰付候

同十一月四日病氣願之上御暇被下

林清次郎

一切米八石式人扶持

右同日養父喜左衛門跡下代之内へ被召抱、御充行並之通如斯被下置、嶋崎伝太夫仮預浮下代被仰付

同五年五月九日御城表火之番不寝役勤被仰付、勤中御勝手役仮預り被仰付候

同六年十月廿九日先達而御本丸当番之節心得違之趣相聞候ニ付押込、同十一月十一日押込御免

同八酉四月十四日御藏奉行嶋田九郎左衛門下代へ

同十二月十九日三浦と改姓

三浦清次郎

天保十亥三月十二日古物方下代へ

同十一子十二月廿六日友右衛門と名替

同十二丑二月四日友左衛門と名替

同五月廿一日御雜用方下代へ

同十四卯閏九月廿五日御材木方下代炭薪方下代兼へ

三浦他之助

一切米八石式人扶持

天保十五辰九月十一日養父友左衛門病氣願之上御暇被下、養子他之助与

申者諸下代之内へ被召抱、御充行如斯被下置、中野文左衛門仮預り浮下代被仰付候

同十一月五日炭薪方下代御材木方兼江

弘化二巳六月六日御材木方炭薪方下代兼へ組替

同九月三日改姓

林他之助

林栄九郎

一切米八石式人扶持

弘化三年十二月十九日養父他之助病身ニ付願之上御暇被下、養子栄九郎与申者諸下代之内へ被召抱、御充行如斯被下置、中野文左衛門仮預り浮下代被仰付候

同四年七月五日養父他之助不埒至極之趣相聞候ニ付急度可被仰付処、致他国候趣ニ付御城下江立入被差留候

同十月十七日古物方下代被仰付候

嘉永元年九月十五日左之通改姓

林事

小牧栄九郎

同二酉年閏四月十二日御金方下代江

同年五月十四日御金奉行榊原孫兵衛下代江組替

同三戌十二月十七日左之通名替

栄九郎事

小牧五郎兵衛

嘉永四亥年江戸詰

同年十月九日不参届趣相聞候ニ付浮下代江被下押込之処、同廿九日被指免、十一月十八日到着、同十九日勝田与右衛門仮預り被仰付候

同五子年閏二月十二日追廻方下代へ

同年八月廿五日御台所下代へ

同六丑二月廿五日芝原領御代官方下代へ

同年五月十一日不慎之儀ニ付移り之上御奉行存を以押込、同十三日指免

同年八月五日左之通名替

五郎兵衛門事

小牧栄左衛門

同七寅二月晦日殿下領御代官肩下代へ組替

安政三辰十二月十六日御札所奉行下代へ

安政四巳六月廿九日御奉行勝木十蔵書役へ

同晦日月番御奉行仮預り、当時御預所仕出場書役仮江

同年九月五日病身願之上御暇被下、養子虎吉与申者諸下代之内へ被召抱、

御充行

小牧虎吉

一切米八石式人扶持

如此被下置、西村源左衛門仮預り浮下代被仰付候

万延元申四月五日御切米方御扶持方下代兼へ

同年十一月五日御材木方炭薪方下代兼へ

文久元西六月廿日御納戸方下代へ

同二戌十二月朔日病氣ニ付願之通御暇被下、養子喜五郎与申者諸下代之

内江被召抱、御充行並之通

小牧喜五郎

一切米八石式人扶持

如此被下置、野村治右衛門仮預り浮下代被仰付候

文久三亥七月十七日御切米御扶持方下代へ

元治二丑正月廿六日左之通改姓

小牧事

花木喜五郎

慶応元丑十一月廿一日御雜用方下代へ

同年十二月廿七日御切米方勤中不正之手形相廻、恐入窺之上慎、元日否

被指免

同三卯四月五日御蔵所下代江

同年十月晦日御雜用方下代江、但元席江

同四辰四月七日上京詰越、巳三月朔日東京江出立

明治二巳五月十一日名替

喜五郎事

花木秀介

同九月晦日歸藩申付、十一月二日歸

同年十一月朔日今般御改革ニ付役儀指免候事

同月廿六日楮幣局附属申付候事

同月 今般御改革ニ付、更ニ御充行米式拾式俵壹斗八合

同三年八月廿四日錢札出来中并百匁札吟味中格別困窮相勤ニ付、金五百

疋被下候事

同年九月十日民政寮附属更ニ申付候事

但惣会所勤

同年十二月十二日民政寮勤 貨幣局算者

但准十六等 未正月九俵

同四未六月朔日御改正ニ付免職

花木

同年十二月名替

同五申五月同断

秀介事

花木貞タビシ

貞事

花木依マサヨリ

四 新番格以下 二



庭瀬五左衛門 御犬引頭

一 寛保二戌七月廿四日御犬引被相止候二付、西村常右衛門仮支配被仰付
 延享四卯三月六日最前之通御犬引被仰付、御鷹方江相渡候

庭瀬多七

一 宝曆十一巳正月四日親病氣願之上倅多七江御立替被下、御犬引頭被仰付候
 同正月廿六日病氣願之上家業筋目之者養子仕候様被仰付候二付、杉浦幸
 右衛門組金剛第藏与申者養子被仰付、御立替被下

庭瀬五左衛門 第藏事

一 如此名替
 同十二年正月廿八日五左衛門事金剛左衛門与名替
 明和二酉正月廿五日金剛左衛門事伝兵衛与名替
 同年六月五日病氣願之上養子御小人二被仰付

庭瀬順喜

一 三人扶持
 同六丑年十一月五日是迄御小人二候処、御扶持方如此被下置、表御坊主

二被召出

安永二巳正月廿五日喜斎与名替
 同五申正月廿六日御勘定所坊主仮被仰付候

庭瀬左伝

一 三人扶持
 同七戌年閏七月十一日養父喜斎病氣願之上立替被仰付、是迄之通如此被
 下置、表御坊主見習被仰付
 同年十月九日御充行並之通
 一切米八石式人扶持
 如此被成下、来亥年江戸御供詰被仰付候
 同九子正月十六日御小姓部屋被仰付、来丑春迄詰越被仰付候
 天明三卯年江戸御供詰
 同四辰五月廿九日不寝役被仰付
 同五巳年江戸御供詰被仰付候
 同七未正月十六日奥御坊主被仰付、当春江戸詰被仰付候
 同二月四日当春江戸詰被仰付置候処、御免被成候
 同八申十二月廿七日左伝事松益与名替
 寛政元酉年江戸御供詰被仰付
 同三亥年江戸御供詰
 同五丑年正月廿六日当春江戸御供詰被仰付候
 同七卯年同断
 同九巳年同断
 同十一未年十一月十七日中将様御附奥御坊主被仰付

享和元酉年江戸御供詰被仰付候

同年八月御附奥御坊主勤中奥之番役所向御用手伝相勤候処、心得違之儀有之二付急度押込被仰付候

同三亥八月廿五日御茶方五十嵐万齋跡被仰付候

文化四卯年江戸御供詰被仰付

同五辰年江戸表二而病氣願之上御暇被下

庭瀬玄泉

一切米八石式人扶持

同年正月二日親松益病氣二付願之上御暇被下、俸八藏表御坊主江被召出、御充行並之通如此被下置

同日玄泉と名替

同六巳年江戸詰

同十四年江戸御供詰被仰付罷越候処詰延二相成、失却多難洪之趣二付、格別之為御手当銀貳拾貳匁被下置候

同十二亥年江戸詰

文政二卯二月十七日奥御坊主豊田門入跡被仰付、江戸御供詰

同年九月廿二日御表様奥御坊主被仰付候

同四巳年江戸御供詰

同六未同断

同八酉年同断

同九戌三月二日威徳院様奥御坊主と奥御坊主江

同年四月十八日来亥年迄詰越被仰付候

同十二丑二月十四日当丑年江戸詰被仰付候

同十三寅十月廿三日来卯年江戸御供詰被仰付候

庭瀬万齋

一切米八石式人扶持

天保二卯五月十二日親玄泉病氣願之上御暇被下、表御坊主被召出、御充行並之通如此被下置

同五月廿二日万齋と名替

天保十一子三月廿五日御右筆部屋御坊主江戸交代中不時助被仰付候

同年五月廿三日御右筆部屋不時助被指免候

同十二丑閏正月廿九日御右筆部屋御坊主定助被仰付

同十三寅八月廿九日不寝役御坊主被仰付、但席吉村友齋次

同十四卯閏九月廿九日来辰年江戸御供詰被仰付

同十五辰十一月三日来巳年江戸御供詰被仰付候

嘉永元申年十二月廿八日左之通名替

万齋事

庭瀬盛悦

此間二奥御坊主と相成、江戸詰不罷越候処留落

安政二卯年御供詰

同年十二月左之通名替

盛悦事

清悦

安政四巳正月廿六日御茶方御坊主へ

同五年正月十六日出精相勤候二付、一統格二被成下候

同年江戸詰被仰付、五月十二日出立

同六未年詰越

同七申三月十五日御供二而帰着

同年閏三月廿日御道具役被仰付、御充行壺石御増

一切米九石式人扶持

如是被成下候

文久元酉八月廿九日御召料方手伝被仰付、御充行壺石老人扶持御増、都

合

一切米拾石三人扶持

如此被下置候

同日左之通名替

慶応四辰二月廿日病氣二付御奉公難相勤、依之倅孝一郎与申者江立替相願、其後令病死候二付、跡目小算二被仰付、御充行

庭瀬孝一郎

一切米拾石三人扶持

如此被下置、喇叭役被仰付候

無息中

一安政七申二月廿日表御坊主二被召出、三人ふち被下置候

一万延与改元、十月三日小坊主江

一文久三亥八月五日表御坊主江

一同年十月十三日中将様御供二而上京

一同四子正月十九日御時計役本役同様被仰付

一元治下改元、二月廿二日公用方御坊主江

一同年四月廿三日御供二而帰着

一同年五月廿日着服心得違之儀有之伺之上慎、同廿二日被指免

一同年九月廿三日不寝役被仰付

一元治元子十二月賊徒一件二付出張、御手当五拾匁被下置候

一慶応二寅年六月廿五日宰相様御登坂御供出立、十月六日帰

一同三卯三月十六日御趣意二付被召出之義ハ被相止候へ共、御憐愍を以御

雇被仰付、式人ふち可被下置候、奥御坊主相勤居候二付勤中是迄之通三

人ふち被下置候

但席其儘

一同年四月八日内達之趣も有之二付、御附奥御坊主御雇被指免

一同年五月九日鳴物方被仰付、勤中老人半扶持被下置候、孝悦事孝一郎卜

文久二戌十二月廿八日左之通名替

清悦事

庭瀬清一郎

清一郎事

庭瀬佐太夫

同三亥八月五日江戸表江出立

同年十二月十八日江戸へ御上京御用二付上京

同四子二月十四日京都へ帰

慶応元丑四月廿五日出精相勤候二付、小役人格二被成下候

同二寅正月廿日左之通名替

佐太夫事

庭瀬儀兵衛

同年二月廿九日御小道具方手伝兼被仰付

同三卯三月八日上京、四月四日帰、但御上京二付

改

一 同年十一月五日喇叭役被仰付

ノ

慶応四辰四月五日喇叭役其儘小十人組江被入、軍事目付支配ニ被仰付候、
但席河合政太郎次

同年六月廿五日会征出立、十一月十五日帰、巳二月廿二日出張ニ付十兩
被下

同二巳五月十六日年給壹俵半被下

同年八月廿六日第二等楽手ニ被仰付、但軍政ノ伺也

但年給貳俵被下候事

同年十一月廿五日今般御改革、更御充行米貳拾九俵五升六合被下

同三年正月廿七日楽隊世話役被仰付候事

同年二月七日楽手教導手伝兼被仰付候事

但中級

同年四月廿五日戊辰北越出張軍事精勵ニ付、御賞典之内金五兩被下候事

同年六月十日楽手長教導試補兼申付候事

但中級

一 軍務寮支配之事

同年八月五日今朝調練之節楽手不参御役義不参届、慎伺之上指扣、同十

二日指免

同年十二月十七日喇叭為修業鯖江藩江被遣候事

但正月十日ノ罷越

同月十五日楽手伍長申付候事 但年給八俵

同月 三ツ橋地方ニ而根津市郎抱地之内、相对ヲ以分地讓受度願之通

同四未十月十三日解隊被仰出候ニ付免職

同廿九日喇叭伍長

同年十二月廿八日県下常備隊付

同五申正月十九日兵部省ノ御達之旨も有之ニ付解隊

西沢

西沢丈太夫

一切米八石式人扶持

天明七未七月四日親次左衛門病氣願之上立替被仰付、跡御代官方下代被

召抱

寛政五丑八月廿一日同所古石百右衛門下代ノ吉倉茂右衛門下代入替

同十年十一月十四日同所受込役被仰付

文化五辰三月廿二日三上孫右衛門請込下代入替被仰付

同八未正月十七日御預所御代官竹内伝藏受込下代入替被仰付

同九申三月五日年来出精相勤候ニ付小寄合格被成下、当時山田清兵衛受

込下代勤

文政元寅八月廿九日坂本平左衛門受込下代勤へ

同七申十二月十六日年来出精相勤候ニ付、小算格ニ被成下候

同八酉二月十二日年寄候ニ付役勤御免、年来出精相勤候ニ付御目録銀

拾匁被下置候

西沢丈右衛門

一切米八石式人扶持

文政八酉二月十二日書役下代勤被仰付、御充行並之通如此被下置、御勝手役仮預り被仰付

同十六日御切米方下代勤へ

同九戌三月十六日仕出場書役下代勤被仰付、月番仮預り当時小宮山伝七

書役下代勤仮被仰付

同年七月九日表御奉行書役下代勤へ

同十一子十一月十七日今立五郎太夫書役下代勤被仰付

同十二丑江戸詰被仰付

同十二丑六月廿一日御勝手向御難洪御指支二付、格別之御省略被仰出候、

依之御用掛り被仰付候

同十三寅二月十二日若殿様御宮參御用掛り被仰付候

同年四月六日御帰国御道中御台所方仮下代被仰付候

同月十日右仮下代被指免、御厩方仮下代被仰付候

同五月廿二日萩原長兵衛書役下代へ

天保二卯十二月十六日大井長十郎書役下代へ

同三辰十一月廿九日同人極方下代へ

同四巳年九月十六日今立五郎太夫極方下代へ

十月十七日市村久太郎極方へ組替之上来午詰被仰付候

同六未閏七月殿様御容躰二付御用懸り被仰付

天保七申十月廿日小算二被召出、御充行並之通、都合

一切米拾石式人扶持

如此被下置候

同八酉九月十六日此度江戸御上屋敷御焼失二付増詰、支度出来次第出立被仰付候

同九戌三月廿四日御拝領被遊候御屋形建方掛り被仰付候
同年八月三日來亥年迄詰越被仰付

天保十亥六月廿四日出精相勤候二付老人扶持御増、都合

一拾石三人扶持

如是被成下候

天保十二丑十二月廿八日來寅春江戸立歸り被仰付候

同十四卯七月十一日出精相勤候二付跡目小算二被成下候、但野田廉蔵次

同十五辰二月十七日御内御用有之二付加州粟ヶ崎へ出張被仰付候

弘化四未十二月五日出精相勤候二付、一統格二被成下候

嘉永三戌年七月十八日御内御用有之二付出坂

同四亥年正月十六日出精相勤候二付御充行式石御増、都合

一切米拾石三人扶持

如斯被成下候

同四亥二月廿八日参会之節心得違之趣有之二付、御奉行共存を以急度叱

り、伺之上御用之外慎之処、三月五日指免候旨

嘉永四亥五月十六日小役人二被成下、御勝手役喜多嶋孫太夫跡被仰付、

御充行三石御増、都合

一切米拾五石三人扶持

如斯被成下、役中御足充行三石被下置候

嘉永六丑年江戸詰、三月十六日出立、同七寅四月廿日帰着

同年四月二日詰中御借財仕訳方受込役兼帯并詰中御預所御勝手役兼帯被

仰付、且又慎姫様御入輿二付掛り被仰付候

同年八月十七日先達而異国船渡来之節、御役前とハ乍申御入用金御指支二無之様致心配、并御不益之筋二相成不申様取斗候趣二付御褒被成候

同七寅年四月四日昨年来臨時御用多之処、出精相勤候二付金百疋被下置候

安政三辰二月廿三日出精相勤候二付御取立被成、新番格被仰付候

同年八月江戸詰出立

同四巳四月 於江戸表病死

西沢文太郎

一切米拾五石三人扶持

安政四巳五月廿五日親丈右衛門令病死候二付、小役人二被仰付、御充行

如是被下置候

同七申三月五日病氣罷在候処及大病立替相願、其後令病死候二付、養子

忠次郎与申者無役跡目小算二被仰付、御充行並之通

西沢忠次郎

一切米拾弍石三人扶持

如此被下置候

元治元子十二月賊徒一件二付御留守御用相勤、依之三拾三匁被下

慶応元丑九月二日病身二付願之通御暇被下、養子鉄吉小算被召出、御充

行

西沢鉄吉

一切米拾石三人扶持

如是被下置候

同二寅十一月十一日御武具下代勤中御武具御改正中出精相勤候二付、銀

式拾匁被下置候

同年十二月廿八日左之通名替

鉄吉事

西沢清平

同三卯三月十六日御趣意二付小十人組江被入候

同年六月廿日什長被仰付

同年十月 左之通名替

清平事

西沢孫六

同年十月十八日御趣意二付席其儘小筒組後拒役被仰付

同四辰六月廿五日会征出立、十一月十五日帰、右出張二付千五百疋、外

十弍両

明治二巳二月廿九日歩隊二被仰付、後整衛隊ト唱

同年十一月廿五日今般御改革、更ニ御充行米弍拾九俵五升六合

同三年四月廿五日戊辰北越出張各所攻撃勉勵二付、御賞典之内四石廿ケ

年被下候事

同年五月廿四日第一大隊九番小隊入申付候事

同年十一月十五日兼而遊蕩ニ酖り、不埒至極ニ付後拒指免、一ケ年之間

給禄之九割被下、謹慎、十二月五日被免

同四未十二月名替

孫六事

西沢四也

同五申五月名替

四也事

西沢真挟美 マサミ

同年六月廿九日給祿渡方雇指免候事
同年十月廿二日給祿仕出方雇

丹羽

丹羽助藏 助右衛門 助藏 助右衛門 御預所郡奉行武田平右衛門組書役
一切米八石式人扶持

安政五年十月十一日出精相勤候二付諸下代二被成下、御充行如此被下置候

同六未五月廿三日御雜用方下代へ

同年十月十六日御台所方下代へ

同七申三月晦日江戸詰出立

万延与改元、七月廿八日先達而横浜表江臨時出張二付御褒詞

文久元酉四月十日横浜表江御人数致出張候処、出精相勤候二付銀三拾匁被下置候

同二戌三月五日今庄広瀬領御代官方下代へ

元治元子十二月賊徒一件、御留守御用二付銀拾式匁被下

慶応四辰八月七日三国山岸領御代官方下代江組替

同年八月廿五日七領之処九領二相成候二付、三国領へ組替

明治二巳正月十六日出精相勤候二付、役席小寄合格被成下

同年六月廿九日名替

助右衛門事

丹羽助藏

同年七月十九日三国領収納方下代へ

同年十一月廿一日今般御改革二付役儀指免候

但付送り之儀ハ追而御指図相待可申事

同月廿五日右同断、更御充行米式拾式俵壹斗八合被下

同三午正月廿八日御金土藏御門番申付候事

同年六月三日口山里御門当番中御門中江婦人子共立入候節、制シ方不參

届心得違二付押込、同十三日指免候事

同年七月十八日小学校御門番更二申付候事

同年十月廿五日民政寮附属

但布改方算者 級外也 被免

同四未五月三日御小人町居住罷在候屋敷地押地被下候処、同町内吉田忠

夫持家讓受候二付、右地所二而振替押地願之通

西村

1

小泉右伝

一切米九石式人扶持

享保十五戌七月廿五日是迄御道具役相勤候処御暇被下

小泉玄賀

一切米八石式人扶持

同廿卯年十月十一日右伝俸表御坊主江被召出、御充行並之通如此被下置

宝曆四戌正月十一日右伝と名替

同年七月十一日病氣願之上御暇被下

小泉玄賀

一切米八石式人扶持

右同日養父右伝御暇被下、表御坊主江被召出、御充行並之通如此被下置

同八寅三月十七日林齋と名替

同十二月廿八日左春と名替

明和二酉十二月廿八日西村閑齋と名替

安永二巳三月十一日不宜儀在之二付押込被指置、追而立替相窺候様被仰付

同閏三月十一日押込御免被成、倅平三郎と申者江御立替被成下、表御坊主被仰付

西村煩齋

一切米八石式人扶持

右同日表御坊主被召出、御充行並之通如此被下置候

同年十一月十五日來春江戸詰被仰付候

天明三卯八月五日養父大瀬永輔与申者不埒至極之趣相聞候二付、御城下

分五里四方追放被仰付、煩齋義も不宜趣共相聞候二付押込被指置

同六年三月五日養父閑齋与申者先年御咎追放被仰付、當時在辺ニ罷在候

処、去春分病氣ニ而渡世致方無之二付、煩齋江御願被成下候様相願候、

依之願之通被仰付

同年十二月廿八日久宅与名替

同年奥御坊主被仰付候

同七未二月四日当春江戸詰被仰付候

寛政四子正月十六日身持不宜候二付、押込被仰付、同二月十一日押込御免被成

西村宗味

一切米八石式人扶持

同五丑年十月廿五日養父久宅病氣願之上立替被仰付、御充行並之通如此被下置

同六寅年江戸詰被仰付

同八辰年同断

文化三寅七月廿八日不寢役直居周意跡被仰付候

同四卯年江戸御供詰被仰付候

同年四月十日此度御道中於木本駄骨折候二付御褒被成、御目錄銀三拾匁被下置

同五辰十月十五日奥被仰付

同六巳三月十三日御茶方早見門跡被仰付

同年江戸御供詰被仰付候

同八未年同断

同十四年同断罷越候処詰延ニ相成、失却多難洪之趣ニ付格別之為御手当

銀式拾式匁被下置候

同十二亥年同断

文政二卯年同断

同四巳年同断

同五午年有馬御入湯御供被仰付候

同六未年江戸御供

同八酉年同断

同九戌年二月廿五日威徳院様御逝去二付、表御坊主二被仰付候

同十亥九月十三日奥御坊主並被仰付候

同十三寅年五月四日御道具役助被仰付候

同年九月廿五日昨年御触通も有之候処、仲ヶ間振廻之義不参届候二付叱

同年十一月廿五日御道具役葛宗昨跡被仰付、御充行壱石御増

一切米九石式人扶持

都合如是被成下

同年十二月朔日来卯年江戸御供詰被仰付候

天保二卯十二月廿日年来出精相勤候二付一統格被成下候、但席城崎弥助

次

同三辰二月廿六日御帰国御道中御時計役兼勤被仰付候

同六未三月四日大嶋長二江戸詰中御坊主頭仮役被仰付候

同年来申年江戸詰被仰付候

西村宗伴

一切米八石式人扶持

天保八酉五月廿六日養父宗味病氣願之上御暇被下、表御坊主江被召出、

御充行並之通如此被下置候

同十三寅七月十三日時計役被仰付、当秋江戸詰被仰付

同十四卯正月廿八日当分御右筆部屋御坊主助被仰付候

同四月四日右御右筆部屋御坊主不時介被仰付置候処、御免被成候

同閏九月廿九日来辰年江戸御供詰被仰付

同十月五日御右筆部屋助被仰付

同十月十七日御右筆部屋御坊主定助被仰付

同十五辰六月廿五日御右筆部屋御坊主被仰付、御扶持方壱人扶持御増、

都合

一切米八石三人扶持

如此被成下候

同七月五日当秋江戸詰被仰付、岩佐友睦と交代致し候様被仰付候

弘化二巳十月十五日来午年江戸詰被仰付候

同三年十月三日不念之趣相聞候二付押込、同月十三日押込被置候処被指

免候

嘉永二酉年十二月十五日今般御前様御引移御婚姻前後無御滞被為濟御満

足思召候、右御用掛り出精二付式拾式匁五分被下置候

西村政吉

一切米八石式人扶持

嘉永三戌年四月三日養父宗伴病氣及大病御暇相願候、依之願之通御暇被

下置、表御坊主二被召出、御充行並之通如此被下置

同日左之通名替

政吉事

秀巴

同五子年十二月廿八日左之通名替

秀巴事

西村周巴

安政二卯二月六日御右筆部屋御坊主被仰付、御扶持方壱人扶持御増、都

合

一切米八石三人扶持

如是被成下候

安政三辰二月十日江戸詰出立

同年来々午年迄詰越被仰付候、同五午五月十日帰着

同六未四月朔日江戸詰出立

同七申二月廿六日太田御陣屋御普請御用掛り出精二付、銀三拾匁被下置候

候

安政七申三月十五日御供二而帰着

万延与改元、六月五日心得違之趣相聞候二付屹度も可被仰付処、大赦被

仰出候折柄二付、格別之御憐愍を以急度叱り、右二付伺之上慎、十四日

御免

文久元酉三月十九日御供二而出立

同二戌正月十五日出精相勤候二付、一統格二被成下候

同年四月十三日先達而御持場替一件御用掛り出精之段、御褒詞之上金百

五拾疋被下置候

同年閏八月廿三日酒吞茶屋江罷越心得違之趣相聞候二付、御叱り被仰付

候処、恐入伺之上慎、廿八日御免

同年十一月廿九日不正之儀有之二付立替被仰付候

西村周佐 周巴倅

一三人扶持

万延元申十月廿六日表御坊主ニ被召出、御扶持方三人扶持被下置候

文久二戌十一月廿九日親周巴不正之儀有之、立替被仰付候二付、其儘表

御坊主被仰付、御充行並之通

一切米八石式人扶持

如此被下置候

同日右二付伺之上慎被仰付、同十二月三日被指免候

慶応三卯正月廿日小坊主江

明治二巳九月十九日名替

周佐事

西村周太郎

同年十一月廿五日今般御改革、更御充行米式拾式俵壹斗八合被下

同年十二月廿四日為歳暮銀壹貫五百匁被下候事

同三年八月廿二日小給仕雇指免候事

同年十一月晦日民政寮給仕へ

同月十日堀端西御旗町少路前之処ニ而地所埋立拜地願之通

同四未八月十七日給仕勤中月々金百疋ツ、被下候事

同年十二月廿九日改正二付給仕差免候事

同日給仕雇申付候事、年給七両ツ、被下



山田延次郎 此以前惣列剝切ニ有之

一切米拾五石三人扶持

安政五年六月五日養家之兄与一郎不埒之趣相聞二付、侍御削被成蟄居被

仰付、養家之弟延次郎儀御徒ニ被仰付、御充行如此被下置押込、同月廿

五日被差免候

文久三亥二月十日殿様御上京御供二而出立

※二末にあり

同年五月七日当亥御参府御供被仰付、八月十七日出立

同十二月江戸台御上京御供、子二月十三日御供着

元治元子十二月賊徒一件二付出張、御手当銀百匁被下置候

慶応元丑九月廿二日家屋敷檉尾乙之助家屋敷江替被下、為造作料銀五貫

三百匁被下置候

同二寅六月廿五日宰相様御登坂御供出立、十月六日帰

慶応二寅十二月廿八日名替

延次郎事

山田市郎左衛門

同三卯十月十八日御趣意二付席其儘小筒組後拒役被仰付

同四辰三月廿日病氣二付願之通立替被仰付、養子弥八郎与申者跡目小算

二可被仰付之處、御趣意二付小十人組江被入、御充行

山田弥八郎

一切米拾式石三人扶持

如此被下置、一番御備之一番小隊後拒役被仰付候

同年六月廿五日会征出立、十一月帰、巳二月廿二日為御賞千五百疋、外

二六兩

明治二巳二月廿九日歩隊二被仰付、後整衛隊卜唱

同年十一月廿五日今般御改革、更御充行米三拾壹俵三斗六升九合

同三年四月廿五日戊辰北越出張各所攻撃勉勵二付、御賞典之内四石廿ヶ

年被下候事

同年五月廿四日第二大隊二番小隊入申付候事

同年七月十七日改姓

山田事

吉村弥八郎

同年九月十四日右隊之伍長申付候事

但其隊之上席

同年十二月八日常備碩手 六俵

同四未三月廿八日常備第六小隊江 六俵

同年四月廿三日兵隊指免候事

同年十一月三日士族西村虎介卜禄振替

一米四拾式俵六升 廿石三口ノ適宜割

同五申五月廿五日病身願之上倅弥太六江立替

西村弥太六 吉村弥太六

一米同断

同 西村卜改姓



西尾奥左衛門

一切米七石式人扶持

享和二戌二月養父喜太郎病氣願之上立替被仰付、御充行如此被下置、錠

前番江被召抱

文化元子六月病氣二付願之上御暇被下、御充行

西尾武右衛門

一切米七石式人扶持

如此被下置、錠前番江被召抱

同十四九月病氣願之上御暇被下、御充行

西尾長太夫

一切米七石式人扶持

如此被下置、錠前番江被召抱

文政七申四月御広敷御出居番被仰付

天保二卯三月表御出居番被仰付

同四巳九月御広敷御出居番御徒兼被仰付

同年小寄合格二被成下候

西尾宗悦

小寄合格御住居御出居番西尾長太夫倅

一切米七石式人扶持

弘化二巳正月十九日親長太夫病氣願之上御暇被下、倅宗悦と申者御充行

如此被下、御勝手役預仮浮下代被仰付、仙之助与名替

同廿六日表御坊主被仰付候二付、再宗仙与改

弘化四未十二月廿六日長栄与名替

嘉永三戌年四月十六日出精相勤候二付御充行壱石御増、都合

一切米八石式人扶持

如斯被成下候

嘉永五子九月十日左之通名替

長栄事

西尾宗珉

安政六未十一月十一日中将様御附不寝役定助被仰付、奥御坊主格二被成

下候

文久元酉十月二日不寝本役被仰付候

同二戌二月十八日役儀其儘奥御坊主順席被仰付候

同年十二月廿三日来春中将様御船二而御上京被仰出候二付、陸通り御先

出立

文久三亥四月十六日先達而於京都表病氣願之上御暇被下候、跡養子源蔵

与申者表御坊主二被召出、御充行並之通

西尾清意

同日名替

一切米八石式人扶持

如是被下置候

但右清意ハ御目付萩原金兵衛組西村清兵衛倅之義、右養子二内談

当節定府之面々御国江引越之折柄二付、於此表跡式被仰付被下

候様、先達而清兵衛相願候事

文久四子二月廿二日江戸表江出立

慶応元丑六月十三日病身二付願之上御暇被下

同年七月廿四日先達而御暇被下候、跡養子多吉卜申者表御坊主之内江被

召出、同日名替

西尾宗立

一切米八石式人扶持

如此被下置候

同三卯三月廿日御趣意二付浮下代二被仰付

翌廿一日名替

宗立事

西尾宗助

同四辰正月御国江引越被仰付、二月廿二日着

同年三月十一日御趣意ニ付表御坊主被仰付、名替

宗助事

西尾宗立

同年六月十七日上京、九月帰

明治ト改元、十月廿九日上京、巳二月帰

明治二巳四月九日中納言様御供、東京江出立

同年九月廿一日名替

宗立事

西尾房治

同年十月朔日正二位様御供方申付、役席小寄合格同様申付候事

同年十一月廿五日今般御改革、更御充行米式拾式俵壺斗八合被下

同三年二月二日東京ヨリ帰

同年八月八日東京江出立

同月廿五日帰藩申付、九月廿三日帰

同年九月廿四日今般御趣意ニ付御家從附属指免候事

同年十月二日下馬御門当番申付候事

同年十一月晦日漆御門番江

同年同月廿四日不動裏御堀埋立拝地願之通

五 新番格以下 ホ



小野田徳太夫

右何年被召抱候哉、勤書焼失仕候ニ付年月相分り不申候

小野田三清

寛延二巳五月被召出候、但シ勤書之儀者右同断

小野田林斎

宝曆十辰被召出候、但シ右同断

小野田通鑑

安永元辰被召出、但シ右同断

堀右碩 小野田事

天明三卯被召出、但シ右同断、改姓年月相分り不申候

堀永伯

一切米八石式人扶持

寛政十年年養父右碩病氣願之上立替被仰付、御用部屋小坊主ニ被召出、

御充行並之通如是被下置

文化四卯六月十八日表御坊主被仰付候

同五辰年正月十九日靈岸島不寝役被仰付

同六巳五月廿二日病身ニ付内願之通不寝役御免被成、表御坊主被仰付

同十三子八月廿三日御坊主ノ下代勤被仰付
同日清兵衛与名替

同廿六日表御納戸下代勤被仰付

同十四丑八月七日御台所方後藤文五右衛門下代勤被仰付

文政三辰年正月十五日小寄合格ニ被成下

同八酉七月十二日出精相勤候ニ付小算格ニ被成下、但席伊藤弥左衛門次

同九戌九月十三日靈岸島御住居御台所下代勤并御雜用方下代兼帯被仰付

同十亥年十一月十一日御住居御広式勤定掛り書役并靈岸島御右筆部屋御

用有之節、御帳付代り書方兼帯相勤候様被仰付

同十三寅四月御台所方下代被仰付候

天保三辰年六月十一日不正之儀有之趣相聞候ニ付立替

堀永朴

一切米八石式人扶持

右同日親清兵衛跡表御坊主ニ被召出、御充行如是被下置、但江口文栄次

同日永朴与名替

同七申正月廿六日小坊主被仰付、但席堀江清栄次

同八酉十二月十九日、去ル九月十六日御上屋敷御焼失之節骨折候ニ付、

金百疋被下置候

同九戌正月廿日御帰国御道中御供立帰被仰付候

同六月七日表御坊主被仰付

同十二月十四日専悦与名替

天保十一子八月廿日小坊主被仰付候

天保十二丑十月十七日表御坊主被仰付候

同十三寅九月廿日病氣ニ付願之上御暇被下置

堀籙五郎

一切米八石式人扶持

右同日養父專悦跡表御坊主ニ被召出、御充行如此被下置、当分表御出居
番勤被仰付候

同十五辰正月廿四日諸下代之内へ被入、当分御留守居物書被仰付候

同七月廿五日仕出場留付へ

同七月廿九日御扶持方下代へ

同八月廿四日御台所方下代兼へ被仰付

同九月十六日掌五郎与名替

弘化三年三月廿二日御扶持方下代被指免、御台所方下代^{フリ}振退

同四未正月廿八日御住居御広敷書役勘定役へ

同五申年正月十五日養祖父清兵衛、表御納戸方下代御雇勤中鳥子紙御献

上之節、出精相勤候ニ付為御酒代銀拾五匁被下置候

嘉永四亥四月九日今般神田橋御住居江両御丸様御立寄ニ付、御用懸り出

精ニ付銀七匁五分被下置候

同五子四月廿五日御住居御普請御用掛り出精ニ付、銀拾匁被下置候

同六丑正月十八日出精相勤候ニ付、小算格ニ被成下候

安政四巳九月十四日今度御住居御引払ニ付役儀被指免候

同年同月十六日御武具方下代へ

同五午正月十五日出精相勤候ニ付御充行式石御増、都合

一切米拾石式人扶持

如此被成下候

同六未七月廿二日太田御陣屋交代詰被仰付候

文久二戌正月十五日出精相勤格別御用弁之趣ニ付、別段之訳を以類例ニ
不拘小算ニ被成下、御扶持方壹人扶持御増

一切米拾石三人扶持

如此被成下候

同年四月十三日太田御陣屋御引払出精ニ付、金百疋被下置候

同年十一月三日御聞番下役助并中将様御部屋御鍵番兼勤被仰付、為失却

年々金五両ツ、被下置候

文久三亥七月四日右御鍵番之儀御辭職被遊候ニ付被指免候、但失却金之

儀も御辭職後者不被下候、御聞番下役見習被仰付

慶応元丑四月廿五日今般道中宿繼并定日飛脚ニ御指立、一件取調方格別

出精相勤候ニ付、為御酒代金五百疋被下置候

同年六月十三日産物掛り被仰付候

同年十二月十九日格別出精相勤候ニ付、御充行式石御増

一切米拾石三人扶持

如此被成下候

同三卯二月二日御聞番下役本役御城使被仰付候

同年十一月十六日左之通名替

掌五郎事

堀庸之介

同年十二月三日近來格別御用弁之訳も有之二付一統格ニ被成下、御聞番

下役其儘御預所御勝手役見習被仰付候

同四辰正月御国表江引越被仰付、然ル処直詰被仰付候

同年三月御趣意ニ付御国表へ罷歸候様被仰付、四月廿六日着

同年四月廿九日京都御聞番下役被仰付候

同年閏四月廿五日今般江戸御屋敷引弘諸向跡仕廻等致心配候二付、金三百疋被下置候

同年五月三日上京出立

同年六月七日御勤局書記役被仰付、月々金貳百疋ツ、被下置、外ニ為失却月々金壹兩貳歩ツ、被下置、但御留守居方之儀ハ是迄之通、且又当年限り為衣裳金拾兩被下置候

明治ト改元、九月廿二日月々失却壹兩貳歩ツ、被下候処、今般惣与内割替御手当相増ニ付以後不被下候

一 九月九日御勤役之御役名已来公務方ト御改、御聞番役之面々公用人ト相唱候様被仰付

同二巳正月十六日出精相勤候二付、役中御足充行三石被下置候

同年二月十二日京都分歸

同月廿七日東京江出立

同年四月廿九日掌政局筆者公務局筆者兼申付候

但年給米三俵被下候、月々御渡、公儀人筆者之儀も可心得候事
一 御足三石ハ被廢

同年十月八日東京江家内引越被仰付候事

同月十四日公務方補助被仰付、御足三石被下、小役人格ニ申付候事

同年十一月廿五日今般御改革ニ付、更御充行米三拾壹俵三斗六升九合被下

同年十二月廿八日家内引越被仰付、已後月俸五口被下置候事

同三年四月廿二日御家従被仰付候事

同年八月 公務局被止

同月十五日御家政局書記被仰付候事

但席早見覺哉次

未二月十六日家政局被廢執事局被置候

同四未二月十六日庶務方被仰付候事

但執事局書記方并外接勤

未四月五日年給貳拾貳俵斗八升貳合四勺 十四兩也

同年五月七日書記其儘御取次兼被仰付候事

同五申八月晦日御書下ケニ而免職

同日御家従被仰付、御家扶詰所書記被仰付候事

但月給十五兩



婦山利作

一切米八石貳人扶持

天明四辰三月十三日御持筒組へ被召抱

寛政六寅八月五日御目付物書被仰付

文化五辰七月十一日山方下代被召出、御充行並之通被下置

同六巳年六月十二日御腰物方下代入替被仰付

同十二亥二月二日奥御納戸方下代江入替被仰付候

文政五年十月廿四日病氣ニ付出役勤御免被成候

婦山幸助

一切米八石貳人扶持

※佐治啓太郎の後にあり

同年十一月朔日出役被仰付、浮下代勤

同月八日御預所御代官方雇下代勤へ

同六月未二月十日御預所御金方近藤八右衛門下代勤へ

文政七申四月十二日表御金方下代勤へ

同八酉二月廿四日御雜用方下代勤へ

同九戌十月十五日御作事方下代勤へ

文政十亥十一月晦日作左衛門卜名替

同十二丑二月十五日御代官永田順右衛門下代へ

同年七月廿八日嶋津右太夫下代勤へ

天保二卯二月十六日御趣意二付浮下代嶋津伝太夫仮預り被仰付候

同年八月十日御雜用方下代へ

同年十一月十五日来辰年江戸詰被仰付候

同三辰二月廿七日利作与名替

同四巳五月廿五日御代官木内甚兵衛下代江

同年八月四日久野長右衛門下代組替

天保七申七月四日元席割入坂川小左衛門次へ

婦山熊吉

一切米八石式人扶持

天保八酉七月十一日養父利作病氣願之上御暇被下、諸下代之内へ被召抱、

御充行並之通如此被下置、嶋崎伝太夫仮預り浮下代被仰付候

同十三寅六月十二日御切米方佐藤幸右衛門下代被仰付

同年十二月十二日忠兵衛卜名替

同十五辰八月十二日御腰物方下代

同十五辰暮利作与名替

弘化四未四月十一日初蔵下代へ

弘化五申正月廿六日与内方下代へ

嘉永二酉年十二月廿一日病身二付願之上御暇被下、養子新八与申者諸下

代之内江被召抱、御充行並之通

婦山新益

一切米八石式人扶持

如斯被下置、御趣意二付表御坊主二被仰付候、依之左之通名替

嘉永三戌十二月廿五日左之通改性

同五子年十二月廿八日左之通名替

同六丑年十二月廿九日左之通名替

同五子年十二月廿八日左之通名替

同六丑年十二月廿九日左之通名替

同六丑年十二月廿九日左之通名替

同六丑年十二月廿九日左之通名替

秀益事

清水周益

安政四巳正月廿五日御右筆部屋御坊主被仰付、役中耆人扶持御増、都合

八石三人扶持二被成下候

同五年四月五日江戸詰出立

同年十一月廿一日今般御家督御相統御引移御用掛り出精二付、金貳百疋

被下置候

安政七申年三月十五日御供二而帰着、但未年詰越

万延与改元、六月五日心得違之趣相聞候二付屹度も可被仰付処、大赦被
仰出候折柄二付、格別之御憐愍を以急度叱り、右二付伺之上慎、同十四
日御免

文久元酉三月御供詰出立

同年五月廿四日江戸表江出立、九月 帰着

同二戌年十月廿五日当夏出府被仰付候処、臨時過分之失費も有之趣二付、
金貳兩貳歩為御手当被下置候

同年十一月廿九日不正之儀有之ニ付立替被仰付候

同年十二月七日右跡養子竹五郎与申者表御坊主ニ被仰付、御充行並之通

清水新悦

一切米八石貳人扶持

如是被下置候

同日右之通名替

文久二戌十二月十七日小坊主へ

元治元子十二月賊徒一件、御留守御用御手当十貳匁被下

慶応元丑十月十三日表御坊主江

同年十月廿日病身ニ付願之通御暇被下、養子平太郎与申者表御坊主ニ被

召出、御充行並之通

清水栄甫

一切米八石貳人扶持

如此被下置候

同日如此名替

明治元辰十二月十三日殿様御上京御供出立

同二巳九月十九日名替

栄甫事

清水貞造

同年十一月廿五日今般御改革、更御充行米貳拾貳俵壹斗八合被下

同年十二月廿三日表給仕指免候事

但軍務寮支配之事

同三年正月十日生兵修行指出候

同年八月十二日第二大隊十番小隊入申付候事

同年十二月八日予備第四小隊江被入候

同四年四月七日右解隊被仰出候事

同年十二月改姓名

清水貞造事

堀平太郎

同五年正月廿五日病身ニ付弟へ家督

堀八百太郎

一米貳拾貳俵壹斗八合



荒井加右衛門 吉田五左衛門組

一切米七石貳人扶持

※ホ末にあり

天保十四卯四月十九日御充行其儘諸下代之内へ被召抱、嶋崎伝太夫仮預
浮下代被仰付候

同八月晦日河野口錢方下代へ

弘化三年閏五月二日御充行壱石増、都合

一切米八石式人扶持

如此被成下、古物方下代へ

荒井弥三郎

一切米八石式人扶持

弘化四未十月十三日養父嘉右衛門病氣願之上御暇被下、養子弥三郎与申
者諸下代之内へ被召抱、御充行如斯被下置、中野文左衛門仮預り浮下代
被仰付候

同五申正月廿九日御腰物方下代へ

嘉永元申年十二月廿八日左之通改姓

荒井事

藤田弥三郎

同二酉年五月四日御広敷書役江

同年十一月四日来戌年江戸詰被仰付候

同四亥四月九日今般公方様右大将様神田橋御住居江御立寄無御滞被為済、

右御用懸り出精二付銀七匁五分被下置候

同年五月廿日山干飯領御代官肩下代へ

安政二卯十一月十二日山岸領御代官肩下代へ組替

同四巳正月廿五日御趣意二付改而金津芝原領江

同年閏五月十一日病身二付願之通御暇被下、養子貞蔵と申者諸下代之内

へ被召抱、御充行並之通

藤田貞蔵

一切米八石式人扶持

如此被下置、西村源左衛門仮預り浮下代被仰付候

安政四巳八月二日御札所奉行下代江

同五年七月十一日浜坂浦口錢方下代へ

安政六未正月廿八日左之通改姓

藤田事

佐々木貞蔵

同四月十日御作事方下代へ

同七申三月晦日江戸詰出立

万延与改元、六月廿四日靈岸島御屋敷御建継御普請出精二付、銀三拾匁

被下置候

同年十一月十八日巢鴨御屋敷御普請出精二付、銀拾五匁被下置候

文久元酉七月廿五日志比品ヶ瀬領御代官方下代へ

元治元子十二月賊徒一件二付御留守御用相勤、依之拾式匁被下

慶応四辰八月廿五日山岸領江組替

明治二巳七月十九日山岸領收納方下代

同年十一月廿一日今般御改革二付役儀指免

但附送り之儀ハ追而御指図相待可申事

同月廿五日右同断、更御充行米式拾式俵壹斗八合被下

同三年正月廿八日御金土蔵并御門番申付候事

同年七月十八日五十六歳已上二付諸勤御用捨被成候事

同年十一月晦日三夕所当番江
同四未十二月十五日元御徒堀利雄与給禄振替、養子数衛へ立替願之通

堀数衛 佐々木数衛

一米三拾五俵四斗五升

堀下改姓

本庄¹

清水要右衛門

一切米八石式人扶持

天明元丑年五月晦日親跡鈴木藤十郎組二被召抱

寛政八辰年渥美新右衛門福井屋敷留守居役并役所手伝被仰付

文化十二亥二月十六日海福久右衛門下代被仰付候

文政六未正月十六日実躰相勤候二付、小寄合格二被成下候

同七申十月廿九日金津表へ引越被仰付候

天保二卯九月五日小算格二被成下、御勘定所勤被仰付候

一切米拾石式人扶持

天保九戌十二月十六日年来相勤候二付、小算格二而御勘定所勤令小算二

被仰付、御充行式石御増、都合如此被成下

清水鉄蔵

一切米八石式人扶持

天保十一子正月廿九日養父要右衛門病氣願之通御暇被下、養子鉄蔵与申

者諸下代之内へ被入、御充行並之通如此被下置、御勝手仮預り浮下代被仰付候

一切米九石式人扶持

同年二月廿六日仕出場書役下代被仰付、月番御奉行仮預り、当時御預所

元締役萩原長兵衛書役下代仮被仰付

同年五月十四日御奉行川村文平書役下代へ

一切米八石式人扶持

天保十一子八月三日御札所受込下代被仰付

同十三寅十二月廿八日要右衛門与名替

同十五辰正月十六日格別出精相勤候二付小寄合格二被成下候、席西尾長

太夫次

弘化四未三月十六日出精相勤候二付小算格二被成下、席高坂惣八次

嘉永元申年十二月十七日御札所受込勤差添被仰付候

同四亥三月五日御料所陣屋へ出張、御内用向格別骨折相勤候二付、小算

二被成下候

同五子十二月六日出精相勤候二付御足充行式石壺人扶持御増、都合

一切米拾石三人扶持

如此被成下候

安政元寅十二月十一日御札所為御内用御料所陣屋江罷越心配相勤候二付、

御充行式石御増、都合

一切米拾石三人扶持

如此被成下候

安政三辰十月廿五日新札引替之節出精之段、褒メ可遣候

同四巳正月十六日出精相勤候二付、前後之例二不拘一統格末席二被成下

候

同年正月廿五日御広敷勘定役被仰付候
文久二戌三月八日年寄候二付御暇被下、倅武次郎与申者小算二被召出、御充行並之通

清水武次郎

一切米八石式人扶持

如是被下置候

文久三亥年五月晦日京都表江出立

元治元子四月廿三日宰相様御供二而帰着

同年五月十一日在京中不行状之趣相聞押込、廿六日御免

同年十二月賊徒一件二付御留守御用相勤、依之三拾三匁被下置候

慶応二寅三月廿三日江戸詰出立、卯四月廿六日帰

同三卯六月九日病氣願之上御暇被下、養子繁松与申者諸下代之内江被召抱、御充行並之通

清水繁松

一切米八石式人扶持

如此被下置、御勝手役仮預り浮下代被仰付候

慶応四辰八月廿七日病身願之上御暇被下、養子慎六与申者諸下代之内江被召抱、御充行並之通

清水慎吉

一切米八石式人扶持

如此被下置、会所預り浮下代被仰付

明治二巳六月十二日由緒有之堀祐四郎江養子へ罷越候二付、願之上御暇被下、養子作一郎と申者諸下代之内江被召抱、御充行並之通

清水作一郎

一切米八石式口

如此被下置、御勝手役仮預り浮下代被仰付候

同年十一月廿五日今般御改革、更御充行米式拾式俵壹斗八合被下

同三年正月十日生兵修行指出候

同四年十二月改姓

清水事

本庄作一郎



佐治庄次郎

一切米七石式人扶持

文政十亥八月七日大関助左衛門組分出役浮下代勤被仰付、御充行其儘大

谷武兵衛仮預り被仰付

同八月廿五日御充行壺石増、都合

一切米八石式人扶持

如此被成下候

同十三寅閏三月廿一日御藏奉行堀江武右衛門下代被仰付

同年十二月廿三日忠左衛門与名替

天保三辰十二月十一日役所締り方不参届趣相聞候二付押込、同月廿七日押込被差免

同五年十二月十六日困窮相勤候二付、明里御藏附下代勤中役席小寄合格被成下候

天保九戌五月廿日出精相勤候二付、小寄合格ニ被成下候
同日表御納戸方下代当秋江戸詰被仰付候

同十一子八月廿五日金津領御代官多部三左衛門肩下代へ増
天保十二丑閏八月二日品ヶ瀬領御代官中村惣右衛門肩下代へ組替

弘化二巳八月九日蓮川仁兵衛肩下代へ組替
嘉永二酉年七月廿六日砂子坂領横山十郎兵衛肩下代へ組替

同年七月廿六日広瀬領江組替
同三戌二月廿四日粟田部領肩下代江組替

同七寅十一月十六日志比領御代官肩下代へ組替
安政三辰二月十七日金津領御代官受込下代へ

同四巳正月廿五日玉薬方下代へ
同年三月廿五日出精相勤候二付小算格ニ被成下、御札所御趣向方下代へ

同年十月十八日今庄広瀬領御代官受込下代江
同六未八月五日志比品ヶ瀬領江組替
文久三亥十二月十六日出精相勤候二付、米三俵ツ、年々被下置候

慶応三卯八月二日御趣意方下代江
明治二巳六月十七日名替

忠左衛門事

佐治庄九郎

同年十一月朔日御改革ニ付役義指免候事

同月廿五日今般御改革ニ付、更御充行米式拾式俵壹斗八升被下
同三年二月廿三日及老年候ニ付願之上立替、御充行

佐治啓太郎 十七歳

一米式拾式俵壹斗八升
如此被下候、久保田喜平倅ニ而養子也

同月廿四日歩兵修行指出候
同四未十二月改姓

佐治事

本庄啓太郎



斎川安右衛門

一切米七石式人扶持

文化九申二月二日養父上田半藏病氣願之上立替被仰付、嶋崎伝右衛門仮預り浮人ニ被仰付

同年三月十二日仕出場留付被仰付
同月廿二日御金方雇下代被仰付

同十二月廿八日上田事斎川与改性
同十二亥八月廿五日御札所受込役笹木七左衛門下代被仰付

同十四丑十月廿九日切米壹石御増、都合
一切米八石式人扶持

如此被成下

※ホ末にあり

文政七申十二月十六日出精相勤候二付、小寄合格二被成下

同十亥十一月五日御札所受込差添被仰付

同十一子年三月六日出精相勤候二付小算被成下、御充行式石御増、都合

一切米拾石式人扶持

如此被成下

同十二月十六日新札引替之節出精相勤候二付、御褒詞被成下候

同十二月十五日受込指添被指免候

同十三寅十月六日支度出来次第江戸表へ罷越候様被仰付候

天保二卯三月十二日此度格外之御厳法御儉約御取調二付懸り被仰付

同年四月八日御国産御国今受方御用懸り被仰付候

同六月十二日浅姫君様非常御立退之節、御先弘御徒御雇被仰付候

同年八月廿八日御内用有之、支度出来次第罷帰候様被仰付候

同三辰閏十一月廿五日御札所御貸方指添南部勝右衛門跡被仰付候

天保六未三月十六日出精相勤候二付、跡目小算被成下候

天保九戌閏四月三日当分御札所請込指添兼仮被仰付候

同五月十一日御札所受込指添被仰付候

一切米拾石三人扶持

天保九戌七月廿五日出精相勤候二付御扶持方老人扶持御増、都合如此被

成下候

同十亥六月十一日産物方被仰付

同十二丑五月廿六日産物方被指免

同十四卯三月五日病氣願之上御暇被下

一切米拾石式人扶持

天保十四卯三月五日養父安右衛門病氣願之上御暇被下置、無役小算被召

出、御充行如此被下置候

弘化二巳四月十六日養妹他行之節、着服并髪之飾心得違之趣相聞候二付

押込被仰付、同廿五日押込被指免候

齋川雄助

一切米八石式人扶持

同四未二月九日養父又三郎病氣願之上御暇被下、養子雄助与申者諸下代

之内へ被召抱、御充行八石式人扶持被下置、御勝手仮預り浮下代被仰付

同七月晦日御雜用方下代へ

弘化五申年二月廿日当春年礼廻勤之節提物相用候段、心得違二付御奉行

存二而押込

嘉永二酉年三月江戸御供詰被仰付候

同年六月十七日当冬御入輿二付御用掛り被仰付

同年十二月十五日右御用掛り出精二付銀拾五匁被下置候

同四亥年正月廿六日御納戸方下代被仰付、当秋江戸詰被仰付、八月十四

日出立

同五子八月七日出精相勤候二付、小寄合格二被成下候

但席高嶋政次郎次

安政二卯四月廿六日御預所御代官肩下代へ

同五年二月九日玉薬方下代へ

安政六未九月十八日病氣二付願之上御暇被下、養子和平与申者諸下代之内へ被召抱、御充行並之通

齋川又三郎

齋川和平

一切米八石式人扶持

如是被下置、西村源左衛門仮預り浮下代被仰付候

同年十二月十四日左之通名替

和平事

齋川藤太郎

同十六日制産方下代へ

万延元申八月十一日古物方下代へ

同二酉二月十四日制産方下代江

同三亥三月廿七日長州下ノ関江出立、七月八日帰

同年十二月十六日出精相勤候二付、小寄合格ニ被成下候

元治元子十二月賊徒一件出張、御手当三拾五匁被下

慶応二寅八月十一日産物会所下代江

同四辰二月五日出精相勤候二付、別段之訳を以小算格ニ被成下候

同年三月廿二日武州横浜表江出立、十二月十日帰

明治二巳四月廿一日病身願之上御暇被下、養子弁三郎与申者諸下代之内

江被召抱、御充行並之通

齋川弁三郎

一切米八石式口

如此被下置、御勝手役仮預り浮下代被申付候

同年十一月廿五日今般御改革、更ニ御充行米式拾貳俵壹斗八合

同三年 生兵修行

同年 第二大隊九番小隊入申付候事
同年 改姓

齋川事

本庄弁三郎

同年十二月八日予備第四小隊へ被入候

同四未四月七日右解隊被仰出候事

同五申三月廿五日病身ニ付立替

本庄立輔 養父

一米廿貳俵壹斗八合

細野

玉村孫右衛門

一切米八石式人扶持

寛政七卯二月十四日親病氣願之上立替被仰付、上領郡方下代へ被召抱、

御充行並之通如此被下置

但天明三卯七月十二日下領郡方雇下代被仰付

同六年十月廿九日中領郡方雇下代へ

寛政二戌七月朔日御作事方雇下代被仰付

同三亥二月六日御材木方雇相勤之内御書物方勘定被仰付

同年六月十二日桜御門御普請ニ付御作事所雇被仰付

同五丑年上領郡方雇下代被仰付相勤

同十年六月右役所賊難ニ付、十月廿五日浮下代古物方支配被仰付押込、

同十一月六日押込被指免候

同十一月七日綿麻方三上惣太夫下代被仰付

同十一月未七月廿六日山方下代へ入替被仰付

文化十酉正月廿日年来出精相勤候二付、小寄合格二被成下候

文政元寅六月廿七日小算格被成下、御勘定奉行下代勤被仰付候

同二卯正月廿八日御趣意方下代勤へ

同五年十二月廿五日儀右衛門与名替

同七年六月廿一日病氣願之上出役勤被指免候

玉村忠三郎

一切米八石式人扶持

右同日出役浮下代勤被仰付、御勝手役仮預り被仰付候

同日御切米方下代勤へ

同廿三日郡奉行組へ増割入

同八酉三月十七日御台所方下代勤へ

同十亥十一月五日御代官竹沢五郎右衛門下代勤へ

同十三寅閏三月十五日中村多左衛門下代へ組替

天保二卯二月十六日御趣意二付浮下代嶋崎伝太夫仮預り被仰付候

同年十二月廿八日孫右衛門与名替

同三辰十月六日御金奉行服部三郎兵衛下代江

同四巳年十月九日生駒五左衛門下代へ

同六年十一月廿九日当春不慎之趣相聞候二付押込被仰付候、同十二月

十一日押込御免

同月十七日御作事方下代へ

同七年二月廿六日大橋御修覆御用掛り被仰付候

同年十月十一日今般大橋大御修覆中出精相勤候段御褒詞被成下、御褒美

銀式拾匁被下置候、同日銀拾五匁別段被下置候

同年十一月廿六日来酉年江戸詰被仰付候

同年十二月廿五日太郎右衛門与名替

天保十亥七月五日御預所御代官栗原作太夫肩下代へ

同十一年八月廿六日表御代官伊黒源五右衛門肩下代へ増

同年九月十六日先年も御咎被仰付候処、亦復不慎之趣相聞候二付押込、

同年十月廿日押込被指免

同年十月廿六日瓦方下代へ

玉村加太郎

一切米八石式人扶持

同十三寅二月朔日養父太郎右衛門病氣二付願之上御暇被下、諸下代之内

へ被召抱、御充行如此被下、嶋崎伝太夫仮預り浮下代被仰付

玉村事

細野加太郎

天保十三寅八月十四日改姓

同十五辰二月廿六日初藏下代へ

弘化二巳五月九日御藏奉行広部三右衛門下代へ

同四未正月十九日御藏奉行大橋半藏下代へ組替

嘉永二酉年五月十四日御藏奉行広部三右衛門下代江組替

同年十一月廿五日出精相勤候二付、役席小寄合格二被成下候

同四亥五月廿日心得違之趣相聞候二付押込之処、六月五日被差免候

同年十一月廿五日御蔵奉行長文五右衛門下代江

同年六月十五日今庄領御代官肩下代へ

安政二卯四月廿六日芝原領御代官肩下代江

同三辰十二月廿八日左之通名替

加太郎事

細野加右衛門

安政四巳正月廿五日御趣意二付改而南居山干飯領へ

万延元申十二月廿八日左之通改名

嘉右衛門事

細野開蔵

文久三亥十二月十六日出精相勤候二付、小寄合格二被成下候

元治元子十二月賊徒一件、御留守御用御手当十式匁被下

元治二丑正月左之通名替

開蔵事

細野海蔵

慶応二寅十一月廿二日南居山干飯領受込下代江

同四辰八月七日志比品ヶ瀬領御代官受込下代江組替

同月廿五日七領之処九領二相成、志比領江組替

明治二巳七月十九日志比領收納方受込 月給三俵

同年十一月廿一日今般御改革二付役義指免候事

但付送り之儀ハ追而御指図相待可申事

同月廿五日右同断二付、更御充行米式拾式俵斗八合被下

同三年正月廿八日御門番勤申付候事

同年五月廿日會計寮附属申付候事

但地方掛り筆者

同年七月

海蔵事

細野豊太

同年八月廿七日下午級二申付候事

同年十二月十二日會計寮附属指免候事

同四未正月十二日洋人居住所見張番申付候事

同月廿日当分会計寮江指向候事

同年五月八日檢地方手伝申付候事

同年六月朔日御改正二付免職

同五申七月名替

豊太事

細野豊

同年八月出納方雇申付候事

同十四日租税課雇申付候事

六 新番格以下
卜



豊田門入

一切米八石式人扶持

寛政四子年十二月廿六日木内三太夫下代分御充行其儘表御坊主被仰付候

同五丑年正月廿六日当丑春江戸詰被仰付候

文化元子年五月廿一日不寝役大嶋長二跡被仰付候

同三寅十一月廿二日来卯年江戸詰被仰付候

同五辰年十月十九日来巳年江戸詰被仰付候

同六巳年三月十六日奥御坊主被仰付候

同十四年江戸御供詰被仰付罷越候処詰延二相成、失却多難洪之趣二付格

別之為御手当銀式拾式匁被下置候

同十一戌十一月廿四日来亥年江戸御供詰被仰付候

文政元寅年二月十三日病氣二付奥御坊主御免被成、表御坊主被仰付候

豊田門嘉

一切米八石式人扶持

文政三辰年二月十五日養父門入病氣願之上立替被仰付、御充行並之通如

是被下置、表御坊主被仰付候

同四巳年江戸御供詰

同六未年同斷

同七申年十一月十九日御附不寝役被仰付、支度出来次第江戸詰被仰付候

同九戌四月十八日来亥年迄詰越被仰付候

同十亥年二月廿七日御右筆部屋御坊主定助被仰付候、詰中是迄之通相勤

候様被仰付候

同年三月十五日長詰出精相勤候二付、金三百疋被下置候

同年十月廿九日御祐筆部屋御坊主被仰付、御扶持方老人扶持御増、都合

一切米八石三人扶持

如此被成下、支度出来次第江戸詰被仰付候

同十二丑年正月十七日当丑年江戸詰被仰付候

同五月六日先達而詰被仰付置候処、御人繰合二付詰御免被成候

同年十月九日謙五郎様御国江被為入候二付右為御用早速致出府、右二付

御帳持参被仰付候

同年十二月十一日来寅年江戸御留守詰被仰付候

同十三寅閏三月十六日当年江戸御留守詰被仰付置候処、御免被成候

同年十月十五日来卯年江戸御供詰被仰付候

天保三辰十月十五日来巳年江戸御供詰被仰付候

同五年午三月四日、去月七日壺岸島御類焼之節骨折相勤候二付、御酒代

被下置候

同年三月晦日若殿様御登城被為濟候二付御用掛り相勤候二付、金百疋ヲ

大嶋榮立と兩人合江被下置候

同年十月十五日来未年江戸御供詰被仰付候

同六未正月十六日出精相勤候二付、一統格被成下候

同年閏七月十一日御養子被仰出候二付、御用掛り被仰付候

同月十三日御遺骸御国江被為入候二付、御道中御供二而御帳付兼帯被仰

付候

同八月五日今般御家督并御引移御用掛り被仰付候

同九月廿九日今般殿様御元服御用掛り被仰付候

同十一月七日御家督御引移前後無御滞被為濟御満足思召候、右御用掛り
出精相勤候ニ付金貳百疋被下置候、右御用懸り格別出精ニ付銀貳拾五匁
五分被下之

同十二月廿日御元服御用掛りニ付金貳百疋被下

同七年申年正月十九日御滞府ニ付詰越被仰付候

同年十月十七日来々戌年迄詰越被仰付候

同八酉年八月十五日謹姫様御縁組御熟談ニ付御用掛り被仰付

同十二月十九日、去ル九月十六日御上屋敷御焼失之節骨折相勤候ニ付、

御目録金貳百疋被下置候

同十二月廿七日御昇進御用掛り出精相勤候ニ付、御目録金百疋被下之

同十亥年江戸詰被仰付候

一切米拾石三人扶持

天保九戌十二月十六日一統格御右筆部屋御坊主御帳付見習被仰付、御

充行式石御増、都合如此被成下

門嘉事

豊田丈右衛門

同日門嘉事丈右衛門与名替

同十二月廿二日来亥年江戸詰被仰付

同十一月四月十八日出精相勤候ニ付、金五百疋被下置候

一切米拾式石三人扶持

天保十一子十二月十六日出精相勤候ニ付御帳附本役被仰付、御充行式石

御増、都合如此被成下、役中御足充行三石被下置候

同十四卯十二月廿八日御代替後初而御軍帳御用掛出精相勤候ニ付、銀貳

拾匁被下置候

弘化三年三月十六日当夏御帰国御迎被仰付、支度出来次第出立被仰付候

同十二月十六日出精相勤候ニ付御足充行三石御増、都合

一切米拾五石三人扶持

如是被下置候

嘉永元申年十二月廿一日当夏急御出府被遊候ニ付、右取調を始御用多相

勤候ニ付銀貳拾匁被下置候

同七寅八月二日先年海岸御用出精相勤、其上此度急々出府被仰付候ニ

付、別段之訳合を以小役人格ニ被成下候

同月十二日江戸表へ出立、卯九月廿一日帰着

文久二戌六月廿五日出精相勤候ニ付別段之訳を以御取立被成、新御番格

ニ被仰付候

同三亥十二月十七日京都表江出立、子二月御帰国御供着

元治元子三月十八日左之通名替

丈右衛門事

豊田勝左衛門

同年八月廿四日上京、十一月廿七日帰

同年十二月賊徒一件、御留守御用御手当銀百匁被下候

慶応元丑七月十一日三ノ丸御普請掛出精御褒詞

同三卯十二月廿二日出精相勤候ニ付、御足充行三石被下置候

明治元辰十月廿二日御趣意ニ付御役御免被成、且又年来相勤候ニ付御足

充行其儘被下置候

同年十二月五日養父勝左衛門儀年寄候ニ付休息被仰付、御充行

豊田熊太郎

一切米拾五石三人扶持

如此被下置、小役人二被成下、御徒組江被入、予備後拒役被仰付候

同二巳二月廿九日歩隊二被仰付、後整衛隊卜改

同年十月七日病身二付養子久蔵卜申者願之通立替、俸給

豊田久蔵

一切米拾式石三口

如此被下、樂手申付候事

但席柴田久太郎次

但実堀啓次郎弟也

無息中

一明治二巳三月九日鼓手御雇、月々御国札百匁ツ、被下

一同年四月廿六日は迄百匁ツ、被下候処、已米式百匁ツ、被下

同年十月廿九日業前相進候二付、年給一俵被下候事

同年十一月廿五日今般御改革二付、更御充行米三拾三俵式斗四升四合

同三年三月廿二日支度出来次第東京詰申付候事、四月朔日出立

但詰中年給式俵被下候事

同年六月十日樂手申付事

但年給式俵

同年十月廿八日從東京帰

同年十二月十五日一等樂手申付候事

但年給六俵

同年十一月廿八日居住罷在候持地之内二而七十七坪坪地被下候

同四未十月十三日解隊被仰出候二付免職

同年十二月廿八日分営常備

同五申七月

久蔵事

マサヨシ
豊田雅義

富田

富田万五郎 専佐卜改

一切米八石式人扶持

天明三卯年表小坊主江被召出

同五巳年江戸御供詰被仰付

同八申年表御坊主被仰付

寛政元酉年御留守詰被仰付

同四子年御時計役被仰付、支度出来次第江戸詰被仰付

同五丑年奥御坊主被仰付

同六寅年迄詰越被仰付

同七卯年江戸詰被仰付

同十年迄四年詰越罷婦

翌十一未年江戸詰罷越候処、同年八月定府被仰付

同十二申年御納戸御召料掛り被仰付

文化六巳六月隆徳院様御凶変二付表御坊主二被仰付、家内共御国表へ引

越被仰付

同十四年七月廿八日病氣二付相願御暇被下

富田為次郎 文知卜改

一切米八石式人扶持

右同日養子為次郎儀表御坊主二被召出、御充行如此被下

文化十一戌六月二日小坊主被仰付

文政二卯年御供詰被仰付

同三辰年六月廿四日表御坊主二被仰付

同年七月十一日御右筆部屋御坊主不時助被仰付、同廿二日定助被仰付

同四巳三月七日御右筆部屋御坊主五嶋伝養跡被仰付、耆人扶持御増、都合

合八石三人扶持二被成下、御參府御道中御見送り被仰付

同五午年御留守詰被仰付

同七申年同断之処、同十亥年迄四年詰越被仰付

同十一子年江戸詰被仰付、翌々寅年迄詰越

同十二丑正月廿日出精相勤候二付、一統格二被成下

同年五月三日御着帯二付御誕生御用掛被仰付

同年八月三日今般若殿様御誕生御祝儀被為濟御満悦思召、金百疋被下之

同十三寅二月五日若殿様当四月御宮參御用掛被仰付

同年閏三月十三日御帳付見習被仰付、御充行式石御増、都合

一切米拾石三人扶持

文知事

富田平蔵

如此被下、当年御帰国迄勤向是迄之通卜被仰付

同年十月十五日来卯年江戸詰被仰付

天保三辰四月廿日出精相勤候二付、金五百疋被下之

同十二月十一日出精相勤候二付御帳付本役被仰付、御充行式石御増、都合

一切米拾石三人扶持

如此被成下、役中御充行三石被下置

天保三辰年十二月廿八日佐右衛門与改名

同九戌十一月廿五日来亥年江戸詰被仰付候

一切米拾石三人扶持

同九戌十二月十六日出精相勤候二付御充行三石御増、都合如斯被成下

同十二月廿二日江戸詰御免

同十一子年江戸詰被仰付

同十三寅正月廿五日御帳付被指免、一統格元席江被入、御勘定所勤被仰付

同六月廿日一統上席被成下、御広敷添役矢野三太夫跡被仰付候、但席

村上丈左衛門次

弘化三年八月五日役儀其儘小役人格二被成下候

同日支度出来次第江戸詰被仰付候

嘉永六丑年三月廿日御台所目付末松覚兵衛跡被仰付候

同年四月廿日小役人二被成下、役席江被入候

同七寅年四月廿五日御徒平田源蔵不埒之始末、取扱方不参届趣相聞候付

押込、五月十日被指免候

安政五年三月廿九日妻着服心得違之義有之二付、伺之上御奉行共存を以慎、四月七日差免

同六未正月十六日年来出精相勤候二付、御足充行式石被下置候

文久二戌正月十六日出精相勤候二付御取立被成、新番格二被仰付候

同三亥二月十日殿様御上京御供二而出立、三月六日帰着
同四子二月十六日年寄候二付休息被仰付、俸材輔へ御充行

富田材輔

一切米拾五石三人扶持

如此被下置、小役人二被仰付候

同廿六日学問所句読師被仰付、稲葉采女方家来岡田準介預り之外塾生徒、
準介留守中致世話候様被仰付候

元治と改元、十一月十六日句読師其儘外塾師助被仰付候

無息中

一安政四巳四月十八日明道館典籍方被仰付候

一同六未七月十八日文事之儀二付都講内達も有之二付、江戸表

江罷越矢鳴恕介申談厚致修行候様被仰付、右修行中三人扶持被

下置候

一万延元申十月廿日助句読師之儀者被差免、猶又是迄之通学問所

へ罷出致修行候様被仰付候

他門作事材輔与名替

文久二戌七月十一日当秋芝御陣屋詰御雇被仰付、右詰中御扶持

方四人扶持被下置候

一同年十二月二日親対面願之上帰

一同三亥二月十日御供二而上京、六月四日親対面願之上帰、八月

三日帰

元治元子十二月賊徒一件二付出張、御手当銀百匁被下置候

同二丑 上京、二月廿五日帰

慶応元丑五月廿五日右同断之節別段骨折候二付、為御賞銀式枚被下置候
同月廿七日句読師書記方兼被仰付、勤中式人扶持被下置候

慶応二寅八月晦日御帳付被仰付

同三卯二月十一日御趣意二付御帳付被指免

同年三月十六日御趣意二付当分御徒番所勤被仰付、但地廻諸勤共

同四辰三月二日明道館句読師被仰付、役中御足充行三石被下置候

但分岡田準介江御預ケ之外塾生徒致世話候様被仰付候

一準介儀徴士被仰付上京也

同年閏四月十六日明道館訓導被仰付候 月給十俵 御足三石被廢



牧田通鑑

一切米九石式人扶持

明和五子十月十六日御坊主頭牧田伝賀跡被仰付、御充行四石壹人扶持増、

都合拾三石三人扶持被成下、一統格被仰付

明和七寅十二月切米式石被相増、都合拾五石三人扶持被成下、御坊主頭

合三好平左衛門跡御雜用役被仰付候

安永三午三月五日御雜用役合牧野加左衛門跡炭薪役被仰付

同九子五月四日果ル

但明和七寅二月伊左衛門卜改

富田伊左衛門

一切米拾貳石三人扶持

安永九子六月廿九日親伊左衛門為跡目御充行如斯被成下、小算二被仰付
天明三卯九月市郎兵衛と名替

但宝曆十三未十一月廿九日牧田通鑑倅被召出

明和五子十二月富田卜改

安永九子六月廿九日親伊左衛門相果ル、為跡目小算二被仰付候

二付、自分御充行御坊主揚ル

寛政二戌上六条村無毛所改之節取扱不参届二付下代江御下ケ被成、御充
行八石式人扶持被下置、押込被仰付

同三亥九月廿五日御充行並之通拾石三人扶持被成下、小算被召出

同六寅十一月猪左衛門与改

同七卯十二月廿日元之通跡目小算席二御返シ被成下

寛政十年三月廿八日小算小役人二御取立、御切米三石被相増、都合拾

三石三人扶持二被成下、御台所目付被仰付

一切米拾三石三人扶持

同十一未十月廿九日御台所目付合席其儘三国口錢改堀長兵衛跡被仰付

同十二申閏四月十一日御切米貳石御増、都合拾五石三人扶持被成下、役

儀其儘

一切米拾五石三人扶持

都合如斯被成下

享和三亥七月五日明里御藏奉行加藤惣右衛門跡被仰付

文化九申十二月十六日年来実躰相勤候二付、御目錄貳百疋被下置候

同十酉六月三日病死

富田他三郎

一切米拾貳石三人扶持

文化十酉七月十一日親猪左衛門為跡目御充行如斯被下置、小算二被仰付
候

同十一戌十二月廿五日伊左衛門与名替

同十四丑年江戸御供詰

文政七申四月十一日猪左衛門と名替

同十七日長左衛門与名替

同十二丑八月十三日一統格二被成下、御勝手役見習被仰付候

同十三寅三月十日御本丸御普請御用掛り被仰付候

同十一月廿九日小役人二被成下、御勝手本役被仰付、御充行三石御増、

都合

一切米拾五石三人扶持

如斯被成下、役中御足充行三石被下置候

天保四巳正月十六日兼而出精相勤、就中去暮御勘定所御扱方等甚手操宜

格別致心配候段達御聴、御褒詞被成下候

天保四巳十一月廿九日川除奉行青木吉右衛門跡被仰付候

同十二丑四月五日御札所請込斎藤又助跡被仰付候、但席其儘

同十三寅年十二月十六日出精相勤候二付、御足充行式石被下置候

同十五辰正月十六日新札引替之節出精相勤候二付、桐御紋御上下被下置

候、且又同断二付外二金貳百疋被下置候

同年八月廿二日御趣意銀御貸方被仰付候、但席其儘

弘化二巳年正月十六日出精相勤候二付御取立被成、新番格被仰付候、席

伊藤清八郎次

嘉永元申年六月三日病死

富田作助

一切米拾五石三人扶持

同年七月十三日親長左衛門令病死候二付小役人二被仰付、御充行如斯被下置候

同年八月廿五日小役人席其儘御徒勤被仰付

但身分之儀者是迄之通御奉行支配、勤向之儀者御徒頭支配之事

一御徒仲ヶ問座列之儀者御徒組頭之上席たるへき事

嘉永二酉年二月廿五日御徒勤其儘御右筆部屋御帳書方被仰付候

同五子年閏二月十六日御趣意二付御徒勤被指免候

安政二卯三月十四日御軍制御改正御用掛り相勤候二付、銀五匁被下置候

同三辰六月十六日親長左衛門御趣意方勤中御趣意銀取扱不埒之趣有之、

不届至極二付存命罷在候得者被仰付方も可有之候得共、令病死候事故作

助押込被仰付候、七月廿一日御免

安政三辰十二月廿八日左之通名替

作助事

富田長平

同四巳正月廿五日御腰物御拵方被仰付候

万延元申十一月十一日出精相勤候二付、別段之訳を以米式俵ツ、年々被

下置候

文久三亥六月十五日江戸表江出立、八月四日帰

同年十月十三日中将様御供二而上京

同四子正月十六日於京都出精相勤候二付、別段之訳を以御足充行式石被

下置候、但是迄被下候米式俵之儀ハ以後不被下候事

同年二月十三日殿様御供二而帰

元治と改元、六月廿五日昨冬以来宰相様御上京中格別繁勤二付、銀五匁被下置候

同年十月十六日長征出陣、丑二月六日帰

明治元辰十二月五日御足充行其儘御広敷添役被仰付

同二巳十一月廿五日今般御改革、更御充行米三拾五俵四斗五升被下

同三午正月十三日今般御改革二付役儀指免候事

但軍務寮支配之事

同日御家從附属申付候事、但御裏添役勤

同年三月廿四日御簾中様青松院様御東上二付御先立女中引纏出立、四月

廿四日帰

同年七月二日御改正二付役儀指免候事

同日御裏勘定役申付候事、但同日御家從附属指免候事

同年七月十八日五十六歳已上諸勤御用捨之卒族筆頭申付候事

同年十一月晦日触并御番割取扱

同四未二月十七日諸願取次取扱



富田文喜

一三人扶持

文政元寅七月廿五日御勘定所坊主広部万弥跡被召出、御趣意有之当分如

此被下置候

同六未正月十六日

一米八俵式人扶持

如是被成下候

同十二丑十一月十四日御充行其儘御勘定所留附被仰付候

同日勇助与名替

天保元寅二月十二日御武具方下代江

同年十一月廿九日河野八介書役下代被仰付、御充行並之通

一切米八石式人扶持

如此被成下、大坂定居被仰付候

同三辰十一月廿一日御勝手役仮預り大坂御蔵屋敷下代被仰付候

同五年二月六日御金奉行服部三郎兵衛下代へ

同八酉正月晦日同所丹羽与右衛門下代へ

同三月十一日出精相勤候二付、御金方下代勤中役席小寄合格二被成下候

同九戌正月廿六日表御金方定年番被仰付候

同年十一月四日役席其儘御札所御貸方下代へ

天保十一子七月廿五日半右衛門与名替

同八月三日御趣意二付浮下代嶋崎伝太夫仮預り被仰付

同年八月九日楷五郎様大奥御膳所御買物方御坊主兼被仰付候

同年十月九日勤向其儘書役兼被仰付

同十二月十六日出精相勤候二付、小寄合格被成下候

同十四卯閏九月廿五日魏光院様御逝去二付、御勘定所勤被仰付候

同閏九月廿九日御作事方下代へ

同十一月九日御広敷書役へ

同十二月廿一日御広式書役勘定役兼被仰付候

同十五辰二月廿六日当秋江戸詰被仰付

同十五辰八月十六日出精相勤候二付、小算格二被成下候

同九月四日御本殿勤被仰付候

弘化二巳三月廿六日来午春迄詰越被仰付候

同三年二月十七日当午夏御帰国御供女中引纏指添兼被仰付候

同三年四月廿三日出精相勤候二付御充行式石御増、都合

一切米拾石式人扶持

如此被成下候

嘉永元年申年七月当秋江戸詰被仰付、八月十四日出立

同二酉年正月廿五日来戌年迄詰越被仰付候

同年十月廿八日江戸二而出精相勤候二付、小算二被成下候

同三戌年十月廿日来亥年江戸詰被仰付候処、同四亥年正月 秋詰卜被

仰付候、同年八月廿日出立

同五子四月廿五日此度小算之者共以前へ被復忝人扶持御増、都合

一切米拾石三人扶持

如此被成下置候

嘉永五子四月廿五日御住居御普請御用掛出精二付、銀拾匁被下置候

同七寅四月十二日江戸表へ出立

安政二卯年七月二日来辰春迄詰越被仰付候

同年七月廿三日出精相勤候二付式石御増

一切米拾式石三人扶持

如是被成下候

安政三辰正月廿五日当春女中道中引纏添役被仰付候

同年十二月廿日来巳年大奥女中道中引纏添役兼被仰付候

安政四巳二月廿九日出精相勤候二付、前後之例ニ不拘一統格末席ニ被成下候

同年三月廿五日江戸詰出立、然ル処松栄院様御逝去ニ付十月九日帰着

文久二戌四月廿一日江戸詰出立

同四子正月十六日出精相勤候ニ付別段之訳を以小役人格ニ被成下、御勤定所勤被仰付候

慶応三卯正月十六日年来出精相勤候ニ付、御足充行三石被下置候

明治二巳四月廿七日老年ニ付願之通立替、養子亭次郎と申者、御充行

富田亭次郎

一切米拾式石三口

如此被下、跡目小算ニ被申付

無息中

一安政五午七月廿九日算学専致修行候様被仰付

一文久三亥三月廿八日測量方手伝被仰付

一同年八月十三日当秋芝御陣屋御雇被仰付、右詰中御扶持方四人ふち被下置候

一慶応三卯七月廿日算科局御道具預り被仰付

同年十月廿五日同掛りト被仰付

一同年十二月廿二日算科局手伝被仰付、月々銀七拾匁ツ、被下置候

一同四辰八月七日測量方御雇被仰付、御雇勤中一人半扶持被下置候、但是迄被下候銀七拾匁已後不被下候

一明治ト改元、同月十一日越後表へ出立、十二月十九日帰、巳二月廿二日

右出張ニ付十兩被下候

明治二巳五月朔日檢地方被申付、月給米四俵被下

同年十一月朔日今般御改革ニ付檢地方被免

同月六日檢地并絵図方兼申付候事

但月給米四俵当分是迄之通被下候事

同月廿七日會計寮権少属被仰付候

同月廿五日今般御改革、更御充行米三拾壹俵三斗六升九合

同三年四月廿五日戊辰北越出張軍事精励ニ付、御賞典之内十兩被下候事

同年十二月十二日會計寮勤

但十六等ノ二等

同月廿日任准史生 年給未正月今十六俵

但會計寮勤仕 檢地方

同年十一月廿八日居住罷在候屋敷地之内ニ而七十七坪拜地被下候

但九月廿日右地所之儀ハ与力町岩路維平家屋敷讓受候地所也

同四未六月朔日御改正ニ付免職

同廿四日地方掛り申付候事

但十六等之二等

同年十二月十日任福井県史生 檢地方

同五申五月十七日今般陸軍省全国地理図誌編輯御用ニ付、管内明細地図

其他同省達書之廉々取調掛り

同年六月十二日白山麓十八ヶ村地理之儀ニ付、石川県官員ト立合検査掛り申付候事

同年五月名替

亭次郎事

富田知剛 チカウ

同年八月十九日地券掛り兼申付候事
同年十月十八日地券掛り専務

德山虎次郎

一切米拾五石三人扶持

寛政十一未三月十五日德山弥七郎病氣ニ付願之上御立替被下、倅御徒被仰付、御充行並之通被下置

同十二申江戸御留守詰

享和二戌江戸詰

文化三寅十二月勘右衛門と名替

同四卯江戸詰

文化六巳江戸詰

同八未御供筆頭ニ而江戸詰

文化十二亥御供筆頭ニ而江戸詰

同年十二月廿五日安兵衛と名替

文政元寅九月五日小役人格ニ被成下、御堀土居奉行今村孫兵衛跡被仰付

同三辰十二月五日材木奉行青木理兵衛跡被仰付

同七申年六月廿五日役所向潔白ニ相勤候趣相聞候ニ付褒メ被下

同七申九月廿九日御趣意銀御貸方大橋佐次兵衛跡被仰付

同十二丑三月廿九日於役所心得違之趣有之二付、役儀被差免候

同十三寅正月廿九日小役人被成下、御台所目付能勢角太夫跡被仰付候

天保二卯三月十七日御台所向省略格別出精相勤候段達御聴候

德山虎八

一切米拾石三人扶持

天保二卯五月廿五日親安兵衛及大病立替相願、其後令病死候ニ付、無役



川合勘右衛門

一切米拾五石三人扶持

享保六丑五月廿二日小沢猪左衛門代り御徒ニ被召出

元文五申十二月德山事川合と改

寛保元酉十一月廿五日御預所御徒目付被仰付

宝曆五亥八月廿九日休足被仰付

河合勘次郎

一切米拾五石三人扶持

宝曆四戌五月廿八日勘右衛門倅御徒被召出、御充行並之通被下置

同五亥八月廿九日親勘右衛門休息被仰付、倅勘次郎先達而御徒被召出有

之候ニ付、勘右衛門御充行揚

天明六年七月廿九日願之上立替被仰付

河合弥七郎

一切米拾五石三人扶持

右同日親勘次郎跡目御徒被仰付、御充行並之通被下置

寛政四子十二月德山与改姓

跡目小算被仰付、御充行如斯並之通被下置候
同年十月十九日勤役被仰付候

同三辰十二月廿八日安兵衛と名替

同六未年十二月九日来申年江戸詰被仰付候

同十亥十一月十四日御省略御用掛り被仰付候

同十一子四月十二日三国口銭方定役被仰付、家内共々引越被仰付候

同十三寅十一月五日一統格二被成下、御所務方在々趣法掛り被仰付候、

但席逸見多太夫次

嘉永三戌年三月廿一日御所務頭取被仰付候

同四亥二月廿日御時節心得違之趣相聞候二付押込、同廿九日被指免候

同五子十二月十六日出精相勤候二付、小役人格二被成下候

同七寅十一月廿九日御趣意銀御貸方末松半助跡被仰付候

安政三辰五月廿日小役人二被成下、御勝手役被仰付、御充行三石御増、

都合拾五石三人扶持二被成下、役中御足充行三石被下置候

同四巳九月廿五日席其儘明里御蔵奉行長文五右衛門跡被仰付候

但是迄役中被下置候、御足充行三石之義ハ以後不被下候事

万延元申九月十五日左之通名替

安兵衛事

徳山繁右衛門

文久二戌六月廿五日御預所御勝手役田嶋与三右衛門跡被仰付候

但席其儘

同四子正月十六日出精相勤候二付、御足充行式石被下置候

元治元子十二月賊徒一件二付留守御用相勤、依之三拾三匁被下

慶応三卯三月十六日年寄候二付休息

徳山虎八 安兵衛倅

安政七申三月廿日御徒二被召出、御充行近年御定之通被下置候

万延与改元、十二月廿八日左之通名替

虎八事

徳山繁一郎

文久三亥八月御参府増御供被仰付候、八月十七日出立

同十二月江戸へ御上京御供、子二月十三日御供二而帰

元治元子十月廿三日上京、丑二月十三日帰

慶応二寅七月廿六日昼立御飛脚御用相勤大坂表江立寄肥後表へ出立、八

月廿日帰

同三卯三月十六日親繁右衛門年寄候二付立替被仰付、御充行

一切米拾五石三人扶持

如此被下置、是迄之通御徒組二被仰付

慶応三卯八月十一日御徒目付見習被仰付候

同年十一月二日宰相様御上京御供出立、辰三月十一日親対面願着、然ル

処交代無間も二付帰切

同四辰閏四月廿六日今度切支丹宗信仰者百五拾人御預ケ二付、大坂表迄

受取警衛被仰付、五月朔日出立

同年五月廿四日御内御用二而早かけ帰

同年六月廿二日御徒目付本役被仰付、役中御足充行三石被下置候

同月廿五日会征出立、十一月十三日帰、出張二付千五百疋被下、外二十

式両

明治二巳二月廿七日軍政局江附属被仰付、月給十俵被下、三石ハ被廢候

同年六月廿日此度於西京御引渡者有之二付、支度出来次第致上京候様被
申付、同廿三日出立、九月四日歸

同年十一月廿七日刑法寮權少属被仰付

同月廿五日今般御改革、更御充行米三拾五俵四斗五升

同三年四月廿五日戊辰北越出張各所攻撃勉勵二付、御賞典之内六石十ヶ
年令頒授候事

同年九月十九日東京詰被仰付、然ル処十月三日詰被免

同年十月三日断獄方

同年十二月十二日權少属心得勤

但監正寮出仕

同年十一月廿八日居住罷在候持地之内二而九十六坪拜地被下候、未六月

廿日御取消

明治四未六月朔日御改正二付免職

同十五藩庁出仕

但糾彈掛り

同廿四日任福井藩權少属

但糾彈方

同年十二月十日任福井県權少属

糾彈方

同五申五月名替

友永

1

森文栄

一切米八石式人扶持

明和七寅十二月五日親守齋年来相勤候二付、倅文栄表御坊主被召出、御
充行並之通如斯被下置

安永元辰五月十日病氣願之上立替被仰付

森守専

一切米八石式人扶持

右同日養父願之上立替被仰付、表御坊主へ被召出、御充行並之通如此被
下置

森吟賀

一切米八石式人扶持

天明三卯四月九日養父守専病氣願之上立替被仰付、表御坊主へ被召出、
御充行並之通如是被下置

寛政八申十二月良二と名替

文化五辰七月五日不届之儀有之二付立替被仰付

森久三

一切米八石式人扶持

右同年八月廿九日養父良二立替被仰付、養子与三郎与申者表御坊主被召
出、御充行並之通如斯被下置

繁一郎事

徳山繁樹

同日久三と名替

同六巳年江戸御供詰被仰付候

文政二卯二月十七日不寝役庭瀬玄泉跡被仰付

同四巳年江戸御供詰

同年八月三日若殿様御附奥被仰付、来午秋迄詰越被仰付候

同七申年支度出来次第江戸詰被仰付候

同年十月廿三日御附御召料掛り御小道具掛り長詰被仰付候

同九戌年四月十八日来亥年迄詰越被仰付候

同十一子年江戸御供詰被仰付、来丑年迄詰越被仰付候

同十三寅年九月十三日間違之儀有之二付押込

同年十月廿三日来卯年江戸御供詰被仰付候

天保三辰十月廿五日御茶方真柄善佐跡被仰付、但席山口三益次

同十一月七日来巳年江戸御供詰被仰付

同四巳十二月廿日出精相勤候二付一統格被成下候、但席斎藤又助次

同五年十一月十二日来未年江戸御供詰被仰付候

同六未閏七月十五日御遣骸御国江被為入候二付、御道中御小道具役御坊

主兼立婦被仰付候

同七申年二月廿三日来酉年迄詰越被仰付候

同八酉十月十七日来戌年迄詰越被仰付候

同九戌正月廿日当戌年御入部被遊候二付、御道中御道具役兼被仰付候

同年八月廿五日支度出来次第江戸詰被仰付

同十亥三月廿八日御滞府中詰越被仰付

同十三寅六月廿九日御道具役石川玄久跡被仰付、御充行壺石御増、都合

一切米九石式人扶持

如此被成下候

一切米拾石三人扶持

弘化四未正月十六日御坊主頭御道具役兼山口三益跡被仰付、御充行壺石

老人扶持、都合如是被下置候

同年三月二日奥御坊主玉村左伝産穢御免之節、通達無念之儀有之二付伺

之上慎被仰付候、然ル処同七日被差免候

嘉永二酉年五月十六日出精相勤候二付小役人格二被成下、御広敷添役被

仰付候

同日左之通名替

安政三、三月五日年寄候二付立替被仰付候

森久斎 久三養子

一三人扶持

弘化三午五月十一日表御坊主被召出、御扶持方如是被下置候

同年閏五月廿日小坊主被仰付候

嘉永二酉年四月四日表御坊主被仰付候

安政三辰年三月五日養父弥兵衛儀年寄候二付立替、無役跡目小算二被仰

付、御充行

一切米拾石三人扶持

如是被下置

同日左之通名替

久斎事

森弥兵衛

森久斎

安政四巳四月六日先達而勤役被仰付候

同三午正月十日生兵修行指出候

同五午五月三日高間文四郎組菱谷久之助与申者之妹妻女二罷在候内、着

同年九月十五日第三大隊二番小隊申付候事

服心得違有之二付押込、同十二日被差免候

但年給式俵

文久二戌十二月廿八日左之通改性

同年十一月廿三日兵隊指免候事

森事

同月晦日三ノ丸御門番へ

友永弥兵衛

同月四日元清兵衛町御門内二而拝地願之通

元治元子十二月賊徒一件二付出張、御手当銀百匁被下置候

慶応二寅十一月十日小十人組二被仰付、砲発調練等致精勵候様被仰付

同三卯十月十八日御趣意二付席其儘小筒組後拒役被仰付

同年十一月二日宰相様御上京御供出立、辰三月十一日帰

同年五月廿九日御趣意二付後拒役被指免、跡目小算元席江被入候

同四辰七月廿四日大砲隊手伝被仰付

同年九月十八日支度出来次第京都詰被仰付、然ル処同十四日被指免

明治卜改元、十月廿一日奥州会津表江早速出張被仰付、十一月朔日出立、

巳三月四日帰

同月廿五日大砲隊手伝勤中席小十人組二被成下

明治二巳二月廿七日大砲方手伝御免被成候

但小算元席之事

同年六月十七日名替

弥兵衛事

友永弥平

同年八月七日器械製造局下代申付候

同年十一月廿五日今般御改革、更御充行米式拾九俵五升六合被下

同月廿七日御改革二付製造局被廢、依之当役指免候

友永²

三上嘉春

一切米八石式人扶持

享保七寅年十二月朔日御坊主二被召出、御充行並之通如此被下置候

三上嘉伝

一切米八石式人扶持

延享四卯九月晦日嘉春倅小坊主二被召出、御充行並之通如此被下置候

宝曆九卯十一月晦日親嘉春果ル

同十二年正月十三日不寝役御坊主被仰付、当春江戸詰被仰付候

同十三未五月廿九日来申春迄詰越被仰付

安永元辰十月十二日来未春江戸詰被仰付

天明元丑年五月九日奥御坊主被仰付

同四辰年十二月廿五日道寿与名替

同五巳十月廿六日於江戸表病氣願之上御暇被下

三上嘉伝

一切米八石式人扶持

同年十二月十一日養父道寿先達於江戸表病氣願之上御暇被下、跡表御坊

主二被召出、御充行並之通如是被下

寛政四子正月廿九日不寢役被仰付

同五丑正月廿六日当春江戸詰被仰付候

同六寅年七月九日御番之儀二付不参届儀有之押込被仰付、同十八日押込

御免

同八辰年十二月九日来巳年江戸御供詰被仰付

同十一未十一月廿一日来申春江戸表へ家内とも引越定府二被仰付

同十二申四月十六日前夜不調法之儀有之押込被仰付候、同廿四日被指免

享和元酉年八月久留嶋長春跡奥被仰付候

同二戌四月十一日、去ル正月廿日晚御屋形御焼失之節格別相勤候二付、

御酒代被下置候

文化六巳七月廿四日御国表江引越被仰付

同八月廿一日表御坊主被仰付候

三上友古

一切米八石式人扶持

同十三子七月十一日親嘉伝病氣願之上立替被仰付、表御坊主被仰付、御

充行並之通如此被下置候

但享和二戌年五月三日三上嘉伝倅表御坊主定御雇被仰付、壹ヶ年

壹人扶持被下置候

文化二丑十二月十七日壹ヶ年金三両ツ、御増被下、都合金三両

壹人扶持被成下

文化五辰正月十九日靈岸島奥御時計役被仰付候

同六巳八月廿一日常盤橋勤被仰付

同七年十二月二日御国引越被仰付候、翌未年〆御国被召出之通

三人扶持被下置、金三両壹人扶持ハ以後不被下候

同八未年江戸詰被仰付

同年六月九日諸勤御免被成、太鼓致稽古候様被仰付候

同十四年江戸御供詰罷越候処詰延二相成、失却多難洪之趣二付

格別之為御手当銀廿式匁被下置候

同十二亥年江戸詰被仰付候、右之通相勤居候処親嘉伝病願之上

立替被仰付候二付、是迄被下置候三人扶持ハ揚ル

同十四丑年江戸詰

文政二卯年江戸御供詰

同六未年二月十一日御時計役岡田幸円跡被仰付

同年江戸御供詰

同八酉年同断

同九戌年四月十八日来亥年迄詰越被仰付候

同十一子年江戸御供詰

同十二丑年八月廿五日病氣願之上立替被仰付、追而御国表親類共之内二

而致養子候上、表御坊主二被召出候段被仰付候

三上円斎

一切米八石式人扶持

文政十二丑年十二月廿七日養父友古儀、先達而於江戸表病氣願之上御暇

被下、仍之又次郎儀表御坊主ニ被召出、御充行並之通如此被下置、円齋
与名替

天保三辰年六月廿一日謙五郎様御附御坊主当分定助被仰付候

同年八月十六日御同所様御附御坊主被仰付候

同七申年五月十九日病身ニ付願之上楷五郎様御附御免被成

三上久弥

一切米八石式人扶持

同年五月廿五日養父円齋病氣願之上御暇被下、養子安吉与申者表御坊主

江被召出、御充行並之通如此被下置、但席山田清弥次

同十三寅三月十日当秋江戸詰被仰付候

同年五月十六日御時計役被仰付候

同十四卯閏九月廿九日来辰年江戸御供詰被仰付

同十五辰十一月五日来巳年江戸御供詰被仰付候

弘化三年十月十六日来未年江戸御供詰被仰付候

同四未十二月廿六日久悦与名替

嘉永元申年十二月七日当夏急御出府被遊候節、御跡立廻御帰国御供相勤

太儀ニ候段御褒メ被下

同三戌年二月十二日奥御坊主被仰付候、但席江口春誓次

安政二、七月廿三日於御国表不慎之趣相聞候ニ付押込、八月廿三日被差

免候

同四巳十二月左之通改姓

三上事

友永久悦

安政四巳江戸御供詰被仰付、同五午五月十五日帰着

同五午年 江戸詰出立

同六未二月五日格別勤功も有之二付、御茶方御坊主被仰付候

但四月交代迄勤向是迄之通

同七申正月十八日出精相勤候二付、一統格ニ被成下候

同年三月十五日御供ニ而帰着

文久元酉三月十九日御供詰

同年九月晦日御道具役被仰付、御充行壺石御増、都合

一切米九石式人扶持

如此被成下、詰中御茶方兼帯被仰付候

文久三亥十月十三日中将様御供ニ而上京

同四子二月七日御坊主頭御道具役兼被仰付、御充行壺石壺人扶持御増、

都合

一切米拾石三人扶持

如是被成下候

元治元子十二月賊徒一件ニ付御留守御用相勤、依之三拾三匁被下

慶応二寅正月十六日出精相勤候二付小役人格ニ被成下、御勘定所勤被仰

付候

同日左之通名替

久悦事

友永久左衛門

同年十一月十日小十人組ニ被仰付、砲発訓練等致精励候様被仰付

慶応三卯三月十六日御趣意ニ付席御充行其儘御徒組ニ被入候

同年十月十八日御趣意ニ付席其儘小筒組後拒役被仰付候

同四辰六月十一日病身二付御徒組并後拒役被指免、御徒番所勤被仰付候
同年八月十七日京都詰被仰付、右詰中御書使被仰付、九月朔日出立、十

二月十五日歸

明治二巳六月廿一日名替

久左衛門事

友永賢十郎

同年七月廿四日御預人宿所詰申付

同年九月廿九日御藩制御改革之処長々相勤候二付、銀五貫匁被下置候

同年十一月五日去ル二日御預人宿所当番之処、佐藤安之丞清岡美之吉夜

分忍出外宿致候段、心付不申不念二付伺之上慎、同十二日被指免

同月九日今般御改革二付御徒番所勤指免、御預人当番申付候事、但軍

政局可為支配事

同月廿五日今般御改革二付、更御充行米式拾九俵五升六合

同三年三月八日下馬御門太鼓御門三ノ丸南御門当番申付候事

同年六月三日掌政堂当番申付候事



東条仲右衛門

一切米拾石三人扶持

元文元辰八月十六日追廻方小算二被召出

寛延元辰十二月次三右衛門与名替

宝曆六子三月立替被仰付

東条安五郎

一三人扶持

宝曆六子三月十一日病氣願之上御暇被下、倅安五郎江如斯被下、小算見

習被仰付

明和元申四月廿二日御充行拾石三人扶持二御直シ被成下、其後一郎右衛

門与改

一切米拾石三人扶持

明和五子二月廿日小算御徒二被仰付、御充行並之通被下置

一切米拾五石三人扶持

如斯被成下

(天明) 同八申十二月安太夫と名替

寛政三亥三月於江戸表病氣願之上立替被仰付

東条熊藏

一切米拾五石三人扶持

右同日親安太夫立替御徒二被召出、御充行並之通被下置

享和二戌六月十二日去ル朔日御献上物附相勤候節、御品物間違之儀有之

無念之事二候、依之押込被仰付、同十四日押込御免被成

文化元子十二月市郎右衛門と名替

文化四卯九月朔日病氣二付願之上立替被仰付、養子三之助江御充行並之

通拾五石三人扶持被下置、御徒被仰付

東条三之助

一切米拾五石三人扶持

右同日養父市郎右衛門立替被仰付、御徒二被召出、御充行並之通被下置
文化六巳五月江戸詰

同十四江戸御供詰

文政元寅十二月廿六日安太夫と名替

文政六未御供詰

同八酉年江戸御供詰

同九戌年詰越

同十亥年迄詰越

同十一子十二月十六日来丑年江戸詰被仰付

同十三寅年十月廿三日卯御供詰

同十三寅年十一月十一日小役人格二被成下、堀土居奉行山形十兵衛跡被仰付候

天保七申年三月廿九日小役人二被成下、御蔵奉行御切米方御扶持方兼高

橋久助跡被仰付候

天保八酉十二月十三日御台所目付小沢文左衛門跡被仰付候

同九戌閏四月廿七日御家中江御料理被下候御用掛り被仰付候

同十四卯六月十三日先般御家督為御礼惣出仕并御家督を始御祝事二付、

御家中江御料理被下候、依之御用掛り被仰付候

弘化四未五月十一日川崎仁右衛門伺之上遠慮中御台所頭飯兼帯被仰付候

弘化四未年十二月五日御泉水番渡辺第右衛門跡被仰付候、但シ席其儘御

泉水御長屋江引越可申旨被仰付候

嘉永三戌年正月十六日来相勤候二付、御足充行式石被下置候

安政元寅十二月十六日来出精相勤候二付御取立被成、新御番格被仰付

候

同三辰四月廿五日親安太夫年寄候二付休息被仰付、御充行

東条八十八

一切米拾五石三人扶持

如此度被下置、小役人二被成下候

安政四巳四月廿七日松岡合葉製方為御用罷越居候処、同日未刻同所出火二付焼死

東条安太夫

一切米拾五石三人扶持

同年五月廿九日倅八十八於御用先不慮之儀二而致死候段、不便与之御沙汰二候、依之格別之御憐愍を以再勤之上最前之通新御番格二被仰付、御充行如此被下置、外二御足充行式石被下置候

万延元申九月十五日左之通名替

安太夫事

東条一郎太夫

文久三亥四月廿一日病死

同年六月八日東条兵次郎病中願之通養子二被仰付、御充行

東条兵次郎

一切米拾五石三人扶持

如此被下置、小役人二被仰付

文久三亥八月十三日当秋芝御陣屋御雇詰被仰付候、九月三日出立、子九

月九日帰着

元治元子十二月賊徒一件二付出張、御手当銀百匁被下置候

慶応三卯三月十六日御趣意二付小役人席其儘御徒組二被仰付

同年十月十八日御趣意二付席其儘小筒組後拒役被仰付

同年十二月十四日上京、然ル処御模様二付途中引返帰

同月廿六日先達而府中宿陣中不埒至極之儀有之二付、立替之上長く押込被仰付、二月十七日被指免、跡目之者小算二被召出、御充行

東条他次郎

一切米八石式人扶持

如此被下置

同四辰正月四日養兄兵次郎跡小算二被召出候

但伺之上慎、同八日被指免

明治二巳 檢地方手伝

同年十一月朔日今般御改革二付右手伝被免

同月廿五日右同断、更ニ御充行米式拾九俵五升六合

同三年正月十日生兵修行指出候

同午五月十三日拝地前作道二付御定道幅無之、被入替之義ハ裏手抱地之内ニ而拝地振替願之通



生田勘右衛門

一切米八石式人扶持

寛政三亥二月六日養父吉右衛門病氣願之上立替被仰付、跡御代官方下代

江被召抱

享和二戌六月十日御奉行鈴木新八郎下代江入替被仰付

同三亥正月廿五日御代官方下代江帰役被仰付

文化十一戌二月朔日御代官吉田平次左衛門請込下代被仰付

同年十二月九日坂本平左衛門請込下代江

同年八月廿九日横山十郎兵衛受込下代江
(文政)
同四巳十一月廿七日石場畑方支配斎藤太左衛門跡被仰付、但役席江被入候

同五年十月九日出役勤被差免候

生田勘助

一切米八石式人扶持

同年十一月朔日出役浮下代勤被仰付、嶋崎伝太夫仮預り被仰付

同月七日御切米方下代江

同六未十月十二日御金方下代江

同七申二月廿二日古物方下代江

同八酉正月十六日御材木方下代江
同四月廿六日川地権内下代勤へ

天保二卯二月十六日御趣意二付浮下代嶋崎伝太夫仮預り被仰付

同年五月五日服部三郎兵衛下代江

同三辰九月廿五日江戸詰中於役所不念至極之趣相聞候二付立替

生田勇藏

一切米八石式人扶持

天保三辰十月廿一日養父勘助立替被仰付候跡諸下代之内江被召抱、御充
行並之通如斯被下置、嶋崎伝太夫仮預り被仰付

生田勘助

一切米八石式人扶持

同六未七月廿一日養父勇藏病氣願之上御暇被下、勘助与申者家名相続被
仰付被下置候様相願候二付、諸下代之内江被召抱、御充行並之通如斯被
下置、嶋崎伝太夫仮預り浮下代被仰付

同七月廿二日順左衛門与名替

同七申三月廿四日追廻方下代江

同八酉七月晦日与内方下代へ

同九戌十一月四日楷五郎様御膳所勤へ

同十亥九月廿九日明里御藏奉行嶋田九郎左衛門下代被仰付

同十一子十月廿六日御代官伊黒源五右衛門肩下代江

同十二丑八月二日南居領御代官福嶋忠右衛門肩下代へ組替

同十五辰七月廿四日御作事方下代へ

弘化二巳正月十九日御台所方下代へ

同四未四月十一日品ヶ瀬領御代官肩下代へ

翌十二日役席御代官下代惣列松村平助次

同九月十一日妻他行之節着服并髪之飾心得違之趣相聞候二付押込、同月

押込被差免候

同年十月四日広瀬領岡嶋左太夫肩下代江組替

嘉永二酉年七月廿六日芝原領荒川三郎太夫肩下代江組替

同四亥年十月廿日三国領御代官肩下代江組替

同七寅閏七月十二日山岸領御代官肩下代へ組替

安政四巳正月廿五日御預所御代官肩下代へ

同五年二月九日御預所御金方下代へ

同年十二月十一日年来相勤候二付、小寄合格二被成下候

万延元申十二月廿七日病身二付願之上御暇被下、養子円藏与申者諸下代
之内へ被召抱、御充行並之通

生田円藏

一切米八石式人扶持

如此被下置、西村源左衛門仮預り浮下代被仰付候

但右円藏儀御先筒組切替内証仕切株也

文久元酉六月廿五日御預所御金方下代へ

同年十月三日病身二付願之上御暇被下、養子多之助与申者諸下代之内へ
被召抱、御充行並之通

生田多之助

一切米八石式人扶持

如此被下置、野村治右衛門仮預り浮下代被仰付候

但御普請組坪川九右衛門次男二而内証仕切也

同二戌三月十一日玉薬方下代へ

同年五月廿日御材木方炭薪方下代兼へ

同年十二月六日御金方下代へ

同年十二月廿日左之通改姓名

生田多之助事



同三亥九月五日郡方書役下代へ

元治元子十二月賊徒一件出張、御手当三拾五匁被下

慶応三卯正月廿九日御広敷書役江

同四辰二月五日志比品ヶ瀬御代官下代江

同年八月廿五日七領之処九領二相成、志比領江組替

明治二巳七月十九日司計局下代勤申付候事

但租税御所務方手伝江

同月廿五日総会所引立勘定方江 月給壹俵

同年十一月廿二日民政局筆者申付候事

但惣会所勤

同月廿五日今般御改革二付、更御充行米式拾式俵壹斗八合被下候

同三年二月廿四日民政寮算者指免候事

同月廿九日下馬御門太鼓御門三ノ丸南御門番申付候事

同年五月十五日會計寮附属申付候事

但檢地懸り

一中級

同年十二月十二日會計寮勤 檢地方

但准十六等 未正月ヶ九俵

同四未六月朔日免職

同五申八月七日新潟県へ採用二付早々可致出頭事 但辭不行

同年九月十三日坂井港納米中雇申付候事

森守專

一切米八石式人扶持

元禄二巳年被召出、御充行如此被下置

享保十七子正月廿日相果ル

森守斎

一切米八石式人扶持

右同年三月十五日親守專是迄頭役相勤候処果候二付、跡表御坊主二被召

出、御充行並之通如此被下置

安永三年八月六日年来出精相勤候二付、一統格二被成下候

同六酉正月廿四日病氣願之上立替被仰付

森三喜

一切米八石式人扶持

安永六酉正月廿四日養父守斎病氣願之上立替被仰付、跡表御坊主二被召

出、御充行並之通如此被下置

寛政二戌十一月十四日於江戸表果ル

森了悦

一切米八石式人扶持

右同年十二月十日先達親三喜病中願之通立替被仰付、御充行並之通如此

被下置

森了悦

一切米八石式人扶持

同三亥年十月十八日養父了悦病氣願之上立替被仰付、御充行並之通如此被下置

森文右衛門

一切米八石式人扶持

寛政十年七月三日養父了悦病氣願之上立替被仰付、御充行並之通如此被下置、表御坊主二被召出

文化六巳年江戸御供詰

同年四月十五日御時計役被仰付候

同八未年江戸御供詰

同十四年同断罷越候処詰延二相成、失却多難洪之趣二付、格別之為御手当銀貳拾貳匁被下置候

同十二亥年江戸詰被仰付候

同年四月十日此度於御道中役義不参届儀在之二付押込被仰付候、同十五日被指免

同年十一月八日席其儘御時計役御免被成候

文政元寅年十二月廿五日守齋与名替

同五年閏正月朔日御右筆部屋御坊主不時助被仰付候、同月七日不時助被指免

同十三寅年九月廿五日昨年御触通も在之候処、仲ヶ間振退之儀不参届二付叱

天保四巳正月十六日年来相勤候二付、一統格二被成下候

同九戌十二月十六日年来相勤候二付、年々米貳俵ツ、被下置

同十一子九月廿八日伺之上慎被置候処、今日分被指免候

同十四卯十月五日年来相勤候二付一統上席被成下、御広敷添役被仰付、御充行式石老人扶持御増、都合

一切米拾石三人扶持

如此被成下候

同六日文右衛門与名替

森七右衛門 宗佐事

一切米拾石式人扶持

弘化二巳七月廿九日親文右衛門病氣願之上御暇被下、無役小算被召出、御充行如此被下置

一三人扶持

専齋倅

森宗佐

天保十亥七月廿日表御坊主被召出、如此被下候

同十一子九月十二日不慎之趣相聞候二付押込、同十月五日御免
弘化二巳七月廿九日親文右衛門病氣願之上御暇被下、跡小算二被

仰付候二付揚ル

同三年十二月廿八日文右衛門与名替

同四未七月十八日病氣罷在御奉公難相勤候二付御暇相願候、依之願之通被仰付

森皆吉

一切米八石式人扶持

同日祖父文右衛門勤功も有之二付小寄合格被成下、御充行如是被下置、
浮下代二被仰付候、但席村上次兵衛次

同月廿日養父文右衛門御坊主動中御咎被仰付候処、亦復不慎之趣相聞候
二付押込、同八月六日押込被置候処被指免候

嘉永二酉年十一月四日御雜用方下代江

同三戌十月廿日来亥年江戸詰被仰付候

同年十二月廿五日左之通改姓名

森皆吉事

高嶋新八郎

嘉永五子六月十五日志比領御代官方肩下代へ

同六丑六月三日席其儘雨森儀右衛門書役下代江

同七寅年三月廿二日勝木十藏書役へ

同年三月八日江戸詰出立

安政二卯十月十一日内達之趣も有之二付、当分浮下代被仰付候

同三辰六月十六日小算格高嶋勝五郎御趣意方勤中不屈之儀有之二付、御

扶持被召放入牢被仰付候、然ル処右勝五郎実父二付伺之上慎、同廿三日

被指免候

同年同月廿五日右勝五郎同趣之処場所ニおゐて打首被仰付候二付、右同

様伺之上慎、七月五日被指免候

安政四巳五月十八日病身二付願之通御暇被下、養子諸下代之内へ被召抱、

御充行並之通

一切米八石式人扶持

如此被下置、西村源左衛門飯預り浮下代被仰付候
安政四巳閏五月八日左之通改姓

高嶋事

遠山喜太夫

安政六未七月五日御預所御金方下代へ

万延元申十二月四日三国運上会所下代へ、但家内引越

元治元子四月廿二日表御金方下代江

同二丑正月十八日御納戸方下代被仰付、支度出来次第江戸詰、廿八日出

立、寅六月三日帰

慶応二寅正月十五日出精相勤候二付、小寄合格二被成下候

同三卯三月五日御台所方下代江

同年四月十二日宰相様御上京御供出立、八月九日帰

同四辰三月十一日東郷粟田部領御代官方下代江

同年八月廿五日東郷品ヶ瀬領江組替 月給壹俵

明治二巳六月廿九日名替

喜太夫事

遠山要平

同年七月十九日東郷品ヶ瀬收納方下代

同年十一月廿一日今般御改革二付役儀指免候事

但付送り之儀ハ追而御指図相待可申事

同月廿五日今般御改革、更御充行米式拾式俵壹斗八合被下、御門番勤也

同三年二月廿三日民政寮附属申付候事

但引立方算者

高嶋喜太夫

一下級

同年十二月十二日右附屬指免候事

同四未五月廿七日洋人館御普請所増番江



戸田七太郎 中ノ郷御屋鋪御門番

安政七申閏三月廿日巢鴨御屋鋪江引越之上同所御門番被仰付

但右御屋鋪當時御長屋等も無之二付、御普請出来候迄御上屋敷江

仮引越被仰付

文久元酉十月三日当分表御坊主定御雇被仰付

同日名替

七太郎事

戸田尚益

慶応元丑二月十五日出精相勤候二付、御充行其儘表御坊主被仰付候

同三卯三月廿日御趣意二付浮下代二被仰付

翌廿一日名替

尚益事

戸田尚七郎

慶応三卯四月九日江戸御留守中奥御坊主并御茶方御書物方御雇被仰付候

同四辰正月御国表江引越被仰付、二月廿二日着

明治二巳四月十六日御切米月俸方下代江

同年十一月朔日今般御改革二付役儀指免候事

同月廿五日今般御改革、更御充行米式拾俵式斗九升壹合被下

同年十二月十三日当分会計寮決算掛申付候事

同三年三月廿九日御用濟二付右掛り指免候事

同年四月五日歩兵修行指出候也



吉田勘右衛門 金平事

一切米八石

文化五辰八月十三日江口源左衛門組へ被召抱

同十四丑八月廿六日出役下代勤被仰付、御充行並之通八石式人扶持被下

置、古物方門野榮十郎仮預り浮下代被仰付

同年十二月十日御武具方下代へ当分壹人増被仰付

同十五寅正月廿五日炭薪方吉田弁右衛門下代へ

文政二卯十月五日御藏奉行徳山茂左衛門下代へ

同六未正月十七日御金奉行加藤猪右衛門下代へ

同七申四月十二日御預所御代官下代勤へ

同八酉二月十六日表御代官笠原平八下代へ

天保二卯八月十日酒井金五左衛門下代へ

同三辰七月廿四日服部弥右衛門下代へ

同七申三月廿四日井上茂右衛門下代へ

同八酉四月九日広瀬領御代官受込下代へ

同十一子二月廿日御納戸下代へ

同十二丑正月廿四日出精相勤候二付、小寄合格二被成下

同十一月廿九日中領郡方肩下代へ

同十三寅五月十一日御代官受込下代へ

同十四卯八月廿一日勘右衛門事丈右衛門与名替

嘉永元申年十二月十六日出精相勤候二付、小算格二被成下候

同年十二月十七日訳合も有之二付諸下代株二被成下、銀貳貫五百匁上納

被仰付候

同二酉年七月廿六日山干飯領御代官請込下代江組替

同四亥五月十七日年寄候二付御暇被下、俸諸下代之内へ被入、御充行並

之通

吉田直太夫

一切米八石式人扶持

同年六月十七日諸下代之内へ被召抱

同年七月廿一日御切米方粉藏下代兼へ

同年九月十八日御金方下代江当分増

同年十月十日江戸詰与して出立

同年十二月十六日左之通改姓

吉田事

林直太夫

嘉永五子年十月二日粟田部領御代官肩下代へ

安政四巳正月廿五日御趣意二付改而三国山岸領へ

同五年七月廿四日左之通名替

直太夫事

林幸左衛門

文久元酉七月廿五日志比品ヶ瀬領へ

同二戌十二月廿二日三国山岸領地御代官受込下代へ

同四子正月十六日出精相勤候二付、小寄合格二被成下候

同年八月七日金津芝原領御代官受込下代江組替

明治元辰十月十六日此度被仰出二付左之通名替

幸左衛門事

林耕左衛門

同年十二月十六日出精相勤候二付、小算格二被成下候

同二巳六月廿九日名替

耕左衛門事

林耕平

同年七月十九日金津芝原領収納方受込

但月給三俵

同年十一月廿一日今般御改革二付役儀被免候

但付送り之義ハ追而御指図相待可申事

同年同月廿五日御改革二付、更御充行米貳拾貳俵壹斗八合被下

御金土藏并御門番勤

同年十二月廿日改姓

林事

戸川耕平

同三年二月廿四日檢地方手伝申付候事

同年三月五日會計寮附属申付候事

但檢地懸り

一中級

同年十二月十二日會計寮勤 檢地方

但准十六等 未正月令九俵
同四未六月朔日御改正二付免職

七 新番格以下
リ



力丸秋江 京都住居

一 拾五石三人

慶応元丑五月廿五日、貞享之度御暇被下候処数代打続志願殊勝之趣二付、格別之御厚評を以帰参被仰付、是迄被下置候三人扶持之上二御充行十五石也、如此被下置、御徒格二被成下、京都御聞番役支配二被仰付、京住其儘御用向相勤候様被仰付候
同年六月八日左之通名替

秋江事

力丸隆輔

一 慶応三卯正月十二日御留守居方書記役被仰付

一 同四辰六月二日御勤局書記役被仰付、月々金貳百疋ツ、被下置候

但御留守居方之儀ハ是迄之通

但九月九日御勤役之御役名公務方ト御改、御聞番役之面々公用人

ト相唱候様被仰付

一 明治二巳十一月廿五日今般御改革ニ付、御充行米三拾五俵四斗五升

一 同三年四月十日公務局筆者申付候事、後役所ト改

但中級、年給四俵被下候

一 是迄被下候金之義ハ自今不被下候事

一 同年九月廿七日会計寮御用之儀も可相心得事

一 同年十二月廿日十六等心得

一 同四未六月朔日御改正ニ付免職

一 同年八月三日福井県へ引越申付候事

福井藩の下級家臣団

森下 徹

一、下級家臣団の身分的位置

「新番格以下」（松平文庫 福井県文書館保管）は福井藩下級家臣団の人事記録である。原本は七分冊からなっており、弘化四（一八四七）年十一月、人事管理を職掌とする目付が配下の物書を使って作成したものであるという。ただしその後も書き継がれ、明治五（一八七二）年ごろまでの内容を含むとされる⁽¹⁾。個人の履歴が家としての継承とともに記載されるので、下級家臣団のあり方を定量的に知ることができる好個の史料である。

対象となるのは、小役人以下、下代までの階層にあたる。冒頭の前書に、明治二（一八六九）年十月、「今度御改革ニ付、小役人各諸組ニ至まで総而卒族ト相唱」とあるように、明治初年に家臣団が士族と卒族とに区分されたとき、卒族に位置付けられたものとなる（なお標題にある新番格は士分であり、本史料の対象外である）。ここで舟澤茂樹氏の整理を参照すれば、「新番格以下」は表1のような格からなっていた。表示しなかったがいずれも切米と扶持を給付されるものであり、小役人・小役人格であれば一五石・三人扶持、一統の徒は一五石・三人扶持、小算は一〇〜一二石・三人扶持、坊主・下代は八石・二人扶持などの額だった。さらに表示より下には組之者など奉公人クラスがあるが、それは本史料には掲載されない。

またそれぞれの人数について、嘉永五（一八五二）年の「給帳」よりまとめれば表2の通りである。表1とは必ずしも一致しないものの、諸役人・台所目付が小役人、徒目付・徒組頭・雑用係が小役人格、徒組が一統、帳附が一統格にほぼ相当すると思われる。このおよそ五〇〇人が対象となる階層だった。

表1 「新番格以下」の格と役職

格	役 職
小役人	勝手役、蔵奉行、広敷添役、その他
小役人格	徒目付、広敷添役、帳付、料理方、その他
一統	徒
一統格	料理方、帳付見習、坊主頭、その他
小算	小算
小算格	鵜匠、下代
小寄合	料理方、中判
小寄合格	下代
坊主・下代	坊主、下代

舟澤茂樹「福井藩の卒族について」『福井県地域史研究』5、第4表より作成。

表2 嘉永5年「給帳」における「新番格以下」

格	切米	人数
諸役人	12～15石	12
台所目付	12～15石	17
徒目付	18石	14
徒組頭	12～15石	3
雑用役	10～15石	38
徒組	15石	57
帳附	8～15石	30
小算	10～12石	61
小算格	8～10石	40
小寄合役	8～11石	7
中判	8～10石	6
小寄合格	5～10石	61
坊主	8石	62
諸支配（下代のみ）	8石	49
計		457

『福井県史 資料編3』「給帳」より、表1に相当するものを抽出した。また諸支配は切米8石の下代のみを表示した。

なお一統以上は目見として跡目相続が認められ、小算以下と区別されていた。ただし士分は正月二日に藩主の謁見がなされたのに対して、小役人・小役人格は翌三日に大広間での謁見であり、一統のばあいは、正月三日に一同列座のなかを通りかかる藩主に拝謁するだけ、といった区別があった⁽²⁾。藩主との関係において、目見できるかどうか、できるとしてもその仕方をめぐって、さらに細かく差異化されていたわけである。

このような内部の序列を孕みながら、明治二年に小役人から下代までがそれ以上の階層とは区別され卒としてまとめられたのは、すでに以前からあった身分的な区別を引き継いだものに他ならない。すなわち、本史料に掲載のうち、新番組に昇進していた伊藤茂七郎は、天保九（一八三九）年に小算に格下げになった。それについて「不慎之義有之御咎被仰付候処、亦復不埒至極之趣相聞候二付侍御削」と記されている。つまり新番格以上が「侍」であり、そこから外れて表1の階層に下がると「侍」ではなくなる（「侍御削」のだった。明治初年の士一卒の区別は、近世における「侍」＝武士身分とそれ以外との区別に対応していた。

もともと「侍」と区別されるのは、嘉永五年「給帳」における荒子八〇九人をはじめ中間や小人なども同様だったが、それらとも別扱いとされていた。すなわち福井藩の家臣団は「侍」（武士身分）―「新番格以下」での搭載階層―奉公人クラス、という大きくは三層からなっていたことになる。しかもその内部はさらに細かく階層化されていた。一方で、そのいずれも藩主から知らないし切米・扶持を給付されている点では、等しく家中の構成員でもあった。主従制の原理にしたがった、幾重にもなる階層のなかに位置付けられたものとして、これら下級家臣団はあった。

二、家としての相続

こうした家臣団内部における武士身分とそれ以外との区別は、「家督」が認められているか否

かに表現されている。本史料から例をあげてみよう。いま紹介した伊藤茂七郎の父、伊藤新三郎の系譜を見ると、寛政六（一七九四）年に「親庄助為跡目」小算に任命されたあと、文化十三（二八一六）年に小役人、文政三（一八二〇）年に新番格となり、文政九年には新番にまでなった。一代で小算→小役人→新番格→新番と、武士身分である新番に昇進を遂げたのだった。そして文政十二年三月二十五日に「病身二付休息」となり、即日、倅茂七郎が「家督如是无相違被下置」、切米・扶持を引き継いで新番入りしている。このように新番格以上、すなわち明治二年に士とされた階層には、「家督」の相続が認められていたことを確認できる。

一方、本史料に掲載の多くは、個々人の経歴の最後に、「病氣願之上立替被仰付」のように「立替」と記されている。たとえば伊藤熊之助の系譜を見ると、文化元（一八〇四）年五月二十八日「大病二付願之通御暇被下」とされるものの、跡を継いだ養子伊藤松五郎は、同日に「養父熊之助立替被仰付、御擬作如此被下置、御料理方被仰付」として、切米・扶持を継承している。ここでは「御暇被下」ことを「立替被仰付」と言い換えているわけだから、「立替」とはいったん暇を出され、そのうえで再度後継者が召し抱えられるものだったことがわかる。またその三代のち、伊藤弥之助（弥五太夫と改名）は、万延元（一八六〇）年五月三日に病死し、六月十一日、倅に「親弥五太夫病氣及大病立替相願、其後令病死候二付、御料理人被仰付、御充行並之通」と跡目が認められている。ここでも「立替」の手続きをふんでいたことよって相続されており、逆にいえばそれをしないと継承できなかったことになる。このように、「家督」としては認められてなかったとはいえ、「立替」の手続きを経ること事実上は世襲されていたといえるだろう。

じつさい、本史料におけるそれぞれの系譜は、家としての継承が広汎に行われていたことを示している。そうであるからこそ、このような史料も作成されたのであろう。ここで、いろは順に掲載される本史料のうちで、試みに「い」から始まる姓をもつ二七家について系譜を簡略化してまとめてみた（表3）。なお、履歴には下代や徒など格なのか役職なのか判断しづらい記載も多

いが、とりあえずそのまま表示してある。すると、一代限りもあるとはいえ、ほとんどが数代にわたって地位を継承していたことが明らかである。

もつとも系譜を遡れるのは古くても一八世紀半ばであり、多くが一八世紀末ないし一九世紀に入ってから、すなわち三〜四代程度のものが数としては多いように見受けられる。そのことは、たとえば「伊藤7」伊藤清吉について、「表御出居番相勤候由、言伝ニ御座候へとも、被召抱候年月等相分り不申候」と記すように、それ以前における記録の不分明さに、あるいはよるのかもされない。

そこでこうした階層における地位の継承にかんして、法令ではどのように定まっていたのか見てみることにしよう。すると一八世紀半ばに、いくつかの規定が発令されていることが注目される。たとえば寛延元（一七四八）年には、「小役人格之者之跡」について、「年頃之者」であれば一二石・三人扶持で小算に召し抱えてきたものの、小算が減員となるので、五人扶持の浮人としておき、小算に空きが出たとき上述の切米・扶持とするか、ばあいによっては小役人とする、としている⁽³⁾。すでに小役人の跡目は、格下の小算として継承されていたことがわかる。じつさい表3によれば、「伊藤3」「伊藤5」「岩屋」のように、小役人の跡目は小算から、との原則は幕末にもあつたらしい。

またこれに先立つ元文三（一七三八）年には、「御徒之者格已下跡目不被仰付者共」が病死し、倅や養子を後継に願ひ出るばあい、年齢が足りなかつたり御用に立たなかつたりするものを召し出すこともあるとして、今後は年齢に達していることを条件に、「親も相勤候者之倅等之事、其上厄介等有之者抔」について空きが出れば吟味をする、とのことも命じられている⁽⁴⁾。自動的に相続が認められるわけではないものの、地位を家として継承しようとする動向がすでに一般的だったことをうかがえよう。

あるいは寛延元（一七四八）年には、小役人・徒から新番組への昇進は取立から一〇年を経て

表3 伊藤家～稲垣家の系譜

系統	最初の記事	系 譜
[伊藤 1]	慶応2 (1866)	伊藤音之助 = 伊藤又太郎
[伊藤 2]	寛保3 (1743)	伊藤弥右衛門(表料理) - 伊藤弥三次(御料理方) - 伊藤安之助(御料理方) = 伊藤熊之助(御料理方) = 伊藤松五郎(御料理方) = 伊藤円次郎(御料理方) - 伊藤弥之助 (御料理方→一統格→小役人格) - 伊藤弥太郎(小十人組)
[伊藤 3]	延享3 (1746)	伊藤十太夫(下代→小算) - 伊藤直作(小算並) 伊藤庄助(下代→小算→一統格→小役人) - 伊藤新三郎(小算→一統格→小役人→新番格→新番組) - 伊藤茂七郎 (新番組→小算→小役人格) - 伊藤登美太(徒)
[伊藤 4]	寛政7 (1795)	伊藤治左衛門(下代→小寄合格→小算格→小算→一統格) - 伊藤松五郎(小算→小十人組)
[伊藤 5]	天明元(1781)	伊東左次右衛門 (下代→小算→一統格→小役人) - 伊藤万次郎(小算→小役人格) - 伊藤鉄之助 (小算→一統格→小役人格→小役人) - 伊藤左太郎 (小算)
[伊藤 6]	宝暦5 (1751)	天谷多助(下代) - 天谷次右衛門(下代→小寄合格) - 天谷多助(下代) = 天谷欽兵衛(下代) = 伊藤清兵衛(下代) = 伊藤五郎七(下代→小寄合格) = 伊藤金八(下代)
[伊藤 7]	文化8 (1811)	伊藤清吉 = 伊藤庄右衛門 = 伊藤金蔵(下代) = 伊藤清三郎(小寄合格) - 伊藤清五郎 (下代)
[岩屋]	元文元(1736)	岩屋平太夫(小算→小役人格) - 岩屋金四郎 (徒→小役人) - 岩屋滝五郎 (小算→徒→小役人格→新番格) - 岩屋鉢五郎 (小役人→徒目付)
[石川]	寛政元(1789)	石川万斎(一統格→小役人格→小役人) = 石川平蔵(徒→小役人格) - 石川平七 (徒→小役人格)
[岩佐 1]	元文元(1736)	岩佐七九郎(徒→留守番組) - 岩佐与三七(大番組・留守番組) = 岩佐助七 (留守番組→大番組) - 荒木密太郎 (留守番組) = 荒木栄蔵(徒) = 荒木金五郎(徒)
[岩佐 2]	天明4 (1784)	岩佐斧右衛門(下代) - 岩佐尉兵衛 (下代→坊主) - 岩佐友睦(坊主→一統格→小役人格→小十人組)
[五十嵐]	明和7 (1770)	五十嵐門弥(坊主) - 五十嵐門斎(坊主→一統格) - 五十嵐玄意(坊主→一統格) = 五十嵐小一郎(小算) = 五十嵐捨太郎(小算)
[磯野 1]	文化7 (1810)	磯野栄助 (下代→小算格→小算) = 磯野順助 (小算) = 磯野栄太郎(下代) = 磯野金次郎(下代→小寄合格→小算格)
[磯野 2]	文政11(1828)	吉田辰右衛門(下代) = 吉田幸右衛門(下代) = 吉田三蔵(下代) = 吉田鉄次郎(下代→小寄合格)
[石田 1]	享保15(1730)	赤尾曾兵衛(小算→小役人) - 赤尾忠四郎(徒) - 赤尾七五郎(小役人格→新番格) - 赤尾久太郎 (小役人→一統格) = 赤尾久作 (小算) = 赤尾光次郎 (下代)
[石田 2]	天保8 (1737)	武曾長兵衛(下代) = 武曾藤悦 (坊主) = 成田左一郎(下代) = 石田熊三郎 (下代)
[石田 3]	安政2 (1855)	橋本次郎助(下代) 橋本吉之介(下代)
[石丸]	弘化2 (1844)	吉山平八郎 (下代→小算格) = 吉山周蔵(下代)
[飯塚]	天明4 (1784)	飯塚市助 (下代→小算格→小寄合格) 飯塚権吉 (下代→小寄合格→小算格→小寄合格) 飯塚祥介(坊主→下代)
[池田 1]	文化10(1813)	小泉増右衛門(下代) - 小泉助八 (下代→小寄合格→小算格→小寄合格) = 小泉猪三七(下代→小寄合格)
[池田 2]	文化2 (1805)	吉村安右衛門 (下代→小寄合格→小算格) = 吉村兼蔵 (下代) = 吉村国太郎 (下代)
[池村]	天明2 (1782)	松村平助(下代→小寄合格→小算格) - 松村金次郎(下代) = 松村甚蔵(下代→小寄合格→小算格) = 池村良金(小算)
[市村]	延享3 (1746)	山岡猪太夫(徒) 山岡市蔵(徒) 山岡仁蔵(徒) = 山岡市蔵(徒) = 山岡庄兵衛(小算) - 山岡七之助(小算) = 山岡伊三太(小算) = 山岡平左衛門(下代→小寄合格→小算格) - 市村剛一郎(下代→小寄合格)
[猪坂]	文政12(1829)	猪坂平太夫 (下代→小寄合格) - 猪坂慎平(下代→小寄合格)
[岩尾]	文政4 (1821)	藤井久斎 (坊主) = 藤井多之助(小算) = 近藤直吉 (下代) = 杉野久次郎(下代) = 杉野助蔵(坊主)
[稲垣]	文政3 (1820)	野田半右衛門(小寄合格) = 野田半次郎(下代) = 野田伝次郎(下代) = 野田八介(下代) = 本庄石太郎(下代)

-は倅、=は養子・養弟。名前は処罰を受けたもの。明治2年11月「御改革」以後の記事は記載していない。

から、そこからさらに大番組への昇進は四〇年を経てからなど、年数によって昇進までの期間を定める規定も出されている⁽⁵⁾。

このように表3に示されるありかたは、ほぼ一八世紀半ばまで遡ることができそうである。ではさらにそれ以前にはどうだったのか。たとえば一七世紀末の給帳には、小役人四〇人、御貝役・御帳付一五人、小算二六人、あるいは諸手代一二二人などが見える⁽⁶⁾。これらの階層はその後いっそう細分化され、また人数も増えるものが多いようだが、組織の骨格としては近世後期とほぼ同様だったらしい。しかしその段階での再生産のしくみについて、ここで明らかにすることはできない。

三、昇進制

ところでこの史料では、個々人について任用から始まって、いつどういった役職に就き、また昇進したのかといった履歴が逐一記録されている。

そもそも藩の組織において、昇進とはいかほどの意味をもつものだったのか。このことを問題にしたのが藤井讓治氏である。氏は、「上士」の専有する官職と「下士」の専有する官職の間には、ほぼ完全なる断絶が存在していた」との見解に対して、それほど「昇進の世界は閉鎖的であったのだろうか」と問う。そのうえで幕府御家人や小浜藩における官職昇任の例をあげ、「幕藩官僚制下での昇進制は、さまざまな制約をもちつつも、彼らからエネルギーを引出すことで、官僚制機構を生きた運動体たらしめる強力なテコであった」との評価を与えている⁽⁷⁾。

とはいえ表3のなかでは新番、すなわち「侍」身分に上昇できたものはごく少数にとどまっている。もっとも昇進すればこの記録からは外れるのだから、少なくとも当然ともいえる。じっさいのところはどうなのか。そこで舟澤茂樹氏によって紹介された、士分取り立て状況を示すデータを参照しよう。それによると、明和元（一七六四）年から明治元（一八六八）年までに士分に

取り立てられた人数は八〇人（うち六〇人は新番人、残りは大番人や留守番人）とされている⁸⁾。表2の階層のなかから士分に昇進したのは、一世紀ほどのあいだでこの程度であり、やはりごく一部だったというべきだろう。しかしたとえそうではあれ、昇進の回路自体は開かれていたわけで、そのことがこれらの「エネルギーを引出すこと」になった可能性はたしかにある。

しかも表3をみると、一代のうちで「出精相勤候二付」、小算や小寄合などに昇進する例は多い。新番にまで達するものはたしかに少数ではあれ、一ランク程度の昇進は広く見られたことがわかる。もっともそれに伴って切米・扶持が上がるわけでは必ずしもなく、むしろ変わらないばあいが多い。他方で、格と職とが対応するのが藩の組織だから、昇進に応じて務める役職が変わることもあつたらう。昇進が「出精」をうながす動機づけとして制度化されていたのはたしかなようだが、それが個々人にどういった形で内面化されていたのか、なお検討が必要となる。

四、役職への就任状況

次に履歴に即して、かれらが就いた役職についてみておくことにしよう。表3によれば、「伊藤2」のように代々料理方を世襲するものや、「五十嵐」のように坊主を継ぐものもいるが、多くはさまざまな部署に配属され転属を繰り返しつつ、とくに下代として実務を担うものだったらしい。異動の年月日も記されるから、藩庁の実務官僚層の任免状況を定量的に知ることができる。また、「五十嵐」五十嵐捨太郎のように、廃藩置県後に福井県史生に就職したものもいる。福井藩の家臣団が近代の行政機構にどのように引き継がれるのかということも、興味ある点だろう。明治四年以降も書き継がれる本史料は、そうした検討を可能にするものでもある。

これらについては後考を俟つとして、ここでとりあげたいのは、先の昇進とは逆に、処罰を受けたものも多く見えることである。表3では名前をゴチックで表記したものがそれであり、ために降格となることも往々にしてあつた。たとえば江戸屋敷に詰めていた「岩屋」岩屋滝五郎が、

「支配之者締り方不参届候ニ付急度御叱り」となったように、配下の管理責任を問われたものもあるが、多くは「勤中不念之趣相聞候ニ付」（「伊藤5」伊藤万次郎）のように自身の役職上の不始末に起因するものだったと思われる。

しかも、ともに御趣意方に勤めていた「飯塚」飯塚権吉と「池田1」小泉助八が、安政三年、「配当銀等過分申受、殊ニ一旦右銀子高書上ケ候以後、同勤之者及白状ニ付、亦復銀子申受候段相顯候始末不届至極」として格下げになり、罰金を上納させられたことは、業務にかかわる横領行為によつたのではなからうか。あるいは、「岩佐2」岩佐尉兵衛が預所代官下代だったさい、「在方取扱不宜筋相聞候ニ付立替被仰付」たのも、類似の行為だったことを予想させる。単に業務遂行のうえでの不始末というにとどまらず、不正行為による処罰と思しきものが垣間見えるのである。こうした問題に対する藩の対策を、法令のなかにさぐってみよう。すると、天明元（一七八一）年、金津奉行と郡奉行に対して次の達が出されている⁹⁾。

在方江相拘り候役方江近年訳而被仰出候趣も有之候処、等閑ニ相心得候哉御為を不存、私欲之致方有之者共相聞候ニ付、夫々御答被仰付候、尚亦御吟味筋被仰付置候儀も有之候間、支配之者心得違無之様可被申付候、且又下代共儀支配村々6年始・歳暮或ハ願事等有之節、音物取請候儀貪着も無之、定例之様ニ相心得候者共有之趣相聞候、畢竟頭立候下代共申談方不参届不埒之事ニ候間、此段ハ支配頭心得を以呵置候様可致事ニ候、勿論向後聊之音物ニ而も銀子等之取扱無之様、下代・組之者共江可被申付候

金津奉行と郡奉行の配下には下代があり、またさらにその下に組之者（足軽）が配属されていた。ここではとくに下代を名指しして、担当の村々から音物を受け取ることを当然のように心得ていると問題視している。同内容は奉行（勘定奉行）と目付へも宛てられたが、目付宛のものは「近来百姓共役人江まいなひを以取入、不実之願事多く」とあり、賄賂が常態化していたことをうかがえる。

同様な達は遡って宝暦十三（一七六三）年にも出されている¹⁰⁾。このときは預所の代官に対し、「惣而依怙鼻肩不致、聊之品ニ而茂まいなひニ似寄候儀たりとも決而請申間敷候、若如何敷筋相聞候ハ、急度可被仰付候、此段手代共江堅可申付候」と指示していた。やはり手代（下代）クラスが賄賂を受け取る事態を問題視するのである。

もちろんこうしたことは行政組織のなかで一般に見られるものではあろう。しかし頻発する業務上の不始末を理由にした処罰には、そのような役職上の不正行為が繰り返されていた実態が反映されていないだろうか。そもそも近世社会にあつて、役職上の地位を利権化し、しかも集団として独占することはありふれたことである。福井藩の行政機構も、一面では昇進制を組み込んだ合理的な装いをとっているように見えて、他面ではこのような問題を抱え込んでいたように思えるのである。そうした観点からの個々人の履歴の分析もできそうである。

註

- (1) 吉田健「幕末維新期の福井藩人事関係資料（松平文庫）について」『福井県文書館資料叢書9 福井藩士履歴1 あゝえ』福井県文書館、二〇一三年。
- (2) 『福井市史 通史編2 近世』福井市、二〇〇八年、一〇九頁。
- (3) 『福井市史 資料編6 近世四上』福井市、一九九七年、四五三「小役人格以下跡目定」。
- (4) 『福井市史 資料編6 近世四上』三六八「徒格以下跡目ニ付達」。
- (5) 『福井市史 資料編6 近世四上』四四九「土分取立方定書」。
- (6) 『福井市史 資料編4 近世二』福井市、一九八八年、五六「松平吉品給帳」。
- (7) 藤井讓治「幕藩官僚制論」『講座日本歴史5 近世1』東京大学出版会、一九八五年、三五二～三五四頁。
- (8) 舟澤茂樹「福井藩の卒族について」『福井県地域史研究』五号、一九七五年、七五頁。
- (9) 『福井市史 資料編6 近世四上』六五三「下役締方達」。
- (10) 『福井市史 資料編6 近世四上』五三二「預所代官勤方達」。

「与力」について

既刊叢書の解説・参考資料では、「新番格以下」を『与力』から『下代』、すなわち『諸組（足軽）』を除く『卒』身分の藩士の人事記録」として扱ってきた。しかし、嘉永5年時点の与力39名は、慶応2年10月22日までには全て士分に召し出され、「新番格以下」には与力が含まれていないことが判明した。そのため、参考資料の図「各資料と家格などとの関係」を一部改訂した。

鈴木準道「福井藩役々勤務雑誌」（A0143-02352～02354）によれば、与力は「家老上席3人へ10名ずつ、また城代へ9名」付属された。「剝札」の記載からは、この与力のうち武芸師役を勤めていた岡田助三郎（弓術）と慶増安太夫（槍術）の2名が嘉永5年11月14日に「此後猶更家業引立方格別之御評議」によって新番組に、また禁門の変での「大砲差配行届格別相働候」を認められた吉田源八郎は「御賞」として元治元年9月朔日に大番組に入れられたことがわかる。残る36名については「越前世譜茂昭様御代」（A0143-01986）の慶応2年10月22日条に「今度御趣意ニ付与力之者三十六人被召出、新番並組ニ被仰付、御充行廿三石五人扶持宛被下、席之儀ハ家督順ニ被仰付之」とあって全員の名前が列挙されているので、この時から新番並組（新番格）に入れられたことが判明する。

大番組・新番組・新番並組はいずれも士分の家格であるため、与力39名はすべて「剝札」「士族」「士族略履歴」に名前が収載されるようになった。

叢書（藩士履歴）				士分への召出し	
巻	頁	見出し名	出典	日付	家格
1	52	荒川一郎	士族	慶応 2.10.22	新番並組
1	74	浅見他五郎	士族	慶応 2.10.22	新番並組
1	233	岩崎巖	剝札	慶応 2.10.22	新番並組
1	235	岩路彦太夫	剝札	慶応 2.10.22	新番並組
1	239	磯谷要助	士族	慶応 2.10.22	新番並組
1	239	磯松修也	士族	慶応 2.10.22	新番並組
1	240	伊庭藤次郎	士族	慶応 2.10.22	新番並組
2	91	小嶋平馬	士族	慶応 2.10.22	新番並組
2	114	岡田助三郎	剝札	嘉永 5.11.14	新番組
2	142	奥山七郎	士族	慶応 2.10.22	新番並組
2	143	尾崎久馬勝	士族	慶応 2.10.22	新番並組
2	217	梶川喜左衛門	略履歴	慶応 2.10.22	新番並組
2	308	栗間権平	士族	慶応 2.10.22	新番並組
3	4	慶増安太夫	剝札	嘉永 5.11.14	新番組
3	149	佐藤専介	士族	慶応 2.10.22	新番並組
3	182	嶋瀬東右衛門	剝札	慶応 2.10.22	新番並組
3	194	杉田清	士族	慶応 2.10.22	新番並組
4	36	高橋平太夫	役成	慶応 2.10.22	新番並組
4	67	田中新太郎	役成	慶応 2.10.22	新番並組
4	145	寺本仲	士族	慶応 2.10.22	新番並組
4	166	土肥喜三太	剝札	慶応 2.10.22	新番並組
4	265	名越作平	剝札	慶応 2.10.22	新番並組
4	266	成見保	剝札	慶応 2.10.22	新番並組
4	288	丹羽真一	剝札	慶応 2.10.22	新番並組
5	116	畑六平	剝札	慶応 2.10.22	新番並組
5	226	堀彦四郎	士族	慶応 2.10.22	新番並組
5	313	松浦志津雄	士族	慶応 2.10.22	新番並組
6	106	森新八	士族	慶応 2.10.22	新番並組
6	130	山田豊吉	士族	慶応 2.10.22	新番並組
6	185	安井藤八	剝札	慶応 2.10.22	新番並組
6	188	屋代順平	士族	慶応 2.10.22	新番並組
6	189	屋代源吾	士族	慶応 2.10.22	新番並組
6	189	山岡慇而	士族	慶応 2.10.22	新番並組
6	196	湯浅六郎左衛門	剝札	慶応 2.10.22	新番並組
6	215	吉田源八郎	役成	元治 1. 9. 1	大番組
6	224	依田鉄三郎	剝札	慶応 2.10.22	新番並組
6	224	依田官左衛門	役成	慶応 2.10.22	新番並組
6	224	義江半右衛門	役成	慶応 2.10.22	新番並組
6	224	吉江庄兵衛	役成	慶応 2.10.22	新番並組

参考資料

各資料と家格などとの関係

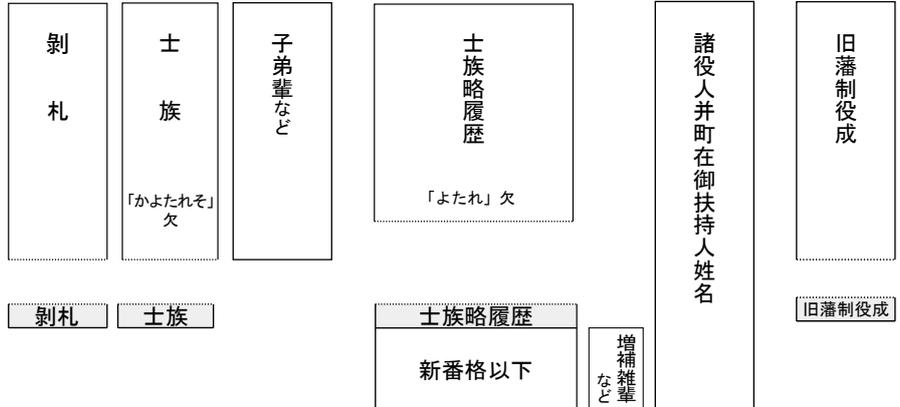
(改訂版。詳細は右頁)

福井藩家臣団の家格別人数

(嘉永5年)

家格	人数
本多家	1
高知席	16
高家	2
寄合席	38
定座番外席	14
番士(役番外)	106
番士(大番など)	495
新番・新番格	81
医師・絵師など	49
士分合計	802
与力	39
小役人	84
一統目見席	87
小算・坊主・下代	347
諸組(足軽)	1,341
卒合計	1,898
家臣団総計	2,700

- ・荒子・中間等の小者973名を除く。
- ・舟澤茂樹氏「福井藩家臣団と藩士の昇進」『福井県地域史研究』創刊号 1970年による。



* 嘉永5年の表にある与力39名は、慶応2年10月22日までに全員が士分として召し出されたため、「剥札」「士族」「士族略履歴」に記載されている。

* なお、嘉永5年の表に載っていないが、元武生家来(府中本多家家臣。ただし物頭以上)の29名も明治2年11月25日の改革で士分とされたため「剥札」「士族」に記載されている。

「新番格以下」及び「新番格以下増補雑輩」「雑輩之類剥札」に掲載されている家数・人数

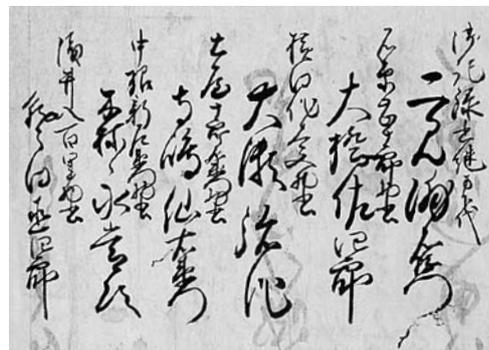
	新番格以下		増補雑輩 人数	剥札 人数
	家数	人数		
イ	27	115	30	1
ハ	30	117	12	
ニ	6	31	4	
ホ	7	36	2	
ト	12	56	2	
チ	1	1	2	
リ	1	1		
ヲ	34	116	10	
ワ	12	61	3	
カ	20	79	13	1
ヨ	26	100	12	
タ	41	173	13	2
ツ	10	41	7	
ネ	1	3		
ナ	17	78	5	1
ム	9	43	3	
ウ	8	42	8	
ノ	17	67		
ク	10	40		1
ヤ	25	98		2
マ	25	103	14	
ケ			1	
フ	16	64	10	1
コ	11	43	4	2
エ	8	27		
テ	2	8		
ア	16	69	7	
サ	25	109	9	1
キ	8	36	2	
ミ	8	43		1
シ	16	75	6	2
ヒ	6	22	4	
モ	7	28	2	
セ	2	7		
ス	4	17	2	1
合計	467	1948	187	16

- ・点線は原本の区切り。
- ・家数・人数のイ〜リは確定値。ヲ以下及び新番格以下増補雑輩・雑輩之類剥札は筆耕原稿などによる概数。
- ・新番格以下増補雑輩・雑輩之類剥札は家として管理されていないので人数のみ。

「書役」について

「新番格以下」1〜7、および「雑輩之類剥札」の巻末にはそれぞれ以下の「書役」が記載されている。「新番格以下増補雑輩」には記されていない。

「書役」について詳しくは吉田健「幕末維新期の福井藩人事関係資料(松平文庫)について」『福井藩士履歴 1 あ〜え』解説を参照。



書役名	「新番格以下」にみえる記事
御記録書継方下代 二見浦右衛門	(弘化四年九月) 同月十八日御目付御記録書継方下代被仰付候
石原甚十郎物書 大橋佐四郎	—
横田作太夫物書 大瀬弥作	(元治元) 同年六月廿四日昨秋詰中御目付御記録書継被仰付、格別出精相働候二付小寄合格二被成下金五百疋被下置候
土屋十郎右衛門物書 寺嶋仙右衛門	天保六未年御目付大関新五左衛門組江被召抱 同十四卯年物書役被仰付
中根新左衛門物書 森永常次	御目付物書 森永儀兵衛(真柄)と同一人物か?
浅井八百里物書 鷺田直四郎	弘化四未年物書役被仰付 弘化四未年十月十九日江戸詰之処御呼返し浅井八百里物書役被仰付

福井藩士履歴 8 新番格以下1 イリ

福井県文書館資料叢書16

令和二年三月十三日 発行

編集発行 福井県文書館

九一八―八二一三

福井県福井市下馬町五二―一

電話〇七七六―三三三―八八九〇

印刷 創文堂印刷株式会社

九一八―八三三一

福井県福井市問屋町一―七

電話〇七七六―三三三―三三三(代)

